百餘名ヲ馘首セリ。是レ彼等ノ行爲ガ市民ヲ脅威シ、且ツ各方面ニ惡影響ヲ與ヘタルガ爲ニシテ、彼等ノ失職ノ苦痛ハ察スルニ餘リアルモ、斯ル場合ニ於テハ涙ヲ揮ツテ之ヲ斬ルノ外他ニ途ナキヲ奈何セン。然ルニ今朝ニ至リ、青山車庫ノ從業員ハ或ハ被解雇者ニ同情シ、或ハ彼等ノ威嚇ニ懼レテ、乘車スル者極メテ少ク、一時ハ大ニ不安ヲ感ジタルモ、本日對案發表ノ結果、午後ニ至リテ形勢頓ニ好轉シ、青山車庫ノ運轉車數五十臺ニ達シ、其他ノ車庫ニ於テモ著キ異狀ナキヲ得タルガ、今後モ勿論警戒ト監視トヲ怠ルコトナカルベシ。玆ニ此報告ヲ爲スニ當リ、余ノ不敏ノ爲ニ、市民諸君ヲシテ少カラザル不便ト不安トヲ感ゼシムルニ至リタルハ、余ノ恐懼措ク能ハサル所ナルコトヲ告白シ、玆ニ謹ミテ陳謝ノ意ヲ表ス。又六百有餘ノ從業員ヲ馘首シタルハ、實ニ遺憾ニ堪ヘザルモ、萬已ヲ得ザルニ出デタルヲ以テ、諸君ノ諒察ヲ乞フ。

此報告ニ對シ、議事日程終了後、**丸山名政君**ハ警告的希望ヲ述ブベシト前提シテ曰ク、既ニ巢鴨ノ從業員六百餘名ヲ馘首シタルガ、他ノ車庫ニ於テモ多少ノ動搖無キヲ保セズトハ當局者ノ言ナリ。而モ市長及ビ局長ハ此際徒ニ從業員ニ媚ビテ、却テ彼等ノ反抗ヲ助長スルノ結果ヲ見ルガ如キコトナク、寛嚴其宜キヲ得ルコトヲ期スベキナリト。次ニ**横山勝太郎君**ハ、假令巢鴨ノ車庫ニ多少ノ怠業アリタリトスルモ、六百人盡ク之ニ加擔シタルニアラザルベシ。然ルニ局長ガ罪ノ輕重ヲ問ハズ、一律一體ニ之ヲ馘首シタルハ當ヲ得タリト言フヲ得ズ、之ガ善後策如何ト問ヘバ、**井上局長**答ヘテ曰ク、丸山君ノ警告ハ謹ミテ之ヲ諒承ス。又横山君ノ質問ハ理ノ當然ニシテ、余モ固ヨリ好テ此擧ニ出デタルニ非ズ、唯今朝火急ノ場合、危險狀態ヲ鎭壓スル爲、斷乎タル措置ヲ執ルノ必要ニ迫ラレ、玉石混淆ノ譏ヲ顧ルニ遑ナカリキ、仍テ之ガ善後策トシテ、今夕ヨリ一週間內ニ悔悟ノ誠意ヲ表シテ復職ヲ出願スル者ニ對シテハ、電車課長ノ選擇ヲ經テ採用スベキ旨ヲ本日正午頃車庫ニ掲示シタルヲ以テ、一兩日中ニハ復職者多數ニ上ルベシト信ズト。

横山君重ネテ、電氣局ニ臨時部委員會設置規程ナルモノアリ、局員ト從業員トヲ以テ委員會ヲ組織シ、何事カヲ協定シツヽアルモ當局ハ之ヲ秘密ニ附セリト聞ク、眞僞果シテ如何ト問ヒ、**井上局長**ハ、此事ハ秘密ニ非ズ、當局トシテハ斯ル委員ノ設置ヲ希望シタルモ、從業員ハ之ニ應ゼザルナリト答ヘ、本問題ニ關スル問答ヲ終レリ。

越エテ五月二十七日ノ會議ニ、**井上電氣局長**ハ左ノ如ク報告セリ。

余ハ交通上市民ニ甚大ナル不便ヲ感ゼシムル事件ニ關シ、頻々此席ヨリ報告セザルヲ得ザルコトヲ深ク遺憾トス。本年二月下旬ニ起リタル電車從業員ノ「ストライキ」ニ付テハ、當時市會ニ報告シタルガ、其後彼等ハ待遇改善案ノ實行ガ或ハ非常ニ遲延スルコトナキカヲ疑フニ至リ、電車賃値上案ガ市會ヲ通過シ、監督官廳ノ許可ヲ得ルノ日ヲ待ツベキ旨ヲ屢〻彼等ニ諭セリ。然ルニ彼等ハ四月二十五日、突然罷業狀態ニ入リ、多大ノ迷惑ヲ市民ニ與ヘタルハ、余ノ實ニ恐縮ニ堪ヘザル所ナリ。當局ガ市會ノ議決ヲ經タル賃錢値上案ノ申請書ヲ監督官廳ニ提出シタルハ四月十二日ナリシガ、爾後數日ヲ經テ、四月十七日大塚出張所ニ於テ先ヅ大塚線ノ一部ヲ休止シ、各車庫ヲシテ直チニ之ニ呼應シテ起タシメントノ審議ヲ凝シタルガ、四月二十五日ノ朝、大塚線ノ一部ハ突然罷業ヲ開始シ、漸次各車庫ニ波及スルノ勢ヲ呈シタレバ、吾々ハ力ヲ協セテ鎭撫ニ從事シタルモ、終ニ功果ナク、大塚線ハ平常ハ日ニ八十臺ヲ運轉シタルニ、今ハ僅ニ十三臺ヲ出デズ、其他ノ方面モ皆同樣ノ狀態ニ陷リ、各車庫ノ從業員ハ此機ニ乘ジテ各所ニ集合シ、團結ノ力ヲ以テ彼等ノ要求ヲ達成センコトヲ誓ヘリ。此要求ノ重ナルモノハ、八時間ノ日給制即時實行、半期賞與即時實行、濫リニ馘首セザルコト、罷業中日給支給ノコト、團體ヲ保全スルコト等ニシテ、若シ此要求ニシテ容レラレザレバ、全部罷業スベシトノ決意ヲ以テ彼等ノ總代トシテ理事長中西伊之助ナル者余ニ面會ヲ求メタルモ、余ハ之ヲ拒絕シ

タルガ、警視總監モ亦中西トノ面會ヲ拒絶シタリト聞ク。斯クテ二十五日夜、警視廳ハ二百人內外ノ從業員ガ大塚ニ集合セルコトヲ探知シ、之ニ解散ヲ命ジタルモ、彼等ハ容易ニ此命令ニ從ハズ、却テ反抗ヲ試ミタレバ、終ニ多數ノ檢束者ヲ出シタルガ、一般ノ從業員ハ此形勢ヲ觀望スルノミニシテ、頑トシテ乘務スルコトヲ肯ンゼズ、偶〻任務ニ就カントスル者アレバ、脅迫シテ之ヲ妨ゲタリ、其間吾々當事者ハ百方手段ヲ講ジテ、從業員ノ反省ヲ促スニ努ムルト同時ニ、監督其他運轉ニ從事シ得ル者全部ヲ使役シテ、日ニ二百三四十臺ノ電車ヲ運轉セシメ、以テ能フ限リ市民ノ不便ヲ緩和スルコトニ努メタリ。然ルニ二十六日以後、形勢漸次好轉シ、任務復歸ノ希望者續出スルニ至リタレバ、忠順ノ誓約ノ下ニ復職ヲ許可シ、五月一日ニハ、殆ド罷業前ノ狀態ニ復歸セリ、但シ電氣局ニテ調査ノ結果、使用ニ堪ヘズト認ムル者百七十五名ヲ諭示解雇シタルガ、其他八十二名ハ猶入監中ナリ。此異變ニ關シテハ、市民諸氏ニ對シ、吾々局員一同ノ洵ニ恐縮ニ堪ヘズトスル所ニシテ、取リ敢ヘス挨拶ノ廣告ヲ新聞紙上ニ揭載セリ。尙今後ハ一層充分ノ注意ト努力トヲ以テ、從業員ヲシテ吾々ノ意ノ在ル所ヲ諒解セシメ、再ビ斯ル事件ヲ惹起スルガ如キコトナキヲ期スベシ、願ハク諒恕セラレンコトヲ。

第七節　電氣局從業員ノ共濟組合ニ關スル條例設定ニ關スル件

三月二十九日ノ會議ニ左ノ議案上提セラレタリ。

第四十七號

東京市電氣局從業員ノ共濟組合ニ關スル條例左ノ通設定スルモノトス

（右傍ノ○印ハ委員會ノ修正　左傍ノ｜印ハ原案削除）

東京市電氣局從業員ノ共濟組合ニ關スル條例

第一條　東京市電氣局所屬ノ雇員以下ノ從業員ハ市長ノ定ムル處ニ依リ其ノ相互共濟及會員全般ノ福利ヲ增進スルヲ目的トスル組合ヲ組織スヘシ

第二條　組合ノ評議委員會ハ電氣局ノ職員ハ電氣局長ヲ除クノ外前條ニ定ムル從業員ニアラサルモ市長ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得電氣局經營ノ事業施行ニ關シ意見ヲ局長ニ提出スルコトヲ得

組合ノ評議委員會ハ局長ノ諮問アリタルトキハ之ニ答申ヲ爲ス可シ若シ此場合ニ於テ答申ナキ時ハ局長ハ其意見ヲ待タスシテ諮問セル事件ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第三條　市ハ每年度電氣局豫算ノ範圍內ニ於テ組合員ノ會費總額ノ三倍ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ交付ス但組合ノ歲計上不足ヲ生シタル年度ニ於テハ組合員ノ退職救濟金養老救濟金支給總額ヲ限度トシ交付金ヲ增加スルコトアルヘシ

第四條　市長ハ電氣局ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

組合ニ評議委員會ヲ置ク

評議委員ハ其定數ノ二分ノ一ヲ限リ電氣局職員中ヨリ電氣局長之ヲ選任ス

評議委員會ハ市長ノ定ムル所ニ依リ電氣局經營事業ノ施行ニ關シテ意見ヲ市長ニ提出スルコトヲ得

評議委員會ハ電氣局長ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第五條　電氣局ノ職員ハ局長ヲ除クノ外第一條ニ定ムル從業員ニアラサルモ市長ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得

組合ノ役員ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

市長ハ電氣局ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第六條　組合役員ノ組織及本條例施行ニ必要ナル事項ニ關シテハ市長之ヲ定ム

市ハ毎年度電氣局豫算ノ範圍內ニ於テ組合員ノ會費總額ノ三倍ニ相當スル金額ヲ限度トシテ組合ニ交付ス但シ組合ノ歲計不足ヲ生シタル年度ニ於テハ組合員ノ退職救濟金及養老救濟金ノ支給總額ヲ限度トシ交付金ヲ增加スルコトアルヘシ

第七條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ大正九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

現在ノ共濟組合ハ本條例施行ノ日ヲ以テ之ヲ解散シ其事業財產及權利義務ハ本條例ニ依リ組織シタル共濟組合ニ於テ之ヲ繼承スヘシ

說明　電氣局所屬ノ從業員將ニ一萬ニ垂ントスルノ狀態ナルヲ以テ、相互共濟及從業員全般ノ福利ノ增進ニ關シ、共濟組合ヲ設立セシムルハ緊切ノ事ニ屬ス。元ヨリ會社時代ニ創立シタル共濟組合アリト雖モ、共事業狹キニ失シ、基礎又鞏固ナラス、從テ組合員ヲシテ安ンジテ業務ニ從事スルヲ得サラシムルノ憾アリ、此ノ如キ狀態ナルヲ以テ、現行及將來ノ狀態ヲ慮リ、條例ヲ以テ共濟組合ヲ更ニ設立セシメ、依テ其基礎ヲ鞏固ニシ、組合ノ事業ヲ擴張シ、從業員ノ安定ヲ計ラムカ爲、玆ニ條例設定ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス。

本案ニ關シ**大庭重治君**ハ、議長指名七名ノ委員ニ付託スベシト發議シタルガ。**小坂梅吉君**、委員ノ數ヲ十五名トシ、調查期間ヲ一週間ニ限定スベシト主張シタレバ。**大庭君**ハ、委員數ニ關シテハ讓步スルモ、期間ノ制限ニハ反對ナリト述ベ。採決ノ結果、多數ニテ一週間以內ノ期限ヲ附スルニ決シ、議長ハ左ノ如ク委員ヲ指名セリ。

中村鐵二　本宮辰次郎　垣見八郎右衞門　竹下延保　大崎清作
岩松兼經　早川庄太郎　佐々木藤市郎　增野豐　川上賢三
波多野友江　堀內伊太郎　角野庄太郎　齋藤知二　前田兼七

委員ハ**竹下延保君**ヲ委員長ニ推シテ、審議ノ末、前記ノ如ク修正スルニ決シ、四月十三日ノ會議ニ於テ、**竹下委員長**ハ其旨ヲ說明シテ曰ク、本報告ハ一見大ニ修正ヲ加ヘタルガ如キモ、**主**トシテ條文ノ配列ヲ更改シタルニ過ギズシテ、其內容ニ至リテハ、毫モ異變ナシト。之ニ對シ、**大庭重治君**、修正案ノ第六條ニ「組合員ノ會費總額ノ三倍ニ相當スル金額ヲ限度トシテ組合ニ交付ス」ト云ヘリ、是レ將來本市ニ支出ノ義務ヲ課スルモノナルガ、其總額幾許ノ豫定ナルカヲ問ヒ。**竹下委員長**ハ、四十萬圓ナリト答フ。**大庭君**重ネテ現在ノ共濟組合ノ資產額ヲ問ヒ。**井上局長**、約八萬圓ナリト答ヘタリ。

丸山名政君、第三條第二項ノ修正意見ヲ述ベテ曰ク、本項ハ評議員ノ二分ノ一ヲ如何ニ選出スルカハ明瞭ヲ缺ク、蓋シ從業員中ヨリ之ヲ採ルノ意ナラン、仍テ本項ヲ「評議員ハ其定數ノ二分ノ一ヲ電氣局職員中ヨリ電氣局長選任シ、他ノ二分ノ一ハ組合員中ヨリ組合員之ヲ選擧ス」ト修正スベシト。

次ニ**橫山勝太郎君**、共濟組合ノ本質竝ニ精神ヨリ云ヘバ、本案ノ第一條ニ揭ゲタル如ク、**主**トシテ雇員以下ノ從業員ガ自治ノ團結ニ依リ、相互ノ福利ヲ增進スルヲ以テ其目的ト爲スハ論ヲ俟タズ、然ルニ第二條ニ據リ、從業員ニ非ザル職員ノ加入ヲモ許ストキハ、圓滿ニ此目的ヲ達成スル能ハザルノ虞アリ、然ラバ則チ第二條ノ精神ハ果シテ何處ニ

在ルカト問ヒ。**竹下委員長**、此條項ハ修正ニ非ズシテ原案ニ明記スルモノナルガ、其意蓋シ電氣局ノ從業員ト職員トノ間ニ意志ノ疏通ヲ計リ、以ヲ電氣事業ノ圓滑ナル進行ヲ期スルニ在リト答ヘ、尚ホ横山君ト委員長及ビ理事者トノ間ニ同一趣旨ノ問答アリタル後。**小久江美代吉君**、修正案ノ提出者タル丸山名政君ニ問ウテ曰ク、評議員ノ定數二分ノ一ハ、組合員中ヨリ組合員之ヲ選擧スト云ヘルガ、電氣局ノ職員モ組合員タル以上、假リニ如何ナル選擧方法ヲ用フルモ、定數二分ノ一ノ更ニ何分ノ一カハ、職員中ヨリ選擧セラルヽノ結果ヲ見ルベキヲ以テ、職員ハ全體ノ二分ノ一以上ヲ占ムルニ至ラン、此ノ如キハ本條例ノ趣旨ヲ沒却シ、此組合ノ精神ヲ破壞スルモノニ非ズヤト。**丸山君答ヘテ**曰ク、評議員ヲ組合員中ヨリ組合員ガ選ブトセバ、從業員ニ非ザル職員ノ選擧セラルヽコトアルハ勿論ナリ、而モ兩者渾然トシテ一ノ共濟組合ヲ組織シ、相互ノ福利增進ヲ計ルトセバ、從業員ノ信任ヲ得テ職員ガ選出セラルヽコトアルモ、毫モ不可ナシト信ズト。斯クテ採決ニ入リ、委員會ノ修正報告ハ、丸山君ノ修正ヲ加ヘテ可決セラレタリ。

第八節　東京市電氣軌道乘車料條例中改正ノ件

三月二十九日ノ會議ニ左ノ議案ヲ上提セリ。

第四十九號

東京市電氣軌道乘車料條例中改正ノ件

大正五年東京市條例第一號東京市電氣軌道乘車料條例中左ノ通リ改正ス

第二條　乘車料金ハ一回九錢ヲ最高率トシ八階級ニ區別ス乘車券ノ種類及其料金左ノ如シ

乘車券ノ種類	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ
片道券	六錢	六錢	七錢	七錢	八錢	八錢	九錢	九錢
往復券	一二	一三	一三	一四	一五	一六	一七	一八
回數券（甲號券（一圓四十五錢））	（二七）枚	（二五）枚	（二三）枚	（二一）枚	（一〇）枚	（一九）枚	（一八）枚	（一七）枚
回數券（乙號券（二圓九十五錢））	（五五）	（五一）	（四七）	（四三）	（四一）	（三九）	（三七）	（三五）
定期券（一期（一ケ月料金割合））	七二・〇〇錢	七八・〇〇錢	八四・〇〇錢	九〇・〇〇錢	九六・〇〇錢	一〇二・〇〇錢	一〇八・〇〇錢	一二四・〇〇錢
同上（一期未滿ノモノニ）	一二〇〇	一三〇〇	一四〇〇	一五〇〇	一六〇〇	一七〇〇	一八〇〇	一九〇〇

乘換乘車券ハ無料トス

定期券ハ毎年二月一日ヨリ七月末日マテ及八月一日ヨリ翌年一月末日マテヲ各一期トシテ發行ス

發行ノ月ヨリ其期間滿了マテ月數六箇月ニ滿タサルモノハ前表記載ノ金額ノ割合ヲ以テ其月數ニ應シ料金ヲ徵收ス但發行ノ日ノ屬スル月ニ在リテハ其日數三十日ニ滿タサルモ之ヲ一月ト看做ス

第三條　陸軍兵卒ニシテ制規ノ服裝帶劍ヲ爲ス者及海軍卒ニシテ制規ノ服裝ヲ爲ス者ニ對シテハ軍人往復券ヲ發行シ最高率ヲ拾五錢トシ左ノ八階級ニ區別ス

乘換券ノ種類	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ
軍人往復券	八錢	九錢	一〇錢	一一錢	一二錢	一三錢	一四錢	一五錢

第五條　前條ニ依ル料金ハ一回八錢ヲ最高率トシ八階級ニ區別ス乘車券ノ種類及其料金左表ノ如シ

乘車券種類	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ
割引片道券	四錢	五錢	五錢	六錢	六錢	七錢	七錢	八錢

割引往復券　八　九　一〇　一二　一三　一四　一五

割引往復券ノ復券ハ前條ノ時間外ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得

第七條　通學回數券ハ一回金七錢六厘ノ割合ヲ最高率トシ八階級ニ區別ス乘車券ノ種類及其料金左表ノ如シ

乘車券種類		イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ
通學回數券	二十五回券	一・〇〇錢	一・一五錢	一・二五錢	一・四〇錢	一・五〇錢	一・六五錢	一・七五錢	一・九〇錢
	五十回券	二・〇〇	二・二五	二・五〇	二・七五	三・〇〇	三・二五	三・五〇	三・七五

通學回數券購入ノ爲發賣所ヘ往復スル場合ニ限リ表紙ヲ使用シ乘車スルコトヲ得

第十九條　料金又ハ乘車券ノ樣式ヲ變更シタル場合ニ於テハ舊乘車券ノ使用ハ其變更ノ日ヨリ三十日ヲ限リトス

但其期間經過後六十日以內ニ於テ市長ノ定ムル所ニ依リ乘車券ノ證明又ハ引替ヲ受ケタルモノハ此ノ限リニ在ラス

第二十一條ノ次ニ左ノ二條ヲ追加シ第二十二條ヲ第二十四條ニ改ム

第二十二條　電氣軌道事業會計ニ準備基金ヲ設ケ其金額ヲ五百萬圓トス

大正十年三月末日又ハ爾後每年九月及三月末日ノ二期ニ於テ前六月ノ收支計算ヲ爲シ電氣軌道事業ノ總收入金カ總經費（經營費、市普通會計編入金、減損補塡金、改良設備費、共濟會交付金、電氣軌道事業公債元利償還金及諸費）ヲ超過スル額ハ準備基金中ニ繰入レ又總收入金ヲ以テ總經費ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ準備基金中ヨリ之ヲ補塡ス

前項電氣軌道事業ノ收支計算ハ市會ノ議決ニ依ル

第二十三條　前條計算期末日ノ準備基金殘額金五百萬圓ヲ超過スルコト二百萬圓又ハ其以上ナルトキハ市長ハ其計算期ヨリ二月以內ノ間ニ於テ第二條、第三條、第五條及第七條ニ規定スル料金表中一級ヲ下シ實施スヘシ

前條計算期ニ於ケル準備基金ニシテ其殘額五百萬圓ヨリ減スルコト二百萬圓又ハ其以上ナルトキハ市長ハ其計算期ヨリ二月以內ノ間ニ於テ第二條、第三條、第五條及第七條ニ規定スル料金表中一級ヲ上シ實施スヘシ

附　則

本條例ノ施行期日ハ大正九年六月一日トシ第二條、第三條、第五條及第七條料金表ノ規定スル「ハ」ニ該當スル料金ヲ實施ス

說明　晩近一般經濟界ハ其動搖極マリナク物價ノ高低一ナラスト雖モ大勢ノ趨ク所ハ益昂騰シ事業ノ經營上年ト共ニ窘窮ヲ感ス本市軌道事業ニ就テ觀ルニ年一年其著シキヲ加フ而モ彼ノ未成線速成計畫ハ豫定ノ經費ニ對シ倍額以上ヲ要スルニアラサレハ之ヲ遂行スルコト克ハス其他從業員ノ待遇費ハ其膨脹尠少ナラス而シテ車輛ノ改造設備ノ改善動力費ノ昂騰等彌々多キヲ致スハ數ノ免レサル所ナリ斯ノ如キ狀下ニ於テ軌道事業ノ達成ヲ圖リ帝都ノ交通ヲシテ利便ノ途ヲ求メント欲セハ一定ノ料金ヲ以テスルハ殆ント可能ノ事ニアラス又一般經濟界ノ狀態ハ何人ト雖モ之ヲ豫見スルコト能ハス頗ル不安定ノモノナリト觀ルノ外ナシ以是料金ノ最低最高ノ範圍ヲ定メ之ヲ數階級ニ分チ以テ經營費ノ移動ニ適應セシムルノ策ニ出テサルヘカラス然リト雖モ實施ノ料金額ハ共總額ニ於テ市編入金公債元利償還金ニ充當スルノ外ハ普ニ經營費ヲ支辨スルニ足ルヲ限度トシ共他ニ又剩餘ヲ生セサラシムルノ趣旨ニ依ラサルヘカラス是即チ從前料金ノ設定ノ例ニ倣ハス準備基金ヲ設ケテ調節ヲ圖リ之カ爲メニ要スル財源ヲ求メ以テ市事業經營ノ確實ト整備等ヲ期セントス之レ本案ヲ提出スルノ所以ナリ

大正年間　第貳章　大正九年　第八節　東京市電氣軌道乘車料條例中改正ノ件　一四五

（參照）

東京市電氣軌道乘車料條例（大正五年東京市條例第一號）

第一條　本市電氣軌道ノ電車ニ乘車スルモノハ料金ヲ支拂ヒ乘車券ヲ受クルコトヲ要ス
五歲未滿ノ小兒ハ保護者一人ニ付一人ヲ限リ乘車券ヲ受ケスシテ乘車スルコトヲ得

第二條　乘車券ノ種類及其料金左ノ如シ

片道券	金五錢	
往復券	金九錢	
回數券		
二十回券	金九十錢	
三十回券	金一圓三十五錢	
五十回券	金二圓二十五錢	

乘替乘車券ハ無料トス

第三條　陸軍兵卒ニシテ制規ノ服裝帶劍ヲ爲ス者及海軍卒ニシテ制規ノ服裝ヲ爲ス者ニ對シテハ軍人往復券ヲ發行シ其料金ヲ金六錢トス

第四條　左ノ時間內ニ於テ乘車スル學生及勞働者ニ對シテハ料金ノ割引ヲ爲ス

自三月一日	至四月末日	午前五時ヨリ	
自十月一日	至十一月十五日	同六時三十分マテ	
自五月一日	至九月末日	午前四時三十分ヨリ	同六時マテ
自十一月十六日	至翌年二月末日	午前五時三十分ヨリ	同七時マテ

前項ノ時間內ニ乘車スル者別段ノ申出ヲ爲ササルトキハ車掌ニ於テ服裝其他ノ事實ニ依リ學生又ハ勞働者ニ非スト確認シタル者ヲ除クノ外之ヲ學生又ハ勞働者ト看做ス

第五條　前條ニ依リ發行スル乘車券ノ種類及其料金左ノ如シ

割引片道券	金三錢
割引往復券	金六錢

割引往復券ノ復券ハ前條ノ時間外ト雖之ヲ使用スルコトヲ得

第六條　中學校令、高等女學校令、實業學校令及小學校令ニ依ル學校並市長ニ於テ之ト同等若クハ其以下ノ學課程度ト認定シタル學校ノ生徒ニシテ通學ノ爲メ乘車スル者ニ對シテハ料金ノ割引ヲ爲シ通學回數券ヲ發行ス
前項ニ依ル學校ノ認定ハ當該學校代表者ノ申請ニ基キ之ヲ爲ス
通學回數券ヲ受ケントスル者ハ在學學校ノ證明書ヲ以テ之ヲ請求スヘシ

第七條　通學回數券ノ種類及其料金左ノ如シ

二十五回券	金七十五錢
五十回券	金一圓五十錢

第八條　通學回數券ノ使用ハ其券面ノ記名人ニ限ル記名人以外ノ者之ヲ使用シタルトキハ記名人ノ承諾ヲ得タルト否トニ拘ラス該回數券ノ全部ヲ無效トス

第九條　通學回數券ノ使用者ハ其券面ニ指定シタル停留場以外ニ於テ乘降又ハ乘換ヲ爲スコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル事故アルトキハ指定ノ停留場ニ到着スル前降車スルコトヲ妨ケス
前項但書ニ依リ降車スル場合ニ於テハ乘繼ヲ爲スコトヲ得ス

第十條　通學回數券ノ有效期間ハ其發行ノ當月及翌月中トス

第十一條　通學回數券ハ同一生徒ニ對シテハ同月中ニ於テ五十回券一册又ハ二十五回券二册以內ニ非サレハ之ヲ發賣セサルモノトス
通學回數券ヲ亡失シタル場合ニ於テハ相當ノ證明アルトキニ限リ前項ノ制限ニ依ラスシテ其再發賣ヲ爲スコトアルヘシ
前二項ノ規定ハ通學回數券ハ通學回數券ノ承繼者ニ之ヲ準用ス

第十二條　左ノ場合ニ於テハ通學回數券ハ在學學校ノ證明書ヲ以テ乘車券面ノ書換ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
一　記名人カ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキ但シ居住所ヲ變更スルモ券面指定ノ停留場ニ於テ乘降又ハ乘換ヲ爲ストキハ此限ニ在ラス
二　記名人ノ在學學校ノ名稱又ハ所在地ニ變更アリタルトキ
三　記名人カ在學學校ヲ變更シタルトキ
四　他人ノ通學回數券ヲ承繼使用セムトスルトキ

大正年間　第貳章　大正九年　第八節　東京市電氣軌道乘車料條例中改正ノ件

第十三條　乘車券面ノ記名人カ在學學校ヲ去リタルトキ又ハ其學校ノ廢校トナリタルトキハ其通學回數券ヲ無效トス但シ前條ニ依リ書換ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

乘車券面ノ記名人カ在學學校ヲ去リタルトキハ其學校ヨリ其旨ヲ本市電氣局ニ通知スルコトヲ要ス廢校ノ場合亦之ニ準ス

第十四條　通學回數券ニ依ル乘降及乘換停留場ノ指定ハ本市電氣局ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ券面記名人ノ請求ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第十五條　乘換乘車券ヲ交付スル場合ニハ乘換ノ時間及停留場竝行先等ヲ指定ス

指定ノ時間内ニ指定ノ停留場ニ於テ乘換ヲ爲ササルトキ又ハ指定ノ行先ヲ變更シタルトキハ其乘換乘車券ヲ無效トス

第十六條　市長ハ特別ノ事由アル場合ニ於テハ團體乘車ノ爲メ貸切乘車券ヲ發行シ一車ノ貸切ヲ爲スコトヲ得

貸切乘車券ノ料金ハ片道ノ場合ニ在リテハ貸切車ノ乘車定員ニ對スル普通片道券料金ノ二倍以下、往復ノ場合ニ在リテハ普通往復料金ノ二倍以下ニ於テ市長之ヲ定ム

第十七條　既納ノ料金ハ事由ノ如何ニ拘ラス之ヲ還付セス

第十八條　市長ハ事業上ノ必要其他特別ノ事由アル者ニ對シ無料ノ乘車券ヲ發行スルコトヲ得

第十九條　乘車券ノ樣式ヲ變更シタル場合ニ於テハ舊乘車券ハ其變更ノ日ヨリ九十日以内ニ新乘車券ト引換ヲ爲スニ非レハ其期間經過後ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十條　電車係員ノ請求アリタル場合ニ於テ乘車券ノ檢査ヲ拒ミ若ハ乘車券販賣ノ際之ヲ渡ササル乘車人ニ對シテハ相當料金ヲ支拂ハシメ尙五圓以下ノ過料ニ處ス無效ノ乘車券ヲ以テ乘車シタル者亦同シ

第二十一條　乘換乘車券ハ有償タルト否トニ拘ラス之ヲ讓渡又ハ貸與スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處ス其乘換乘車券ヲ讓受又ハ借受ケタル者亦同シ

第二十二條　本條例施行ノ細則及乘車規定ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本條例施行ノ期日及本條例施行前ニ發行シタル乘車券ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム

明治四十四年市告示第六十二號中電車乘車賃ニ關スル規定竝同年市告示第六十六號ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

大正五年東京市條例第一號東京市電氣軌道乘車料條例中左ノ通改正ス（大正八年十二月二十五日市會議決）

第二條　乘車券ノ種類及料金左ノ如シ

定期券	金六十圓	
片道券	金五錢	
往復券	金九錢	
回數券		
	二十回	金九十錢
	三十回	金一圓三十五錢
	五十回	金二圓二十五錢

乘換乘車券ハ無料トス

定期券ハ毎年二月一日ヨリ七月末日マテ及八月一日ヨリ翌年一月マテヲ各一期トシテ發行ス發行ノ日ヨリ其期間滿了迄月數六箇月ニ滿サルモノハ一月金十圓ノ割合ヲ以テ其月數ニ應シ料金ヲ徵收ス但發行ノ日ノ屬スル月ニ在リテハ其日數三十日ニ滿サルモ之ヲ一月ト看做ス

第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

通學回數券購入ノ爲發賣所ヘ往復スル場合ニ限リ表紙ヲ使用シ乘車スルコトヲ得

第十條中「其發行ノ當月及翌月中トス」ヲ「其發行日ヨリ翌々月ノ末日迄トス」ニ改ム

附　則

本條例施行期日ハ別ニ市長之ヲ定ム

本案ニ關シ**井上電氣局長**ハ左ノ說明ヲ爲セリ。

現行乘車賃ハ前ノ奥田市長ガ電氣局ノ營業狀態ニ鑑ミ、往復壹錢ノ値上案ヲ提出シテ市會ノ協贊ヲ得タルモノナリ。爾來三四年ヲ經タル今日ニ於テ、更ニ本案ヲ提出シテ諸君ノ審議ヲ煩ハスハ恐縮ニ堪ヘザルモ、本市交通機關ノ發達ノ爲實ニ已ヲ得ザルナリ。蓋シ奥田市長提案ノ當時ハ、世界大戰ノ初期ニ屬シ、經濟界モ未ダ今日ノ如

キ亂調ヲ呈セザリシノミナラズ、勞働問題モ亦今日ノ如ク尖銳化セザリシヲ以テ、壹錢ノ値上ハ、以テ電氣局ノ財政ヲ調和シ、且ツ從業員ノ優遇、電車ノ改良ニ資スルニ足ルト信ズベキ理由アリタリ。然ルニ最近ニ至リ、物價ハ奔騰シテ底止スル所ヲ知ラズ、勞働問題ハ何レノ點マデ發展スルカヲ豫知スルヲ得ザルノ狀勢ト爲レリ、故ニ乘車賃ニ於テ値上當時ノ豫想ヨリ年額約貳百萬圓ノ增收ヲ見タルニ拘ラズ、經費ハ遙ニ其以上ニ達シ、人件費ハ提案當時ノ大正五年ニ比シ、約二十二割、物件費ハ十七割ノ增加ヲ示セリ。他面ニ於テ、乘客ノ數ハ非常ノ勢ヲ以テ增加シツヽアルモ、軌道ノ延長、車輛ノ製作及ビ修繕等ハ、總テ意ノ如クナラズ、今ニ於テ根本ノ對策ヲ講ズルニ非ズンバ、帝都唯一ノ交通機關ハ、終ニ著ク其能率ヲ減殺スルニ至ラン、是レ余等局ニ當ル者ガ、百方苦心ノ末、敢然本案ヲ提出シタル所以ナリ。蓋シ東京市現下ノ要望ハ、徒ニ消極策ヲ弄スルコトナク、積極的計畫ヲ樹テヽ、充分ニ交通ノ效果ヲ擧グルニ在ルハ論ヲ俟タザル所ニシテ、現ニ昨年內務大臣官邸ニ於テ、市長、市參事會員及ビ內務省、警視廳、東京府、鐵道院等ノ幹部ガ、電車問題ニ關シテ意見ノ交換ヲ行ヒタル際ニモ、資本金壹億貳千萬圓、從業員一萬以上ヲ擁スル電氣局トシテハ、今日ノ組織ハ狹小ニ失ス、宜ク之ヲ擴大シテ、以テ市民ニ滿足ヲ與フルコトヲ期スベシトノ提言アリタリ。而モ現在ノ電氣局ハ、斯ル要求ニ應ズベキ資金ヲ有セズ、是レ値上ノ已ムナキ一理由ナリ。次ニ勞働問題ハ、歐米諸國ト同ク、我國ニ於テモ亦着々其勢ヲ加ヘツヽアリテ、昨秋以來、余ガ此議場ニ於テ屢〻言及シタル如ク、從業員ノ要求ニ係ル八時間制及ビ將來ノ生活安定等ノ問題ヲ滿足ニ解決スルガ爲ニハ、少カラザル經費ヲ要スルヲ以テ、荏苒歲月ヲ累ネ、終ニ昨年末ヨリ本年初頭ニ亘リタル事態ヲ釀スニ至レリ。而モ勞働者ノ生活安定問題ハ、之ヲ今日ノ社會狀態ヨリ見ルモ、又世界ノ大勢ヨリ見ルモ、長ク放任スルヲ許サヾルノ狀勢ニ在リ、故ニ當局ハ調査研究ノ末、不充分ナガラ從業員ノ待遇案ヲ得タルガ、之ヲ實行スルニハ約參百萬圓ヲ要ス、是レ値上ノ第二ノ理由ナリ。其他現在百七十哩ニ達スル線路ノ修繕改造ニ要スル金額約參千萬圓、此線路ニ對シテ千二百臺ノ單車及ビ「ボギー」車ヲ運轉スル爲ニ、車輛ノ改造及ビ新造ニ要スル經費約千五百萬圓、物價騰貴ノ結果減損補塡金ノ增加ニ要スル金額約七拾四五萬圓、以上ノ諸費ニ應ズル爲ニ、年々新ニ約八百萬圓ヲ要スルヲ以テ、已ヲ得ズ此値上案ヲ提出シタル次第ナリ、願ハクハ本市唯一ノ交通機關ヲ能フ限リ完全ナラシメ、以テ市民ノ利便ニ資セントスル當局ノ精神ヲ諒トシ、審議ヲ盡サレムコトヲ。

此說明終ルヤ、**大庭重治君**、現在ノ混雜緩和ハ、此値上ノ主要問題ナルヤト問ヒ。**井上局長**、値上ニ因リテ、直接現今ノ混雜ヲ緩和スル能ハザルモ、既述ノ如ク車輛ノ改良增發ニ依リ、幾分之ヲ爲シ得ベシト信ズト答ヘ。**大庭君**、十五名ノ委員付託ヲ發議ス。加藤議長ハ、猶質問ノ通告者アリトテ小久江美代吉君ヲ呼ベバ、同君ハ質問ヲ撤回シ、天利庄次郎君モ同ク撤回シタル後。**作間耕逸君**ハ、曩ニ市參事會ニ於テ市長ニ質問シタルト同一ナルモ、念ノ爲メ改メテ問フベシトテ、將來市ノ電氣特別經濟ガ剩餘ヲ生ジタル場合、一般經濟ヘノ編入金ヲ增額スルノ意ナキヤト質シ。**井上局長**、市參事會ニ於テ答辯シタル所ト異ナラズト答フ。次ニ**南鄕君**問ウテ曰ク、値上ニ由ル收入ノ增加ハ幾許ナルヤ、又往年僅ニ壹錢ノ値上ヲ爲シタル際ニ於テスラ、日比谷公園ノ市民大會ト爲リ、騷擾事件ト爲リ、遂ニ刑事被告人ヲ出シタルガ、當時理事者ノ言明セル電車ノ改良、豫定線ノ完成等ハ、爾來毫モ實現セラレズ、今四錢ノ値上ヲ爲サバ、理事者ハ果シテ之ヲ實現シ得ルノ確信ヲ有スルカ、更ニ又余ノ調査シタル所ニ據レバ、今月二十九月午前ニ運轉セル電車ノ數ハ百六十六臺、同午後ニハ九百三十四臺ニシテ、現在電車ノ總數千九百三十餘臺中、六百餘臺ハ修繕中ニ屬セリ。猶又當局者ハ常ニ電車數ノ不足ヲ訴ヘツヽアルニ拘ラズ、大正八年七月以來、王子、橫濱電氣、其他

城東等ノ會社ニ賣下ゲタル車數ハ二十四臺ニ達セリ、且ツ本年三月、電氣局ハ能勢電車會社ニ一臺四千圓内外ノ價格ヲ以テ五臺ヲ賣渡シタルガ、電車ノ新造ハ壹萬餘圓ヲ要スルガ故ニ、廢車ニ非ザル以上、此ノ如キハ濫賣ニ非ズヤ、最後ニ本月十九日、余ハ本石町常盤橋間ニ「ボギー」車ヲ運轉セルヲ目撃シタルガ、此線路ニハ殆ド乘客ナク、之ヲ廢止スルモ不可ナキニ似タルニ、却テ「ボギー」車ヲ使用セルノ理由如何ト。**井上局長**答ヘテ曰ク、値上後ニ於ケル增收ハ、年八百萬圓ノ豫定ナリ、又未成線ノ速成ニ關シテハ、前回ノ値上後、大正七年五月之ガ爲ニ要スル參千五百萬圓ノ募債許可ヲ監督官廳ニ出願シタルガ、從來路幅九間以上ヲ條件トシタルニ、今後ハ十間以上十三間以下タルベキコトヲ條件トシテ之ヲ許可セリ、五十四哩ノ新線ヲ敷設スル爲ニ、路幅ヲ九間ニ擴築スルトシテモ、九百何拾萬圓ヲ要ス、然ルニ之ヲ十間以上十三間以下トスルトキハ、其上更ニ千四五百萬圓ヲ要スベキヲ以テ、前述ノ條件ニ從ヘバ、財政計畫ヲ根本的ニ變改セザルベカラザルノミナラズ、今日ノ狀況ニ於テハ、募債モ頗ル困難ナルノ感アリ、此等ノ點ニ關シ種々ノ疑問ヲ生ジタレバ、之ヲ監督官廳ニ質シタルニ、今尚ホ回答ニ接セズ、因テ先般疑問ヲ別トシテ、募債ノ許可ヲ懇請シタル結果、前陳大正五年五月ノ出願ニ對シ、今回辛ウジテ其許可ニ接シタルヲ以テ、自今直ニ實行ニ移ルヲ得ベシ、但シ此間電氣局ノ貯金六七百萬圓ヲ以テ、已ニ四哩ヲ竣成シ、三哩ハ着手中ナルモ、貯金モ殆ド盡キタレバ、今後ハ公債ニ特ツノ外ナキコト勿論ナリ。又先般賣渡シタル二十餘臺ハ、廢車二百六十臺中ノ一部ナルガ、地方ニ於テハ寧ロ無キニ勝ルトシテ之ヲ買受ケタリ、本市ニ於テハ昨年七月二百臺ノ新「ボギー」車ヲ註文シ、現ニ六七十臺ヲ受領シタルヲ以テ、此賣渡シノ爲ニ輸送力ニ影響スルガ如キコトナシ、又本石町ニ「ボギー」車ヲ使用シタルハ、常用ノ一臺破壞シタレバ、一時的ニ之ヲ以テ補充シタルニ外ナラズト。**南君**再ビ、銀座通ノ電車軌道ヲ半歲ナラズシテ四五回モ修繕セルハ、工事ノ缺陷ニ因ルカ、或ハ貨車自動車ガ頻繁ニ疾驅スルニ因ルカト問ヒ。**井上局長**、後

者ナリト答ヘ。**南君**重ネテ、現ニ損害ヲ蒙ル上ハ賠償ヲ要求スルノ意ナキカト問ヘバ。**山崎助役**、電氣局トシテハ賠償要求ノ權利ナキモ、東京市トシテハ適當ノ機會ニ、此權利ヲ主張シ得ベシト信ズト答フ。

次ニ**横山勝太郎君**ハ左ノ質問ヲ爲セリ。

本案ノ說明書ニ據レバ、値上ノ理由ハ經濟界ノ動搖ニ伴フ物價ノ昂騰ニ在リト云ヘリ、今井上局長ノ說明モ亦然リ。蓋シ物價ノ騰貴ハ事實ニシテ、或ハ五割、十割、甚キハ三十割、四十割ニ達シタルモノ亦無キニ非ズ、而モ是レ今日ニ始マリタルニ非ズシテ、五年前世界大戰ノ勃發及ビ帝國ノ此大戰參加等ノ結果ニ外ナラズ、而シテ現今ニ於テハ、之ヲ財界ノ傾向ニ徵スルニ、物價ハ將ニ低落ノ兆ヲ示シツヽアルガ如シ。故ニ物價騰貴ヲ理由トスル値上ノ要求ハ、數年前ニ爲サルベクシテ、今ハ其時機ニアラズ。顧フニ市長及局長ハ、斯ル口實ノ下ニ、目下不穩ノ狀態ニ在ル電車從業員ノ懷柔ニ必要ナル武器ヲ求メントスルニ非ザルナキカ。之ヲ要スルニ本案ガ若シ物價騰貴ニ基因スルトセバ、當局ハ怠慢ノ責ヲ免レザルベク、又勞働問題ニ基因スルトセバ、名ヲ物價騰貴ニ藉リテ、市民ヲ欺クモノニアラズヤ。第二、我々市民ガ電車ニ對シテ第一ニ要求スルモノハ、未成線ノ速成ニ非ズ、車輛ノ改善ニ非ズシテ、乘客ノ緩和ナリ、然ルニ電氣局長ノ答辯ハ、此問題ヲ等閑ニ附スルニ似タリ。若シ夫レ値上ノ結果、乘客數ハ自然ニ減少スベキヲ以テ、間接ニ緩和ノ目的ヲ達シ得ベシト爲スガ如キコトアラバ、是レ電氣局長ノ恕スベカラザル罪惡ナリ。大正五年、奥田市長ガ乘車賃ノ値上ヲ要求スルニ方リ、之ガ爲ニ五分ノ乘客ヲ減スベシト言明シタルガ、當時ノ數字ニ據レバ、一年間ノ乘客總數約二億六七千萬人ナリシガ故ニ、其五分ハ即チ約一千五六百萬人ニシテ、値上ノ爲、此ノ如キ多數ノ下層階級ガ電車賃ノ負擔ニ堪ヘズトセバ、是レ看過スベカラザル社會問題ナルガ、今回ノ値上モ亦同樣ノ意義ヲ含ムコトナキヤ。第三、今ヤ電氣局長ハ電車從業員ノ勞働問

題ノ爲ニ周章狼狽シツヽアルガ、其配下ニ七八千人ノ從業員ヲ有シナガラ、今日マデ此問題ノ調査研究ヲ怠リタルハ、其不用意、不熱心ニ驚カザルヲ得ズ。且又當局者ハ値上ニ依リテ約八百萬圓ノ增收ヲ見積レリト云ヘルガ、余ハ遙ニ其以上ニ達スベキヲ信ズルモ、此多寡ハ暫ク措キ、爰ニ考慮ヲ要スルノ點ハ、如何ナル階級ガ値上ノ爲ニ最モ大ナル苦痛ヲ感ズルカト云フニ在リ、即チ値上ハ上流社會ニ殆ド何等ノ苦痛ヲ與ヘズシテ、第三階級以下ノ人々ヲ苦ムルガ如キ方針ニ出ヅルヲ見レバ、理事者ハ社會問題ニ關シ、果シテ一定ノ政策ヲ有スルヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ズ。要スルニ電車賃ノ値上ハ絕對必要ノ場合ニ於テノミ之ヲ爲スベキニ拘ハラズ、車輛ノ改良、動力費ノ增加等、從來値上ヲ爲サズシテ實行シ來リタル問題ノ爲ニ、物價下落ノ傾向ヲ呈セル今日ニ於テ、却テ過大ノ値上ヲ爲スハ、社會政策ヲ破壞スルモノニ非ズヤ。

此質問ニ對シ、**井上局長**答ヘテ曰ク、値上ノ理由ハ既ニ述ベタル如ク、物價騰貴、從業員ノ待遇改善、線路ノ改良、電車ノ新造、車輛ノ改造ノ五ケ條ニ外ナラズ。又値上ニ依テ得タル金額ガ過不足ヲ生ジタル場合ニハ、本案ハ實費主義ナルガ故ニ、實費ニ依テ賃錢ヲ上下シ、例ヘバ本案中ノ(ハ)ニ在ルモノヲロニ改メ、以テ調節ヲ計ルヲ得ベシ。又余ハ値上ニ依テ乘客數ヲ緩和スルガ如キ狡猾ナル計畫ヲ爲スモノニ非ズ、運轉系統ヲ改良スルト同時ニ、車數ヲ增發シ、以テ此目的ヲ達スルコトハ、提案ノ一大理由ナリ。勞働問題ノ解決ニ遲レタルノ感アルハ、余ノ迂愚ニシテ世界ノ大勢ニ通ゼザルニ由ル、又社會政策如何ハ余ノ言明スベキ限リニ非ズト。**横山君**重ネテ、局長ガ不明ニシテ世界ノ大勢ニ通ゼズ、終ニ今日ノ事態ヲ惹起スルニ至レリト言ヘルハ、個人トシテノ君ノ美德ヲ認ムルモ、苟モ市ノ參與タリ、電氣局長タル公人トシテ、其責任ヲ如何ニセントスルカト論ズルヤ、議場騷然、井上局長默シテ答ヘズ。次ニ**若林成昭君**、參事會ニ於ケル本案審議ノ內容ニ關シテ質問シ、且ツ乘客緩和ハ宜ク並行線ノ敷設、設備ノ改良等ニ依テ之ヲ爲スベク、値上ニ依ルハ固ヨリ不可ナレバ、此點ヲ誤解スルナカランコトヲ局長ニ警告シ、**井上局長**ハ、屢述ノ如ク、賃錢ノ値上ニ依リテ乘客ノ緩和ヲ圖ルノ意ナシ、電車ノ增發、軌道ノ增設ニ依リテ之ヲ爲サント欲ス、又參事會ハ秘密會ナルガ故ニ、其內容ヲ漏スコトヲ得ズト答フ。

斯クテ**小坂梅吉君**ノ動議ニ依リ、調査期間ヲ一週間トシテ、前項記載ノ四十七號議案ト同一ノ調査委員ニ付託スルニ決セリ。

委員ハ調査ノ結果、左記條件ヲ付シ別紙ノ如ク修正スルニ決シタリトノ報告書ヲ四月十三日ノ本會議ニ提出セリ。

左記

一、乘客混雜ノ緩和ヲ期センカ爲メ運轉系統ヲ整理シ且ツ車輛ヲ運轉スルコト

二、車輛四百臺ノ新造及舊車ノ改造ハ三ケ年以內ニ完成スルコト

三、軌道敷及附帶事業ハ可成六ケ年以內ニ完成スルコト

四、第二項ノ車輛完成ニ至ル迄ハ料金ヲ增減セサル樣經濟ノ調節ヲ計ルコト

五、前各項ニ關シテハ公債、借入金其他ノ方法ニ依リ急速之ヲ實行スルコト

（別紙）

第四十九號

東京市電氣軌道乘車料條例中改正ノ件

（右傍ノ○印ハ委員會修正ノ朱書
左傍ノ——印ハ原案削除ナリ以下倣之）

大正五年東京市條例第一號東京市電氣軌道乘車料條例中左ノ通リ改正ス

第二條　乘車料金ハ一回金九錢ヲ最高率トシ八階級ニ區別ス乘車券ノ種類及其料金左表ノ如シ

乘車券ノ種類		イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ
片道券		六錢	六錢	七錢	七錢	八錢	八錢	九錢	九錢
往復券		一二	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八
回數券	甲號券（一圓四十五錢）	（二七）枚	（二五）枚	（二三）枚	（二一）枚	（一九）枚	（一八）枚	（一七）枚	（一七）枚
	乙號券（二圓九十五錢）	（五五）	（五一）	（四七）	（四三）	（四一）	（三九）	（三七）	（三五）
定期券（一期）		七二・〇〇錢	七八・〇〇錢	八四・〇〇錢	九〇・〇〇錢	九六・〇〇錢	一〇二・〇〇錢	一〇八・〇〇錢	一一四・〇〇錢
同上（一期未滿ノモノ一ケ月料金割合）		一二・〇〇	一三・〇〇	一四・〇〇	一五・〇〇	一六・〇〇	一七・〇〇	一八・〇〇	一九・〇〇

乘換乘車券ハ無料トス

定期券ハ毎年二月一日ヨリ七月末日マテ及八月一日ヨリ翌年一月末日マテヲ各一期トシテ發行ス

發行ノ月ヨリ其期間滿了マテ月數六箇月ニ滿タサルモノハ前表記載ノ金額ノ割合ヲ以テ其月數ニ應シ料金ヲ徵收ス但發行ノ日ニ屬スル月ニ在リテハ其日數三十日ニ滿タサルモ之ヲ一月ト看做ス

第三條　陸軍兵卒ニシテ制規ノ服裝帶劍ヲ爲ス者及海軍卒ニシテ制規ノ服裝ヲ爲ス者ニ對シテハ軍人往復券ヲ發行シ最高率ヲ金參拾五錢トシ左表ノ八階級ニ區別ス

乘車券ノ種類		イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ
軍人往復券		八六錢	八六錢	九〇錢	九四錢	九七錢	一〇一錢	一〇四錢	一〇八錢
乘車券ノ種類		イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ
割引片道券		四三錢	四五錢	四七錢	四九錢	五一錢	五三錢	五四錢	五六錢
割引往復券		八六錢	九〇錢	九四錢	九七錢	一〇一錢	一〇六錢	一〇八錢	一一二錢

割引往復券ノ復券ハ前條ノ時間外ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得

第七條　通學回數券ハ一回金七錢六厘ノ割合ヲ最高率トシ八階級ニ區別ス乘車券ノ種類及其料金左表ノ如シ

乘車券種類		イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト	チ
通學回數券	二十五回券	一・七五錢	一・八〇錢	一・八五錢	一・九〇錢	一・九五錢	二・〇〇錢	二・〇五錢	二・一〇錢
	五十回券	三・五〇	三・六〇	三・七〇	三・八〇	三・九〇	四・〇〇	四・一〇	四・二〇

通學回數券購入ノ爲發賣所ヘ往復スル場合ニ限リ表紙ヲ使用シ乘車スルコトヲ得

第十九條　料金又ハ乘車券ノ樣式ヲ變更シタル場合ニ於テハ舊乘車券ノ使用ハ其變更ノ日ヨリ三十日ヲ限リトス

但シ其期間經過後六十日以內ニ於テ市長ノ定ムル所ニ依リ乘車券ノ證明又ハ引替ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條ノ次ニ左ノ二條ヲ追加シ第二十二條ヲ第二十四條ニ改ム

第二十二條　電氣軌道事業會計ニ準備基金ヲ設ケ其金額ヲ金五百萬圓トス

大正十年三月末日又ハ爾後每年九月及三月末日ノ二期ニ於テ前六月ノ收支計算ヲ爲シ電氣軌道事業ノ總收入金カ總經費（經營費、市普通會計編入金、減損補塡金、改良設備費、共濟會交付金、電氣軌道事業公債元利償還金及諸費）ヲ超過スル額ハ準備基金中ニ繰入レ又總收入金ヲ以テ總經費ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ準備基金中ヨリ之ヲ補塡ス

前項電氣軌道事業ノ收支計算ハ市會ノ議決ニ依ル

第二十三條　前條計算期末日ノ準備基金殘額金五百萬圓ヲ超過スルコト金貳百萬圓又ハ其以上ナルトキハ市長ハ其計算期ヨリ二月以內ノ間ニ於テ第二條、第三條、第五條及第七條ニ規定スル料金表中一級ヲ下シ實施スヘシ

前條計算期ニ於ケル末日ノ準備基金ニシテ其殘額金五百萬圓ヨリ減少スルコト金貳百萬圓又ハ其以上ナルトキハ市長ハ其計算期ヨリ二月以內ノ間ニ於テ第二條、第三條、第五條及第七條ニ規定スル料金表中一級ヲ上シ實施スヘシ

附　則

本條例ノ施行期日ハ大正九年六月一日トシ第二條、第三條及第七條ニ規定スル料金表中ノ「ニ」ヲ「ハ」ニ該當スル料金ヲ實施ス

本案ノ議事ニ入ルヤ、**竹下委員長**ハ左ノ說明ヲ試ミタリ。

理事者ノ言ニ據レハ、本案ノ目的ハ車輛ノ改良、軌道ノ改良、軌道附帶事業ノ遂行、減損補塡金ノ增額、電氣局ノ組織變更及從業員ノ優遇等ヲ期スルニ在リ、先ヅ車輛ノ改良ニ關シテ言ヘバ、現在ノ單車六百餘臺ノ改良費トシテ參百六拾萬圓、現在ノ「ボギー」車五百餘臺ノ外ニ、四百臺ノ新造費トシテ千八拾萬圓、（一臺貳萬七千圓）、尙現在ノ「ボギー」車中六十臺ノ改良費六拾萬圓、合計千五百萬圓ヲ十箇年ノ繼續事業トシテ支出セントス。次ニ軌道改良及ビ附帶事業ノ改良ニ關シテ言ヘバ、現在ノ軌道敷八十五哩ヲ堅牢ナル「コンクリート」道路ト爲シ、且ツ新電柱ヲ建テントス、之ガ爲ニ十五箇年ノ繼續事業トシテ參千萬圓ヲ要ス、故ニ從來ノ減損補塡金百貳拾五萬圓ハ不充分ノ感アルヲ以テ、七拾五萬圓ヲ增加シテ、合計貳百萬圓ト爲サントス。更ニ電氣局ノ組織改善ノ結果トシテ、年額七拾五萬圓ノ經費ヲ要シ、又電車從業員ノ優遇費トシテ、年額參百萬圓ヲ要ス。以上ノ經費ハ、合計一年壹千萬圓ニ達ス、故ニ委員會ニ於テハ原案ノ拾參錢ヲ承認シタルノミナラズ、車輛及ビ軌道ノ改良年限ヲ短縮スル爲ニ一步ヲ進メ、更ニ壹錢ヲ值上シテ拾四錢ト爲スコトヲ一致可決セリ。次ニ原案ニ於テハ、普通乘車料ト割引乘車料トヲ無差別的ニ值上シタルガ、苟モ割引制度ヲ存置スル以上、其趣旨ヲ徹底セシムベシトノ議論アリテ、割引乘車料ヲモ普通乘車料ト同率ニ減ズルコトヲ承認シ、「ニ」ノ階段ヲ實行スルニ決シタルガ、他面ニ於テ、昨今電車ノ非常ナル混雜ヲ緩和スルノ趣旨ヲ以テ、五項ヨリ成ル條件ヲ附セリ、

此說明終ルヤ、左ノ如キ問答アリタリ。

笠原文太郎君　當初理事者案ハ拾貳錢ニ値上ゲスルコトニ滿足シタルガ、參事會ハ之ニ壹錢ヲ加ヘテ拾參錢ト爲シ、本會ノ特別委員會ハ、更ニ壹錢ヲ加ヘテ拾四錢ト爲セリ、而シテ委員長ノ說明ニ據レバ、軌道ノ設備其他ノ施設促進ノ爲メ、參事會案ニテハ猶不充分ナルガ故ニ、更ニ貳千萬圓ヲ增加スル目的ヲ以テ、拾四錢ニ修正セリト云フ、此增額中ニハ軌道ノ幅員擴築ノ經費ヲモ包含スルヤ、又若シ軌道ノ幅員ヲ擴築スルモ、其兩側ノ道路ハ依然泥濘ニ委スルトセバ、殆ド功果無キニ非ズヤ。

竹下委員長　笠原君ノ貳千萬圓ト云ヘルハ蓋シ貳百萬圓ノ費途如何トノ質問ナルガ、實ハ委員會ニ於テモ、此費途ノ明示ヲ理事者ニ求メタルニ、理事者ハ從業員ノ優遇問題ヲ解決スルノ必要目睫ノ間ニ迫レルヲ以テ、貳百萬圓ノ費途ニ關シ、具體的立案ノ暇ナクシテ本案ヲ提出セリ、從テ此費途ニ關シテハ、不日電氣局ヨリ改メテ市會ニ提案スベシト云ヘリ。因テ委員會ニ於テハ此機會ヲ待ツノ已ムナキヲ認メタルモ、壹千萬圓ヲ以テ車輛ノ改良ニ十年、軌道ノ改良ニ十五年ヲ費スハ長キニ失スルガ故ニ、更ニ壹錢ヲ增シ、以テ其速成ヲ期セシムベキコトヲ議決セリ。第二ノ軌道ノ幅員延長ノ點ハ、委員會ニ於テハ問題ト爲ラズ、唯各種自動車ノ往來近頃頻繁ト爲リ、從テ電車ノ軌道ハ修繕ニ忙殺セラルルノ現狀ニ在ルヲ以テ、充分堅固ナル基礎ヲ有スル方法ヲ用ヒテ軌道ヲ改良スルノ必要ヲ認メ、年額參百萬圓ヲ之ニ充ツルコトヽシタルガ、幅員ノ擴張ニ關シテハ、委員會ニ於テハ論議ヲ見ザリキ。最後ニ原案ハ軌道改良ノ期間ヲ十五箇年ト爲セルヲ、委員會ハ六年ニ短縮シタルガ、經濟上ノ狀勢ガ市ノ協力ヲ許サヾル場合ハ、電氣局ハ獨力ヲ以テ能フ限リ速成ニ努ムベキコトヲ言明セリ。

笠原文太郎君　委員會ニ於テ原案ノ拾參錢ニ壹錢ヲ增加スルニハ計數ニ基キテ、其費途ヲ明瞭ナラシメザルベカラズ、而モ委員長ハ此點ヲ審ニセザリキト言ヘル以上、余ハ之ニ關シテ理事者ノ說明ヲ求メント欲ス。次ニ一年間ニ千二百臺ヲ運轉スルコトヲ一ノ條件ト爲セルモ、余ハ近來ノ狀勢ニ照シ、理事者ガ果シテ之ヲ實行シ得ルヤ否ヤヲ疑ハザルヲ得ズ、故ニ今後ノ一年間ヲ三期ニ分チ、各期ニ於ケル運轉車數ヲ明示シテ、千二百臺ヲ運轉スルノ可能ナルコトヲ立證スベシ。第二ノ條件「車輛四百臺ノ新造及舊車ノ改造ハ三ケ年以內ニ完成スルコト」モ亦過去ノ事實ニ徵スレバ、實現困難ナラン、何トナレバ大正三年ノ運轉車輛ハ九百四十臺ナリシニ、大正七年ニハ九百三十八臺ニシテ、二臺ヲ減少シタレバナリ、大正四年ノ市政檢查員ノ報告モ、同五年ノ監督官廳ノ戒告モ、共ニ電車ノ改善ノ急務ナルコトヲ論ジタルモ、今日マデ毫モ其功果ヲ見ル能ハズ。又第三ニ「軌道延長及附帶事業ハ可成六ケ年以內ニ完成スルコト」此條件ニ關シテモ、余ハ理事者ニ對シ、果シテ實行ノ自信アリヤヲ問ハント欲ス。以上ノ如ク條件ノ實現ニ關シテハ何人モ大ナル疑問ヲ挾ムニ拘ハラズ、此際强ヒテ壹千萬圓ノ値上ヲ斷行セバ、市民ハ決シテ滿足スル能ハザルベシ。

此質問ニ對シ、**井上局長**ハ、委員會ノ意見ニ從ヒ、拾四錢ニ値上ゲスルトキハ、三年間ニ車輛ヲ改良スルハ可能ニシテ、更ニ府トノ交涉及ビ市ノ財源等ニ支障ヲ生ゼザル限リ、六年間ニ軌道ヲ改良スルコトモ亦可能ナリト答ヘ、今後ノ一年間ニ果シテ千二百臺ヲ運轉シ得ルヤトノ第二ノ質問ニ關シテモ、計數及ビ方法ヲ縷述シテ、其可能ナルコトヲ說明セリ。

次ニ左ノ質問アリ。

大庭重治君、余ハ先ヅ委員長ニ問ハン、初メ理事者ガ參事會ニ提出シタル「ロ」級即チ往復拾貳錢案ナリシガ、

參事會ノ特別委員會ハ之ヲ「ニ」級即チ拾四錢ニ修正シタルモ、之ヲ參事會ニ附議スルニ及ンデ、「ハ」級即チ拾參錢案ヲ採ルニ決シ、尋デ市會ノ委員會ニ於テハ、再ビ拾四錢案ニ決定セリ。先キニ其費途ニ關スル質問アリタルガ、余ハ委員會ガ拾四錢ニ增額シタル理由如何ヲ問ハント欲ス、人或ハ言フ、通行稅ヲ加ヘテ拾四錢ト爲ストキハ、多クノ場合壹錢ノ釣錢ヲ要スルヲ以テ、之ヲ拾五錢ト爲シテ斯ル煩雜ヲ避ケントスト、果シテ然ルヤ。第二、委員會ノ提唱セル五箇ノ條件ハ解除條件ナルヤ、換言スレバ、條件不履行ノ場合ニハ、本案ノ値上ハ解除セラルベキヤ如何。第三、條件ノ第一ニ「一ケ年以內ニ壹千貳百臺」ト云ヘルハ、恐ラク一ケ年一日千二百臺ノ意味ナランガ、現ニ昨年ニ於テモ千二百臺內外ヲ運轉シツヽアリタルニ拘ラズ、毫モ混雜ヲ緩和スル能ハザリシトセバ、此條件ハ無效ニ終ルナキカ。第四、條件中ニ「可成六ケ年」ノ文字アルガ「可成」ハ條件ノ用語ニ適セズト考フルガ如何、第五、條件第四ニ「第二項ノ車輛完成ニ至ル迄ハ料金ヲ增減セザルコト」ト言ヘルガ、料金ノ增減ハ本議案第二十三條ノ「二百萬圓又ハ其以上ナルトキハ」一級ヲ上スト云フ條文ト矛盾セザルカ。尙又理事者ニ對シテ三四ノ質問アリ。理事者ハ初メ「ロ」級ノ値上案ヲ提出シタルガ、參事會ニ於テハ又之ヲ「ニ」級ニ變改シタルガ、之ニ由テ思フニ理事者ハ一定ノ計畫ナク、唯單ニ値上率ノ高キヲ悅ブモノヽ如シ、果シテ如何。次ニ市民ハ今日參四錢ノ値上ニ對シテ必シモ苦痛ヲ訴フルコトナカルベク、唯車內混雜ノ緩和ト、車掌運轉手ノ傲慢不遜ノ態度ヲ改メンコトヲ切望シテ已マザルノミ、此混雜ニ關シテハ、昨年既ニ監督官廳ノ戒告ヲ受ケタルノミナラズ、理事者ハ之カ對策ヲ講ゼズ、斯ノ如クニシテ尙ホ其責任ヲ盡クシタリトノ自信ヲ有スルカ。尙ホ、電氣局長ノ配下ニ在ル車掌運轉手ノ傲慢不遜ハ近來益〻甚シキモノアリテ、混雜ノ度ヲ加フルニ從ヒ、殆ド亂暴狼藉ノ狂態ヲ演ジツツアリ、局長ハ之ニ對シテ充分監督ノ責任ヲ盡クセリトノ自信アリヤ。最後ニ、局長ガ事務取扱ヨリ局長ニ推サレ、市參與ニ推サレタルハ、此等ノ問題ヲ解決セシムルガ爲ナリ、然ルニ從業員ノ狼藉ハ今ヤ其極ニ達シ、終ニ同盟罷業ヲ決行スルニ至レリ、此際局長ハ其責任ヲ自覺シ、交通機關改善ノ動機ヲ促進スル爲ニ、潔ク其職ヲ退クノ決意ナキカ。

竹下委員長先ヅ之ニ答ヘテ曰ク、拾貳錢案ノ目的トスル所ハ、從業員ノ優遇、電氣局組織ノ改善、及ビ減損補塡金ノ增額ニ在リテ、單ニ當面ノ問題ノ解決ニ重キヲ措キタルガ、委員會ハ縱令多少ノ支出ヲ增スモ、速ニ電車ヲ改良シテ、今日ノ混雜ヲ緩和スルヲ急務トストノ意見ニ一致シタルナリ。次ニ條件ノ意味如何トノ質問ナルガ、此種ノ條件ハ往々市會ノ決議ニ伴フコトアリ、而モ此條件ガ實行セラレザレバ、値上ヲ否認スルコトヲ含意セズ、唯電氣局長ヲシテ速ニ電車ノ改良ヲ遂行セシメンコトヲ期スルニ外ナラズ。尙ホ一ケ年間ニ一千二百臺ト云ヘルハ、質問者ノ言ノ如ク、「一日」ノ二字ヲ脫落セリ。又「可成」ト云ヘル文字ヲ使用シタルハ、局長ノ述ベタル如ク、經濟ノ關係上市ノ路面改良ト相待ツヲ得策トスルヲ以テ、六ケ年ト限定スルハ無理ナリトノ意見ヲ諒トシタルナリ。最後ニ增減セズト云ヘルハ、三年ノ車輛改良期間ハ濫リニ乘車料ヲ上下セズ、必要ノ場合ハ借入金若クハ公債ニ依ルベシトノ意ニ外ナラズト。**井上局長**モ亦應ヘテ曰ク、値上率ノ數回ノ變更ニ關シテハ、既ニ前ニ辯明シタルヲ以テ、之ヲ繰返スノ必要ナカルベシ。車掌、運轉手ノ傲慢不遜ハ余ノ最モ苦痛トスル所ナルモ、勞働者ノ跋扈ハ殆ド世界共通ノ狀勢ナルガ如シ、但シ余等當局者トシテハ、彼等ヲ善導スルコトニ努力シツヽアリ。又余ノ身上ニ關シテハ、市長ノ命ヲ待ツノ外ナキモ、其間諸君ハ不德不才ノ余ヲ鞭韃シテ、交通機關整理ノ重任ヲ完ウセシメラレンコトヲ切望スト。

橫山勝太郎君亦問ウテ曰ク、大正五年ニ電車料金ノ値上案ガ提出セラレタル際、市參事會ハ希望條件トシテ六箇ノ事項ヲ提示シタルガ、其第二、郡部線ノ整理、第三、無料乘車券ノ整理、第四、電氣局ノ整理ノ三項ニ關シ、余ハ爾來

電氣局ガ如何ナル程度ニマデ之ヲ斷行シタルカヲ問ハント欲ス。又電車ノ値上ニ依リ、電車事業ノ改良ヲ見ルトキハ、比較的多數ノ市民ハ固ヨリ利便ヲ得ベキモ、之ガ爲ニ電車ヲ利用スル能ハザルニ至ル貧民階級ガ、市ノ內外ニ在住スルノ事實ヲ看過スベキニアラズ、假令三百萬市民ガ幸福ヲ得ルモ、最下層ノ五千若クハ一萬ノ貧民ガ値上ノ爲ニ此文明ノ惠澤ニ浴スル能ハザルニ至ラバ、是レ重大ナル社會問題タリ人道問題タルニアラズヤ、因テ余ハ試ミニ問ハン、從來ノ經驗ニ徵スレバ、片道券ヲ利用スル乘客ノ數ハ若何、又東京市ガ今日マデ電車事業ニ投ジタル資本ニ對シ、値上案ガ齎ス年收ハ大凡幾割ノ利廻ニ當ルヤト。**井上局長**答ヘテ曰ク、當時ノ市會ハ郡部線ヲ敷設セザルコトヲ議決シタルヲ以テ、目下郡部線ニ着手セズ、又無料乘車券ニ關シテハ、先般乘車規程ヲ設ケテ、着々之ヲ整理セリ。又電氣局ノ整理ニ關シテハ、當時ノ意見ハ、吏員ヲ減ジ、課ヲ減ジ、從業員ヲモ減ズト云フニ在リタルモ、此ノ如キハ却テ事業ノ進行ニ支障ヲ來スノ虞アリ、昨年監督官廳ヨリモ、電氣局現在ノ組織ハ狹小ニ失スルヲ以テ、宜ク之ヲ擴大シテ事績ヲ擧ルコトニ努ムベシトノ警告アリ、此際寧ロ人ヲ增シ、課ヲ增シテ、事務ノ敏活ナル進行ヲ期スルヲ得策ト信ズルモ、經費ノ關係上今日マデ躊躇セザルヲ得ザリキ、幸ニシテ本案ノ通過ヲ見バ、速ニ組織ノ擴大强化ニ努ムベシ。第二ノ質問ニ對シテハ、余ノ答フベキ限リニ非ズト。

是ニ於テ**横山君**ハ局長ニ對シ第二質問ノ答辯ヲ要求シテ止マザリシカバ、**井上局長**ハ、每日百二十萬ノ乘客中片道券ヲ買フ者、五六千人、又利廻リハ壹億圓ノ資本ニ對スル壹千萬圓ノ收益トセバ一割、八百萬圓トセバ八朱ナリト答辯セリ。**小久江美代吉君**、本案實行ノ曉、若シ事業ガ豫定計畫ヨリ遲レテ莫大ナル剩餘金ヲ生ジタル場合ニハ、余ハ料金ノ値下ハ當然ナリト思惟スルガ、委員會ニ於テ之ヲ增減セズト決シタル理由如何ト問ヒ。**竹下委員長**、條件ノ一ヨリ三マデノ事業ヲ實行スルトキハ、三年間內外ハ莫大ナル剩餘金ニ苦ムガ如キ事ナシト信ズ、但シ斯ル條件ハ理事者ニ對スル希望ナルヲ以テ、實際値下ヲ爲スト爲サヾルトハ、當時ノ市會ノ決定ニ待ツコト勿論ナリト答ヘ。**若林成昭君**、余ハ前回質問ヲ試ミ參事會ノ相談會——余ハ特ニ相談會ト云フ——ニ於テ、初メ六百萬圓即チ「ロ」案ノ提出ヲ見タルガ、忽チ壹千萬圓ト爲リ、終ニ八百萬圓ニマデ妥協成立シタルニ因リ、是等ノ意見ノ構成的材料ニ關シ、理事者ノ說明ヲ求メタルニ、秘密會ヲ理由トシテ說明ヲ廻避セリ、然ルニ本日笠原君ガ卓ヲ叩テ怒號スレバ、理事者ハ兢々トシテ忽チ參事會ノ內容ヲ曝露セリ、何故ニ同情者タル余ノ質問ニ答ヘズシテ、却テ攻擊論者ノ同一質問ニ答ヘタルカトテ、理事者ノ陳謝ヲ要求シタレバ。**井上局長**ハ、參事會ノ內容ヲ說明シタルハ余ノ失言ナレバ、之ヲ取消スベシト言明セリ。**作間耕逸君**、從來車輛及ビ軌道ノ爲ニ、年々約百萬圓乃至貳百萬圓ヲ支出シ來リタルガ、本案ガ可決實行セラルヽ場合ニハ、此經費ハ不用ニ歸スベシト信ズルガ、假リニ之ヲ百萬圓トスレバ、料金ニ換算シテ五厘、貳百萬圓トスレバ壹錢ト爲ル、委員會ハ此點ヲ考慮シタルカ、第二、軌道敷ノ改良ハ敷地ノ部分ノミニ止マルカ、又ハ兩側若干尺ノ道路ノ改良ヲモ含意スルカト問ヒ。**竹下委員長**、委員會ハ現在ノ車臺ノ改良費百萬圓ニ就テハ勿論考慮シタルモ、資金不足ノ爲、借入金若クハ公債等ニ依リ事業ヲ遂行セントスルニ當リ、百萬圓、貳百萬圓ノ資金アラバ、益ミ便ナリト信ズ。第二ノ點ハ委員會ニ於テハ論及セラレザリシト答ヘタリ。此時議長ハ時間延長ヲ議場ニ諮リタル後、討論ニ入ル旨ヲ宣シタレバ、**大庭重治君**先ヅ發言ヲ求メ、原案ニ對シテ壹錢ヲ增加シタル委員會ノ修正案ニ關スル委員長ノ說明モ理事者ノ辯明モ、聽クニ足ルモノナシ、故ニ余ハ原案ニ贊成シテ、委員會案ニ反對スト述ベタルガ。**鈴木彌吉君**ハ委員會案ニ贊成シテ曰ク、今ヤ世界ノ平和ニ伴ヒ、帝國ノ富力大ニ加ハリ、物價ハ昂騰ノ一路ヲ辿リツヽアル時、東京市ノ電車料金ノミ獨リ低廉ナルコトハ、市民ノ否定セザル所ニシテ、電車料金ガ通行稅ヲ加ヘテ拾五錢ニ上ルモ、混雜ヲ避クルヲ得バ可ナリトハ、一般ノ輿論ナリ。先刻來細民ハ値上ノ爲ニ大ニ苦痛ヲ感ズベシト

ノ說ヲ耳ニシタルガ、戰前ニ在リテハ壹圓ノ勞銀ヲ獲タル職人ハ稀ニシテ、其多クハ電車ニテ往復スルノ餘裕ヲ有セザリシモ、戰後物價騰貴ノ結果、彼等ノ勞銀ハ最低貳圓五拾錢ヨリ參圓、四圓、鐵工所ノ職工ハ五圓、七圓ニテ尙ホ足レリトセズシテ「ストライキ」ヲ起シ、小揚人足ノ如キハ一日ニ拾圓ヲ取得スル者アリ、故ニ電車賃ノ多少ノ値上ハ問題トスルニ足ラザルナリ、況ンヤ汽車料金ノ如キハ、既ニ二回モ値上ヲ斷行シタルヲヤ、又況ンヤ貸切貨物ハ急行便トシテ五割ヲ增シ、電報料ハ普通電報ガ殆ド用ヲ爲サザル爲、至急報トシテ三倍ノ料金ヲ支拂フコトヲ辭セザルノ狀勢ニ在リ、電話モ度數制トシテ二倍以上ヲ値上シタルヲヤ、今日ノ場合値上ヲ斷行シテ交通機關ノ完成ヲ圖リ、以テ市民ノ便益ヲ增進スルコトハ余ノ切望スル所ナリト。時ニ**丸山名政君**、討論終結ノ動議ヲ提出シ、採決ノ結果、議長ハ贊成者多數ナリト宣告シタルモ、異議アリタルヲ以テ、指名點呼ヲ行ヒタルニ、三十四名對十六名ニテ討論終結ニ決シタレバ、再ビ指名點呼ニ依リ先ヅ委員會ノ修正意見ヲ採決ニ付シタルニ、贊成三十四名、反對十六名ニテ、委員會報告通リ決定セリ。尋テ五月二十七日ノ會議ニ於テ監督官廳ノ値上許可ニ關シ市長ヨリ左ノ通リ報告アリタリ。

庶發第四一六號

曩ニ市會ノ議決ヲ經タル東京市電氣軌道乘車條例改正ノ件ハ本月二十六日內務大藏兩大臣ヨリ別紙ノ通更正許可相成尙右ニ伴ヒ東京府內務部長ヨリ別紙ノ通依命通牒有之候ニ付此段報告候也

大正九年五月二十七日

東京市會議長加藤正義殿

東京市長法學博士子爵　田尻稻次郎

（別紙）

申庶甲第一八六〇號

大正九年五月二十六日

東京市長殿

東京府內務部長　岩田衞

電氣軌道乘車料條例中改正條例ノ件依命通牒

標記ノ件本日許可相成候處市ノ稟請中乘車料金ニ階級ヲ設ケ電氣軌道特別會計ニ屬スル準備基金額ノ增減ヲ圖リ乘車料金額ヲ改定スルハ之ヲ他日ノ詮議ニ讓リ今回ハ差當リ乘車料金ノ改正ニ關スル事項ニ就テノミ銓議相成其ノ結果條文ヲ更正セラレタル儀ニ有之尙本件許可ニ付左記條件ヲ付セラレ候旨其筋ヨリ通達相成候條及傳達候條遺漏ナキ樣御措置相成度候

記

一、今回許可セラレタル乘車料金額ノ範圍ニ於テ大正八年三月通牒ノ未成線完成ニ關スル財政計畫ヲ樹立スルコト

二、軌道敷改造附帶事業ハ軌道保護ノ爲メ必要ナル道路鋪裝工事即チ軌道敷（軌道特許命令規定ニ依リ現ニ電氣軌道特別會計ニ於テ維持修繕ノ義務ヲ負フ道路ノ幅員）ノ兩側各四尺ノ鋪裝工事ニ限リ電氣軌道特別會計ノ支辨トスルコト

三、左記事項ニ付實行方法ヲ定メ且ツ其財政計畫ヲ樹立シ八月三十一日限リ內務大藏兩大臣ニ報告スルコト

(イ) 從業員諸給與ニ關スル事項
(ロ) 共濟組合ノ事業ニ關スル事項
(ハ) 電氣局ノ組織ニ關スル事項
(ニ) 減損補塡金積立ニ關スル事項
(ホ) 車輛ノ新造及修理ニ關スル事項
(ヘ) 軌道敷改造及第二號ノ附帶事業ニ關スル事項
(ト) 未成線建設工事速成ニ關スル事項

內務省東地第二一九號

大正九年四月十五日庶發第二八六號稟請東京市電氣軌道乘車料條例中改正條例ノ件乘車料金ニ階級ヲ設ケ準備基金額ノ增減ニ因リ乘車料金ヲ改ムルノ規定及定期券ニ關スル規定ヲ除キ左ノ通更正シ許可ス

大正九年五月二十六日

內務大臣　床次竹二郎
大藏大臣男爵　高橋是清

東京府東京市

記

第二條　乘車券ノ種類及其料金左ノ如シ

片道券　金七錢
往復券　金拾四錢
回數券
甲號券（片道券二十一枚綴）金壹圓四拾五錢
乙號券（片道券四十三枚綴）金貳圓九拾五錢

乘換乘車券ハ無料トス

第三條　陸軍兵卒ニシテ制規ノ服裝帶劍ヲ爲ス者及海軍卒ニシテ制規ノ服裝ヲ爲ス者ニ對シテハ軍人往復券ヲ發行シ其料金ヲ金九錢トス

第五條　前條ニ依リ發行スル乘車券ノ種類及其料金左ノ如シ

割引片道券　金五錢
割引往復券　金九錢

割引往復券ノ復券ハ前條ノ時間外ト雖之ヲ使用スルコトヲ得

第七條　通學回數券ノ種類及其料金左ノ如シ

二十五回券　金壹圓拾五錢
五十回券　金貳圓貳拾五錢

通學回數券購入ノ爲メ發賣所ヘ往復スル場合ニ限リ表紙ヲ使用シ乘車スルコトヲ得

第十九條　料金又ハ乘車券ノ樣式ヲ變更シタル場合ニ於テハ舊乘車券ノ使用ハ其變更ノ日ヨリ三十日ヲ限トス但シ其期間經過後六十日以內ニ於テ市長ノ定ムル所ニ依リ乘車券ノ證明又ハ引替ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラ

ス

附　則

本條例ノ施行期日ハ大正九年六月一日トス

申土甲第一、六三五號

貴市申請ニ係ル電車賃金改正ノ件ハ別紙ノ通リ認可相成候處現在ニ於ケル混雜緩和ノ手段トシテハ差當リ運轉哩ヲ增加スルヲ急務ト認メラレ候ニ付テハ之ガ實行方法トシテ車輛ノ修繕及新造緩和線路ノ建設ニ全力ヲ注クヨリ他ニ良策ナシト認メ今回條件ヲ附シテ認可セラレタル次第ニ付其旨御承知相成度此段依命通牒候也

大正九年五月二十六日

東京市長法學博士子爵田尻稻次郎殿

東京府內務部長　岩田衡

申土甲第一、六三五號

大正九年四月十七日附申總甲第六八號申請乘車料金改正ノ件第二條、第三條、第五條、第七條及附則ヲ左ノ如ク改メ第二十二條及第二十三條ヲ削除シ左記條件ヲ附シ認可ス

大正九年五月二十六日

東京市

東京府知事　阿部浩

記

第二條　乘車券ノ種類及其料金左ノ如シ

片道券	金七錢	
往復券	金拾四錢	
回數券	甲號券（二十一枚綴）金壹圓四拾五錢	
	乙號券（四十三枚綴）金貳圓九拾五錢	

乘換乘車券ハ無料トス

第三條　陸軍兵卒ニシテ制規ノ服裝帶劍ヲ爲ス者及海軍卒ニシテ制規ノ服裝ヲ爲スモノニ對シテハ軍人往復券ヲ發行シ其料金ヲ金九錢トス

第五條　前條ニ依リ發行スル乘車券ノ種類及其料金左ノ如シ

割引片道券	金五錢
割引往復券	金九錢

割引往復券ノ復券ハ前條ノ時間外ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ得

第七條　通學回數券ノ種類及其料金左ノ如シ

二十五回券	金壹圓拾五錢
五十回券	金貳圓貳拾五錢

通學回數券購入ノ爲メ發賣所ヘ往復スル場合ニ限リ表紙ヲ使用シ乘車スルコトヲ得

附　則

大正年間　第貳章　大正九年　第八節　東京市電氣軌道乘車料條例中改正ノ件

本條例ノ施行期日ハ大正九年六月一日トス

條件

一　未成線五十四哩中既ニ開業セルモノヲ除キ三十哩ヲ選定シ現在ノ輸送ヲ緩和スルニ最モ必要ナルモノヨリ順次ニ之ヲ敷設シ大正十一年度迄ニ之ヲ完成シ殘部ハ遲クモ大正十三年度迄ニ之ヲ完成スヘシ

二　軌道敷ノ改造ハ先ツ六十哩ヲ選定シ交通上最モ必要ナル部分ヨリ着手シ大正十二年度迄ニ之ヲ竣工セシメ殘部ハ大正十四年度迄ニ之ヲ完成スヘシ但シ改造スヘキ軌道敷ノ幅員ハ軌條外各六尺ヲ超ユルコトヲ得ス

三　大正九年度以降ニ於テハ客車走行一哩平均乘車人員七人半ヲ目標トシテ運轉量ヲ增加スヘシ尚車輛ハ未成線ニ對スルモノヲ加ヘ大正九年度ヨリ同十一年度迄毎年ボギー車二百二十輛以上新造スヘシ

四　減損補塡積立金ハ貳百萬圓以上ニ增額スヘシ

五　營業收入ヨリ營業費減債費繰入金減損補塡積立金市經濟編入金ヲ控除シ尚殘額ヲ生シタルトキハ之ヲ諸設備ノ改善又ハ未成線ノ建設資金ニ充當シ他ノ經濟ニ流用スヘカラス

六　未成線ノ敷設軌道敷ノ改造竝ニ車輛ノ增加及改造ニ付テハ急速實施計劃ヲ定メ認可申請ノ手續ヲ爲スヘシ

以上

第九節　市長有給市參與助役收入役副收入役給料額改正ノ件

四月十三日ノ會議ニ左ノ議案ヲ上提、異議ナク直ニ可決セラレタリ。

第五十四號

市長有給市參與助役收入役副收入役給料額改正ノ件

市長有給市參與助役收入役副收入役給料額左ノ通改正スルモノトス

市長	年俸	壹萬五千圓以上參萬圓以下
有給市參與助役	年俸	五千圓以上壹萬五千圓以下
收入役	年俸	參千圓以上七千圓以下
副收入役	年俸	千五百圓以上五千圓以下

附則

本規程ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

說明　近時世運ノ進歩ニ伴ヒ吏員ノ待遇ヲ進ムルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

（參照）

現行給料額

市長	年俸	八千圓以上壹萬五千圓以下
有給市參與助役	年俸	五千圓以上壹萬圓以下
收入役	年俸	參千圓以上七千圓以下
副收入役	年俸	貳千圓以上四千圓以下
		八百圓以上參千五百圓以下

第拾節　本市道路費補助金御下賜ニ關スル件

五月二十七日ノ會議ニ左ノ報告アリタリ。

庶發第四一一號

本市道路費御補助トシテ別紙寫ノ通金參百萬圓御下賜相成候ニ付此段報告候也

大正九年五月二十六日

東京市長法學博士子爵　田尻稻次郎

（別紙）

東京市會議長加藤正義殿

其市道路費御補助トシテ

思召ヲ以テ金參百萬圓下賜候事

大正九年五月二十五日

宮内省

本報告ハ五月二十七日ノ會議劈頭ニ於テ、總員起立裡ニ朗讀セラレタル後、田尻市長ハ發言ヲ求メテ曰ク、二十五日午後一時、宮内大臣ヨリ面會ヲ求メラレ、宮内省ニ出頭シタルニ、此御沙汰書ヲ拜受シタレバ、早速式ニ依テ御禮ヲ言上シ置キタルモ、此事タルヤ、唯一片ノ御禮ノミニテ足レリトスベカラザルハ勿論ナレバ、更ニ適當ノ方法ニ依リ、天恩ノ辱ナキ感激ニ堪ヘザル旨ノ御禮ノ執奏ヲ宮内大臣ニ稟申シテハ如何、尚吾人ハ今ヤ責任ノ愈ゝ重キヲ痛感スルヲ以テ、特ニ專門ノ一局或ハ一課ヲ設ケ、相當ノ吏員及ビ技術家ヲ使用シ、且ツ各方面ヨリ適任者ヲ委員ニ擧ゲテ實績ヲ收ムルコトニ努メ、以テ　聖旨ノ萬分ノ一ニ報イ奉ランコトヲ期セザルベカラズト信ズルガ故ニ、不日案ヲ具シテ諸君ノ審議ヲ請ハント欲スト。

▽具申書議定ノ件　右報告終ルヤ、**加藤議長**ハ、斯ル優渥ナル御沙汰ヲ蒙リ感激ニ甚ヘズ、宜ク市會ノ決議ヲ以テ御禮ノ執奏ヲ宮内大臣ニ稟申スベシ、因テ余ハ七名ノ文案起草委員ヲ指名セント欲ス、異議ナキヤト諮リ、承認ヲ得タル後、左ノ指名ヲ爲セリ。

所澤貞太郎　岩松兼經　矢野鼓吉　若林成昭　波多野友江

羽田如雲　桐島像一

委員ハ別室ニ於テ即時委員會ヲ開キ、**桐島像一君**ヲ委員長トシテ、審議ヲ遂ゲタル後、滿場起立ノ裡ニ左ノ如ク本會ニ報告シ、即決可決セラレタリ。

桐島委員長　委員會ハ先ヅ委員長ノ選擧ヲ行ヒタルニ、不肖之ニ當選セリ、今委員會ガ愼重審議ノ末、脫稿シタル文案ヲ朗讀スベシ

具申書

天皇陛下夙ニ本市民ノ福利ニ軫念アラセラレ道路補助費トシテ恩賜金ヲ下シ給フ　皇恩優渥洵ニ感激ノ至ニ勝ヘス、臣等愼重事ニ膺リ奮勵務ニ從ヒ速ニ工事ヲ完成シ以テ　叡旨ニ奉對セムコトヲ期ス冀クハ此旨ヲ執奏セラレムコトヲ玆ニ東京市會ノ議決ヲ經謹ミテ稟ス

大正九年五月　日

東京市長從二位勳一等法學博士子爵　田尻稻次郎

宮內大臣子爵波多野敬直殿

第拾壹節　名譽職參事會員一名補缺選舉

五月二十七日ノ會議ニ於テ、單記無記名投票ニ依リ、名譽職參事會員一名ノ補缺選舉ヲ行ヒタル結果、有效投票五十票中四十二票ノ多數ヲ以テ、丸山名政君當選セリ。

第拾貳節　東京市衞生常設委員規程設定ニ關スル件

五月二十七日ノ本會ニ左ノ議案提出セラレ、異議ナク直ニ可決セラレタリ。

東京市衞生常設委員規程設定ニ關スル件

東京市衞生常設委員規程左ノ通設定スルモノトス

東京市衞生常設委員規程

第一條　本市衞生ニ關スル重要ナル事項ヲ審議スル爲衞生常設委員ヲ置ク

第二條　委員ハ市會議員八名名譽職參事會員二名及公民中選擧權ヲ有スル者五名ヲ以テ組織ス

委員ノ任期ハ二年トス但シ補闕ノ爲選擧セラレタル委員ノ任期ハ其ノ前任者ノ任期間トス

第三條　市長ニ於テ必要ト認メタルトキハ五名以內ノ特別委員ヲ囑託スルコトヲ得

第四條　委員ノ職務執行ニ關スル必要ナル事項ハ市長ニ於テ之ヲ定ム

說明　衞生ニ關スル重要ナル事項ヲ審議シ其施設ノ改善ニ資センカ爲衞生常設委員ヲ設置スルモノトシ本案ヲ提出ス

第拾參節　電氣軌道事業費歲入出更正竝追加豫算及電氣供給事業費歲入出更正竝追加豫算

五月二十七日ノ會議ニ左記二案提出セラレタルガ、**早川庄太郎君**ノ動議ニヨリ、一括シテ議題ニ供シ、議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決セリ。

第七十五號

大正九年度東京市電氣軌道事業費歲入出更正竝追加豫算

歲入

一金貳千八百九拾七萬貳千七百四拾六圓	既定歲入豫算高	
一金四千貳百拾壹萬五千百八拾七圓	更正竝追加歲入豫算高	

歲出

一金九百九拾八萬五千八百五拾八圓	既定經常部豫算高	
一金千八百九拾四萬貳千四百貳拾四圓	既定臨時部豫算高	
合計金貳千八百九拾貳萬八千貳百八拾貳圓		
一金千八百拾貳萬五千貳百五拾八圓	更正竝追加經常部豫算高	

一金貳千參百四拾萬五千九百參拾參圓　更正竝追加臨時部豫算高

合計金四千百五拾參萬千百九拾壹圓

歳入出差引

殘金五拾八萬參千九百九拾六圓

大正九年度東京市電氣軌道事業費歳入出更正竝追加豫算

（肉太數字ハ變更ヲ示ス）

歳入

科目 款	科目 項	既定豫算額	更正竝追加豫算額
一財產ヨリ生スル收入		二七、一八八円	二七、一八八円
二使用料		一八、〇六〇、〇〇〇	**二四、七二〇、〇〇〇**
	一電車使用料	一八、〇六〇、〇〇〇	**二四、七二〇、〇〇〇**
三補修費收入		二、三八一、〇七〇	**三、二七四、五一一**
	一不用物賣拂代	一四三、五〇〇	一四三、五〇〇
	二減損補塡金繰入	二、二三七、五七〇	**三、一三一、〇一一**
四繰入金		八四一、九六二	八四一、九六二
五繰越金		六二、七三六	六二、七三六
六雜收入		四九九、七九〇	**五八八、七九〇**
	一利子收入	一九九、〇〇〇	一九九、〇〇〇
	二不用物賣拂代	六七、二〇〇	六七、二〇〇
	三廣告料	一四四、〇〇〇	**二三三、〇〇〇**
	四防護移轉竝委託工事費收入	五五、〇〇〇	五五、〇〇〇
	五雜入	三四、五九〇	三四、五九〇
七市債		七、一〇〇、〇〇〇	**一二、六〇〇、〇〇〇**
	一公債募集金	七、一〇〇、〇〇〇	**一二、六〇〇、〇〇〇**
歳入合計		二八、九七二、七四六	**四二、一一五、一八七**

歳出

經常部

科目 款	科目 項	既定豫算額	更正竝追加豫算額
一事務費		三一一、一五八円	**一、八二五、七一二円**
	一給料	一五一、四七三	**一、二四三、七五六**
	二雜給	九〇、八四三	**四一二、〇五七**
	三需用費	二六、七七六	**一三九、四三四**
	四諸費	三〇、四六五	三〇、四六五
	五自動車運轉費	一一、六〇一	**〇**
二運輸費		五、四三八、七二四	**九、四七五、七〇三**
	一運轉費	三、七四〇、〇二〇	**七、七一七、一二三**

款	項	既定豫算額	更正竝追加豫算額
	二 動力費	一、六九八、七〇四	一、七五八、五八〇
三 維持費		一、八六六、七九七	三、三五七、〇二三
	一 作業費	一、八六六、七九七	三、三五七、〇二三
四 公金取扱費		一四、四〇〇	一四、四〇〇
五 積立金		一、三七五、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇
	一 減損補塡金積立	一、三七五、〇〇〇	二、二六〇、〇〇〇
六 特別給與金		八四、二六〇	一〇〇、七六〇
	一 休職給	一、五〇〇	一八、〇〇〇
	二 退職竝死亡給與金	八二、七六〇	八二、七六〇
七 雜支出		七九五、五一九	九四一、六六一
	一 防護移轉竝受託工事費	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
	二 諸費	五〇〇	五〇〇
	三 市經濟繰入	五六九、〇六五	五六九、〇六五
	四 諸費	一七五、九五四	三二二、〇九六
八 豫備費		一〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
	一 豫備費	一〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
經常部計		九、九八五、八五八	一八、一二五、二五八

臨時部

豫算

科目 款	科目 項	既定豫算額	更正竝追加豫算額
一 事務所營繕費		一二三、〇五六円	二一八、〇五六円
	一 營繕費	一二三、〇五六	二一八、〇五六
二 改良設備費		八七一、六七〇	一、四九三、八八六
	一 用地費	一二、二六九	一三、〇六九
	二 建物費	三七四、六二〇	四六五、八九六
	三 軌道費	二二一、六四〇	六二六、六四〇
	四 電線路費	六三、九九一	一八九、一三一
	五 車輛費	一二〇、五〇〇	一二〇、五〇〇
	六 機械器具費	七八、六五〇	七八、六五〇
三 補修費		二、三八一、〇七〇	三、二七四、五一一
	一 減損補修費	二、三八一、〇七〇	三、二七四、五一一
四 訴訟費		一〇〇	二、〇〇〇
	一 訴訟費	一〇〇	二、〇〇〇
五 交付金		二七、六一八	三〇〇、〇〇〇
	一 共濟組合交付金	二七、六一八	三〇〇、〇〇〇
六 雜支出		五、四七六、七八〇	一一、〇一七、四八〇
	一 臨時電氣事業調査委員會費	四、八六四	四、八六四
	二 輸送施設費	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
	三 乘務員募集費	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇

四市經濟繰入		七、七六一	七、七六一
五電氣事業減債金經濟繰入		五、三六四、一五五	五、三六四、一五五
六臨時事件費		○	七〇、七〇〇
七減損補塡金繰入		○	六一、四五七五
八電氣軌道事業準備積立金繰入		○	四、八八五、四二五
（臨時調査費）		三〇、〇〇〇	七、一〇〇、〇〇〇
七繼續第二電氣軌道建設費本年度支出額			
（臨時給與金）			
臨時部計		二、九六二、一三〇	二三、四〇五、九三三
歳出合計		一八、九四二、四二四	四一、五三一、一九一
		二八、九二八、二八二	

說明　本案ハ左記理由ニ依リ豫算更正竝追加ノ爲之ヲ提出ス

歳入

第二款　使用料ハ條例改定後ニ於ケル乘車料金率ニ基キ收入增加ヲ豫計シタルニ因ル

第三款　補修費收入ハ歳出臨時部第三款補修費ニ對スル增加經費ヲ積立金處分收入ニ需ムルコトトシ之ヲ豫計セリ

第六款　雜收入ハ廣告料金ノ增加收入アルニ依リ之ヲ豫計セリ

第七款　市債ハ本年五月電氣事業短期債ノ發行ヲ見タルニ依リ之ヲ追加計上セリ

歳出

第一　各款ヲ通シ給料ニ於テ著シク經費ヲ增加セルハ從前臨時給與金トシテ支給シタルヲ本年四月分ヨリ本給ニ引直シタル結果ニ依ル

第二　事務費ニ於テ既定豫算ニ比シ人員ノ增加セルハ補修費建設費所屬人件費ヲ除クノ外職員級ニ屬スル經費ヲ總テ統一シタルト運轉系統變更竝職制變更等ニ要スル經費ヲ豫計シタルニ依ル

第三　車掌運轉手以下從業員ノ優遇ヲ圖ル爲勞務時間ノ改正及諸給與金ノ增加所要經費ヲ計上セリ

第四　運轉系統變更竝既存設備改良ノ爲歳出臨時部第二款及第三款ヲ通シ所要經費ヲ追加計上セリ

第五　歳出臨時部第五款交付金ハ本年第四十七號市會議決ニ基キ電氣局所屬雇員以下ノ組織スル共濟組合ニ對シ交付金交付ノ要アルニ依ル

第六　歳出臨時部第六款雜支出第六項ノ經費ハ過般生シタル從業員罷業期間中ノ臨時乘務員給其他ヲ豫計シ第七、八項ノ經費ハ從前繰替使用シタル未成線事業建設資金借入金ノ償還ニ充ツル爲之ヲ計上セリ

第七　以上ノ外人員增加ノ爲廳舍ノ狹隘ヲ告クルニ依リ事務所營繕費ノ增築經費其他各款ニ於テ諸般ノ附帶經費ヲ計上セリ

第七十六號

大正九年度東京市電氣供給事業費歳入出更正竝追加豫算

歳入

既定歳入豫算高	一金五百參拾參萬貳千五百貳拾圓
更正竝追加歳入豫算高	一金五百四拾參萬貳千四拾四圓

歳出

既定經常部豫算高	一金貳百貳拾九萬七百九拾壹圓
既定臨時部豫算高	一金貳百四拾七萬八千四拾七圓
合計金四百七拾六萬八千八百參拾八圓	

大正年間　第貳章　大正九年　第拾參節　電氣軌道事業費歳入出更正竝追加豫算及電氣供給事業費歳入出更正竝追加豫算

一金貳百五拾九萬貳千九百五拾四圓
一金貳百貳拾七萬五千四百八圓
合計金四百八拾六萬八千參百六拾貳圓
歳入出差引
殘金五拾六萬參千六百八拾貳圓

更正竝追加經常部豫算高
更正竝追加臨時部豫算高

大正九年度東京市電氣供給事業費歳入出更正竝追加豫算

歳入

（角次數字ハ欄更ヲ示ス）

款	項	目	既定豫算額	更正竝追加豫算額
一 財産ヨリ生ズル收入			五四、八〇三円	五四、八〇三円
二 使用料竝手數料			三、四一三、〇四五	三、四九八、七四五
	一 電氣使用料		三、三二四、八〇	三、三二八、一八〇
	二 布線竝器具使用料		二七八、四六九	二七八、四六九
	三 手數料		二、〇九六	二、〇九六
三 補修費收入			一七〇、七七四	一八四、五九八
	一 財産賣拂代		九、一五〇	九、一五〇
	二 不用物賣拂代		一七、五〇〇	一七、五〇〇
	三 減損補塡金繰入		一四四、一二四	一五七、九四八

歳出

經常部

歳入合計　五、三三一、五二〇　五、四三〇、一二四

款	項	目	既定豫算額	更正竝追加豫算額
四 繰越金			一、四九九、八四三	一、四九九、八四三
五 雜收入			一九四、〇五五	一九四、〇五五
一 事務費			六四、三一六円	三〇八、六九一円
	一 給料		三六、五三六	八〇、九八六
	二 雜給		二〇、九〇七	八九、九〇〇
	三 需用費		四、五五七	四、五五七
	四 諸費		二、三三六	二、三三六
二 供給費			一、五七七、八八一	一、五八一、四六〇
	一 電動力用電燈費		三五〇、九五〇	三一六、〇九七
	二 動力費		一、二二六、九三一	一、二六五、三六三
三 維持費			一九八、七三八	二八一、七三八
	一 作業費		一九八、八三六	二八一、七三八
四 公金取扱費			一〇七	一〇七
五 徴立金			三〇〇、〇〇三	三〇〇、〇〇三

歳出	科目	既定豫算額	更正並追加豫算額
合計		四、六六八、三六二	四、八六八、三六二
臨時部計		七四八、四七二	八四、五二二
臨時給與金		二四六、九七一	〇
臨時支出電燈電力供給設備費本年度支出額		九三六、一六一	九六、一六一
雜支出		九〇六、一一一	一、一一一、一
非常救護金	非常救護金	二、三八二	三、八九〇
交付金		二、三八二	三、八九〇
訴訟費		一五〇	一五〇
補修費	減損補修費	四七七、〇七一	四八、五九八
	補修費	四七七、〇七一	一八四、五九八円
經常部計		一、九七〇、二九二	二、五九二、九五四
豫備費	豫備費	二一一、九二二	二四、二二七
豫備費支出		七四、九四一	一四、九四七
特別給與金		一一、二〇〇	一一、二〇〇
減損補塡金積立		三〇〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇

說明　第七十五號議案說明歲出第一乃至第三及第五記載理由ト同一理由ニ因ルモノニシテ共資源ヲ動力使用料ノ增加收入及減損補塡金積立金ノ一部減額ニ需メ本案ヲ提出ス。

議長ノ指名シタル委員左ノ如シ。

棚橋一郎　鈴木彌吉　成嶋菊次良　堀内伊太郎　川上賢三　垣見八郎右衛門　若林成昭　川久保源治　小栗富五郎　岩波多野友經　小坂梅吉　河井粂三郎　淺川庄次郎　天利保平

委員ハ棚橋一郎君ヲ委員長ニ推シ審議ノ末、六月二十八日ノ會議ニ於テ、兩案ニ對シ、同樣ニ左記ノ條件ヲ附シテ、原案ヲ可決シタル旨報告セリ。

左記

一、事務費中慰勞手當ノ給與ニ付テハ本年度ニ限リ市參事會ニ諮リ之ヲ實施スルヲ要ス

斯クテ同日ノ會議ニ於テ、兩案一括シテ議題ニ供セラルヽヤ、**天利庄次郎君**、收入中電車值上ニ因ル六百六拾萬圓ハ直接電車改善事業ニ使用スベキコト勿論ナルニ、此豫算ノ內容ヲ檢討スレバ、事務員ノ數ハ從來ニ比シ一躍三倍乃至五倍ヲ增加シ、之ガ爲ニ多額ノ俸給ヲ要スルノミナラズ、諸手當ニ於テモ、本市ノ他ノ局課ニ類例ヲ見ザル多大ノ金額ヲ要求セリ。故ニ若シ本案ガ通過スルトキハ、他ノ方面ニ惡影響ヲ及ボスヤ必セリ、此ノ如クニシテ電車ノ改善ニ直接ノ關係ヲ有セザル支出ト認ムベキモノ殆ド收入ノ半額ヲ占メ、車輛及ビ軌道改善ノ爲ニスル支出ハ、四分ノ一ニ達セザルナリ。故ニ余ハ此支出ニ對シテ大ニ斧鉞ヲ加ヘントス欲スト雖モ沿々數千言ヲ費シ、左表ニ示スカ如キ修正意見ヲ述ベタリ。

大正年間　第貳章　大正九年　第拾參節　電氣軌道事業費歲入出更正並追加豫算及

第七十五號議案

支出第一款事務費ノ内

科目	區分	金額	人員	單價	備考
理事 主事 技師 給	既定豫算額	三七、七〇〇円	一五人	年 二、五一三・三三三円	五萬二千六百三十四圓減ス
	更正豫算額	一三九、五五二	一〇月 一四人 四一人	年 二、八九七・二七三	
	修正額	八六、九一八	三四人	年 二、八九七・二七三	
事務員 技手 給	既定豫算額	七八、〇〇七	一二三人	月 五二、八五〇・〇〇〇	二十九萬二千五十九圓減ス
	更正豫算額	五四八、四〇〇	一〇月 一二九人 四八七人	月 八五、四四七・〇〇〇	
	修正額	二五六、三四一	三〇〇人	月 八五、四四七・〇〇〇	
手當ノ内	既定豫算額	二六六、四二一			二十四萬〇七百七十五圓減ス
	更正豫算額	三九〇、六一九			
	修正額	一四九、八四四			
被服費ノ内 主事 事務員 技手	既定豫算額	九〇一	二七人	三三・三七〇	一着三十三圓ノモノヲ一躍百八十圓トシ數二十七人ヲ三百二十人トセルニ付其人數及單價ヲ減シタリ 四萬千七百十一圓減ス
	更正豫算額	五七、七一一	三二〇人	一八〇・三四六	
	修正額	一六、〇〇〇	一六〇人	一〇〇・〇〇〇	

運輸費

科目	區分	金額	人員	單價	備考
運轉費 諸手當	既定豫算額	二九一、八〇七			二十萬八千〇九十三圓減ス
	更正豫算額	一、一五〇、五二九			
	修正額	九四二、四三六			

科目	區分	金額	備考
動力費 諸手當	既定豫算額	五、七〇九	五千三百八十八圓減ス
	更正豫算額	二二、二三〇	
	修正額	一六、八四二	

維持費

科目	區分	金額	備考
作業費 諸手當	既定豫算額	三五、二七七	六萬二千百二十六圓減ス
	更正豫算額	二五三、〇〇四	
	修正額	一九〇、八七八	
作業費 建物修繕費	既定豫算額	二四、四〇〇	壹萬圓減ス
	更正豫算額	四九、四〇〇	
	修正額	三九、四〇〇	

（減額後ノ合計　修正　一七、二一二、四七二圓）

臨時部

支出第一款　事務所營繕費

科目	區分	金額	備考
營繕費	既定豫算額	一二三、〇五六	壹萬五千圓減ス
	更正豫算額	二一八、〇五六	
	修正額	二〇三、〇五六	

第二款　改良設備費

第三款　補修費

建物費	既定豫算額	三七四、六二〇				
	更正豫算額	四六五、八九六				
	修正額	四二四、六二〇				四萬千二百七十六圓減ス
諸手當	既定豫算額	六、二五二				
	更正豫算額	九、四九八				
	修正額	四、三二八				五千百七十圓減ス
建物	既定豫算額	一七〇、六九〇				
	更正豫算額	四三一、二〇五				
	修正額	三三二、九二四				九萬八千二百八十一圓減ス

合計（臨時部合計修正後二三、二四六、二〇六圓）

既定豫算額　一、四一四、八四〇圓

更正豫算額　三、七三六、一〇〇圓

修正額　二、六六三、五八七圓

更正豫算額既定豫算ニ對シ　二、三二一、二六〇圓增加ス

修正額ハ更正豫算額ニ對シ　一、〇七二、五一三圓減ス

歲計總額修正　四〇、四五八、六七八圓

右修正ニ依リテ生スル差額ハ各軌道、電線路、車輛費ノ三費目ヘ理事者ニ於テ適宜ニ按配スヘシ

事務費ノ內重ナル豫算增加ノモノ

一款　事務費ノ內給料23種　增員ニ依ル費　五一七、八七八圓

同　需要費ノ內1235種　被服費其他費　七三、二一〇圓

三款　維持費ノ內10種　建物　二五、〇〇〇圓

七款　雜支出ノ內四項諸費23種　一四六、一四二圓

臨時部

一款　營繕費　建物　九五、〇〇〇圓

二款　改良設備費ノ內2種　建物　九一、二七六圓

三款　補修費ノ內　建物　二六〇、五一五圓

此計　一、二〇九、〇二一圓

（參照）

局長理事收入役主事技師

八年度	今年度	十三人
今年度	更正案	十七人
更正案	五十七人	
事務員技手		
八年度	百〇八人	
今年度	百二十三人	
更正案	六百十六人	
雇員監督助手		
八年度	五百八十人	
今年度	六百七十人	

大正年間　第貳章　大正九年　第拾參節　電氣軌道事業費歲入出更正竝追加豫算及電氣供給事業費歲入出更正竝追加豫算

	更正案	八百六十六人
車掌運轉手	八年度	五千六百十人
	今年度	六千九百五十八人
	更正案	六千九百五十八人
業務員見習	八年度延	十二萬四千四百四十人
	更正案	二十五萬五千五百人

第七十六號議案

事務費ノ內	給料總額十二分	二一七、七八三圓	
		一八、一四八・五一	二ヶ月分
	諸手當提案	八二、四二五	
	修正	三六、二九七	
差引減額		四六、一二八	減ス
供給費ノ內	給料十二分	七〇、八六〇	
		五、九〇五	
	諸手當提案	一八、六〇〇	
	修正	一一、八一〇	
差引減額		六、七九〇	減ス
動力費ノ內	給料十二分	六九、三〇〇	
		五、七七五	
	諸手當提案	一六、六〇〇	
	修正	一一、五五〇	
差引減額		五、〇五〇	減ス
作業費ノ內	給料十二分	一三三、一八九	
		一一、〇九九	
	諸手當提案	二六、九〇〇	
	修正	二二、一九八	
差引減		四、七〇二	減ス
補修費ノ內	給料十二分	二一、四六〇	
		一、七八八	
	諸手當提案	八、四一四	
	修正	三、五七六	
差引減額		四、八三八	減ス
此減額合計		六七、五〇八	

右積立金ニ編入スヘシ

次ニ**大庭重治君**左ノ質問ヲ爲セリ。

委員會ガ此兩案ニ同樣ニ附シタル條件中、「市參事會ニ諮リ」トアルガ、「諮リ」トハ單ニ參事會ニ諮問スレバ、其賛否ニ拘ラズ實行シ得ルノ意カ。第二、市會ノ法規ニ據レバ、監督官廳ハ市會ノ許可申請ノ趣旨ニ反セザル範圍內ニ於テノミ條件ヲ附スルコトヲ得ルモノトス、然ルニ今回ノ內務大藏兩大臣ノ許可ハ、其內容ニ於テハ、市會ノ規定ニ依ラザル監督命令ナリトス、試ニ見ヨ、此許可ノ內容ニ於テハ、市會ノ決定セル重要ナル條件、例ヘバ車輛四百臺ノ新造、三ケ年內ニ舊車ノ改造ト云ヘルガ如キ事項ハ、明カニ無視セラレ、理事者ガ全然不能ヲ明言

シタル條件ヲ伴フニ非ズヤ、即チ五百八十臺ノ「ボギー」車ヲ新造セヨト云ヒ、電氣局ノ權限ヲ擴大スルト同時ニ有用ノ人材ヲ採用セヨト云ヒ、年額參拾萬圓ノ範圍ニ於テ、時勢ノ進運ニ伴フ施設計畫ヲ爲セト云フ、此ノ如ク市會ノ意志ヲ無視シ、電氣局當事者ヲ評論シ、經費ノ限定ヲ敢テスルガ如キ命令ハ、法理上市會ノ決議ヲ無效ナラシムルニ非ズヤ、委員長及ビ當局者ノ所見如何。第三、本年度ノ豫算ニ據レバ、電車値上ノ結果、使用料ノ增收六百六萬圓、廣告料八萬九千圓、合計六百七拾四萬九千圓ナルガ、其內參百七拾萬圓ハ月給、賞與等ニ消費セラルトセバ、市會ガ値上ニ贊成シタル趣旨ハ全ク沒却セラルヽニ非ズヤ。

棚橋委員長此質問ニ答ヘテ曰ク、委員會ハ愼重ニ調査ヲ遂ゲタルガ、天利君ヲ除キ、大體ノ意向ハ、今日ノ狀勢ニ鑑ミ、課ノ增設、人員ノ增加、其他設備ノ完成ニ要スル經費ハ、電車改善ノ先決問題トシテ已ヲ得ズト云フニ在リタリ、又諸手當ニ關シテハ、本廳ト權衡ヲ保ツ爲、其決定ヲ局長ト市參事會トノ協商ニ一任スルコトトセリト。**大庭君**重ネテ、「諮リ」トハ單ニ諮問スルノ意ニ止マリ、參事會ガ反對シタル場合ニモ、尙ホ此豫算ヲ實施スルノ意カ、又增收ノ過半ヲ月給、洋服、手當等ニ費消スルコトヲ承認シタル理由如何、尙ホ又監督官廳ノ命令ヲ實行スルコトヲ理事者ハ明言シタルヤ如何ト問ヒ。**棚橋委員長**、「諮リ」トハ參事會ガ承認セザルトキハ中止スルコトヲ含意ス、又委員會ハ此程度ノ諸給與ハ已ヲ得ズト認メタリ、尙監督官廳ノ命令事項ニ關シテハ、理事者ハ能フ限リ實行スルコトニ努ムベシト言明セリト答ヘ。**大庭君**尙ホ質問ヲ繰返シタレバ。**井上局長**、余ハ監督官廳ノ命令ハ能フ限リ之ヲ遂行スベキコトヲ委員會ニ於テ言明シタルガ、一步ヲ進メテ、必ズ遂行スベシト斷言スルノ勇氣ハ之ヲ有セズ、又七百萬圓ノ半額ヲ手當、給與、被服等ニ費消スルハ多キニ過グトノ質問者ノ意見ナルモ、元來本案ノ目的ハ從業員ノ優遇ニ在リ、而シテ之ガ支出方法ノ詳細ハ、兩三日中ニ發表スベシ、又電車軌道其他ノ改善ニ就テハ、命令條件ニ從ヒ、三年間ニ之ヲ遂行スルニハ、借金政策ニ依ラザルベカラズト答ヘタリ。是ニ於テ**小久江美代吉君**天利君ノ修正意見ニ贊成シテ曰ク、約貳億ノ資本ヲ有スル電氣局トシテ、現在ノ組織ガ貧弱ニ失スルコトハ、余モ之ヲ認ムル、而モ監督官廳ノ認可條件ヲ見ルニ、宜ク電氣局ノ權限ヲ擴大スルト同時ニ、經驗アル有能ノ人材ヲ採用シ、事業ノ經營ヲ根本的且ツ組織的ニ研究シ、以テ時勢ノ進運ニ伴フ施設經營ヲ爲スベシト云ヘリ、經驗アル人材ノ採用トハ、其意味深長ニシテ、徒ニ人員ヲ增シ、主事、理事等ヲ殖ヤスノ謂ニアラズ、吾人ガ値上ニ贊成シタル所以ハ、一日モ早ク現在ノ醜態ヲ改善シテ、市民ノ便宜ヲ圖ルニ在リ、局長ノ言ニ據レバ、電車事業ヲ根本的ニ改善スルニハ、年額貳千五百萬圓ヲ要スルガ故ニ、借入金ニ依ルノ外ナキハ明白ナリ、仍テ此計畫ノ實行ニ必要ナル豫算ノ提出ヲ見ル迄ハ、天利君ノ修正案ヲ以テ充分ナリト信ズト。次ニ**大崎清作君**曰ク、天利君ノ修正意見モ一理ナキニ非ズト雖モ、此際大ニ職員ヲ增加シテ、急速ニ電車ノ改善ヲ斷行シ、以テ市民ノ苦痛ヲ除去スルハ焦眉ノ問題ナリ、故ニ余ハ委員會ノ報告ニ贊成スト。斯クテ採決ノ結果、天利君ノ修正說ハ敗レ、兩案共ニ委員會報告通決定セリ。

第拾四節　全部計量給水制實施問題

▽**水道量水器取附費繼續年期及支出方法**　六月二十八日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

第七十七號

自大正九年度
至大正十三年度　東京市水道量水器取附費繼續年期及支出方法

一金六百萬圓

大正年間　第貳章　大正九年　第拾四節　全部計量給水制實施問題

金九拾六萬圓　大正九年度支出額
金百參拾壹萬圓　大正十年度支出額
金百參拾萬圓　大正十一年度支出額
金百貳拾九萬圓　大正十二年度支出額
金百拾四萬圓　大正十三年度支出額

本案議題トナルヤ、大崎清作君ノ發議ニ依リ、左ノ三案ヲ本案ト一括シテ議題ニ供スルニ決セリ。

▽大正九年度水道追加豫算

第七十八號　大正九年度東京市水道歲入出追加豫算

歲入

一金九拾六萬圓　歲出

一金九拾六萬圓

說明　第七十七號議案ニ伴ヒ本案ヲ提出ス

▽水道使用條令改正ニ關スル件

第七十九號　東京市水道使用條例改正ニ關スル件

東京市水道使用條例左ノ通改正スルモノトス

東京市水道使用條例

第一章　通則

第一條　本市水道ノ給水區域ハ東京市一圓トス

第二條　本市水道ハ特ニ指定シタルモノノ外本市ノ量水器ニ依リ其ノ使用量ヲ計量シテ給水ス

第三條　給水裝置ヲ左ノ四種ニ分ツ

一　專用栓　一戶又ハ一箇所ノ用ニ供スルモノ

二　特別栓　左ノ用ニ供スルモノ

(イ)　汽罐用、船舶用
(ロ)　噴水、瀧、泉池、庭園其ノ他娛樂用
(ハ)　撒水、自動車ノ洗滌
(ニ)　原動力其ノ他水壓ヲ利用スルモノ
(ホ)　工事其ノ他一時用
(ヘ)　前各號ノ外本市ニ於テ特別栓ニ據リ使用セシムル必要アリト認メタルモノ

三　共用栓　私設又ハ公設トシ三戸以上ノ共用若ハ公衆ノ用ニ供スルモノ

四　消火栓　私設又ハ公設トシ防火用ニ供スルモノ

第四條　給水裝置ノ新設、增設、變更、使用其ノ他給水ニ關スル事項ハ總テ本市ノ承認ヲ受クヘシ他人ノ給水裝置ヲ保管セムトスルトキ亦同シ

第五條　共用栓ハ特ニ承認シタルモノノ外建坪十二坪未滿ノ家屋ニ居住スル者ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ建坪ハ各階ヲ通算ス其ノ算定方法ハ本市ノ定ムル所ニ依ル

第六條　共用栓ノ鑑札及鍵ハ使用者ノ戸數ニ應シ本市ヨリ之ヲ交付ス

前項ノ鑑札及鍵ノ使用ヲ廢止シタルトキハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第七條　私設共用栓ノ給水裝置ハ其使用者ノ居住スル土地又ハ家屋ノ所有者ニ非サレハ新設ノ請求ヲ爲シ若ハ其ノ土地又ハ家屋ト分離シテ賣買、讓渡、相續及遺贈等ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第八條　私設消火栓ハ火災又ハ演習ノ場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ許サス

私設消火栓ハ本市ニ於テ之ヲ封緘ス

第九條　本條例ニ於テ給水裝置ト稱スルハ給水ノ爲配水管ヨリ分岐シタル給水管及之ニ附屬スル給水用具ヲ以テ構成セル設備ヲ謂フ但シ量水器ヲ包含セス

給水裝置ノ工費ハ請求者ノ負擔トス

給水裝置ノ所有權ハ工費ノ精算完納ニ依リ請求者ニ歸屬ス

給水裝置ヲ賣買、讓渡、相續及遺贈等ニ依リ取得シタル者ハ給水ニ關スル前所有者ノ權利義務ヲ繼承シタルモノト看做ス

第十條　量水器ノ保管ハ給水裝置ノ所有者又ハ保管者若ハ給水請求者ノ責任トス

第十一條　給水請求者又ハ給水裝置所有者市內ニ居住セサルトキハ使用料納付其ノ他ノ事務ヲ處辨セシムル爲市內ニ代理人ヲ選定スヘシ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ給水管ヲ切斷スルコトアルヘシ

一　水道ノ使用ヲ廢止シタルトキ

二　給水裝置所有者九十日以上所在不明ニシテ保管者ナキトキ

三　水道使用廢止ノ狀態ニ在リト認メタルトキ

第十三條　天災事變又ハ水道工事其ノ他公益上必要アルトキハ給水ノ制限若ハ停止ヲ爲スコトアルヘシ

給水ノ制限又ハ停止ヲ爲スヘキ場合ハ本市ニ於テ其ノ日時及區域ヲ告知ス但急迫ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　給水ノ制限、停止、漏水又ハ斷水ヨリ生スル損害ニ對シテハ本市其ノ責ニ任セス

第二章　工事及工費

第十五條　給水裝置ノ工事ハ本市ニ於テ之ヲ施行ス但シ請求者特ニ本市ノ承認ヲ受ケタルトキハ自己ノ材料ヲ提供シ又ハ自ラ量水器以下ノ流末工事ヲ爲スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ材料、設計及工事ノ檢查ヲ受クヘシ

第十六條　給水裝置ノ工事又ハ設計ノ請求者ハ本市ノ指定スル概算額ヲ豫納スヘシ但シ官公署其ノ他豫納ノ必要ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項概算額ノ豫納通知後十五日以內ニ之ヲ納付セサルトキハ其ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス第一項ノ概算額ハ精算ノ結果貳拾錢以上ノ過不足アルトキハ之ヲ還付又ハ追徵ス

第十七條　給水裝置ノ位置ハ請求者ノ指定ニ據ル若不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

請求者前項ノ指定ヲ爲ササルトキハ工事ノ請求ヲ取消シタルモノト看做ス

給水裝置ノ位置又ハ工事ニ關シ第三者ノ異議アルモ本市ハ其ノ責ニ任セス

第十八條　第十二條ノ場合ニ於テ公用地內ニ在ル給水裝置ハ之ヲ撤廢スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於ケル工費ハ給水裝置所有者ノ負擔トシ第二十三條第二項ヲ準用ス

第十九條　道路工事其ノ他ノ事由ニ因リ公用地內ニ於ケル給水裝置ノ改造又ハ修繕ノ必要アルトキハ所有者ノ請求ヲ俟タス本市ニ於テ之ヲ施行ス

前項ノ費用ハ其改造又ハ修繕ノ必要ヲ生セシメタル者ノ負擔トス

第二十條　取締上其ノ他必要アリト認ムルトキハ請求ヲ俟タス給水裝置ノ檢查又ハ加工ヲ爲スコトアルヘシ

前項ノ場合ト雖其ノ工費ハ給水裝置所有者ノ負擔トス但シ事情ニ依リ工費ノ免除ヲ爲スコトアルヘシ

第二十一條　給水裝置ノ新設工費ハ其ノ三分ノ二以內ニ限リ本市ノ承認ヲ受ケ十二月以內ノ月賦ヲ以テ納付スルコトヲ得

第二十二條　工費ノ精算完納ニ至ル迄ハ給水裝置ノ所有權ヲ本市ニ留保シ其ノ保管ハ請求者ノ責任トス給水裝置工事中ノ既成部分ニ付テモ亦同シ

工費ノ精算完納前給水裝置ヲ毀損亡失シタルトキハ不可抗力ニ因ル場合ト雖其ノ未納ニ係ル工費ハ之ヲ徵收ス

第二十三條　工費ヲ指定ノ期限內ニ納付セサルトキハ給水裝置ヲ撤廢スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ撤廢シタル給水裝置又ハ其ノ材料ヲ處分シテ未納工費ニ充當シ過不足アルトキハ之ヲ還付又ハ追徵ス

第三章　使用料及手數料

第二十四條　專用栓、特別栓、私設共用栓ノ使用料及消火栓演習使用料ハ給水裝置ノ所有者又ハ保管者ヨリ公設共用栓其ノ他市有給水裝置ノ使用料ハ給水請求者ヨリ之ヲ徵收ス

第二十五條　使用料ハ左ノ區別ニ據ル

一　專用栓

一月使用料十立方メートル迄ハ量水器ノ口徑ニ應シ基本料金ヲ左ノ通トシ以上一立方メートルヲ增ス每ニ湯屋營業ハ三錢其ノ他ハ五錢ヲ加フ

量水器口徑（單位ミリメートル）	基本料金
十二又ハ十三	七十錢
十六	八十五錢
二十	九十錢
二十五	一圓十錢

三十	一圓二十五錢
四十	一圓三十五錢
五十	一圓六十五錢
七十五	二　圓
聯用（七十五又ハ八十	二圓四十錢
二十）	二圓六十五錢
百	三圓二十五錢
聯用（百	四　圓　十　錢
二十五	四圓七十錢
百五十	五圓六十錢
聯用（百五十	六圓五十錢
二十五	七圓五十五錢
二百	八圓四十錢
聯用（二百	十　圓　十　錢
三十又ハ四十	十一圓二十五錢
二百五十	
聯用（二百五十	
四十	
三百	
聯用（三百	
四十又ハ五十	

二　特別栓

一月使用量二立方メートル迄ハ量水器ノ口徑ニ應シタル前號ノ基本料金ヲ準用シ以上一立方メートルヲ增ス

毎ニ汽罐用船舶用ハ八錢其ノ他ハ二十錢ヲ加フ

二　共用栓

(イ) 建坪十二坪未滿ノ家屋居住者ハ一戸一月使用量六立方メートル迄ノ基本料金ヲ左ノ通トシ以上一立方メートル迄ヲ增ス每ニ三錢ヲ加フ

建坪十二坪未滿ノ家屋居住者	基本料金
公設共用栓使用者ニシテ建坪六坪未滿ノ家屋ニ居住シ家計困難ト認ムル者	二十錢
(ロ) 特ニ承認ヲ受ケタル者ハ一戸一月使用量十立方メートル迄ヲ增ス每ニ五錢ヲ加フ	八錢
建坪二十坪未滿ノ家屋居住者	基本料金
建坪二十坪以上ノ家屋居住者	四十錢
	七十錢

(ハ) 公衆用共用栓ヲ營業又ハ職業用ニ使用スル者ハ鑑札一個一月三十錢トス

共用栓ヲ天災事變ノ爲又ハ衞生上臨時他ニ使用セシメタル月ニ限リ在來使用者ノ使用料ハ其ノ基本料金ノミヲ徵收ス

專用栓又ハ特別栓ニ二個以上ノ量水器ヲ裝置シタルトキハ一個每ニ基本料金ヲ徵收ス

第二十六條　私設消火栓ヲ演習ノ爲使用スル場合ノ使用料ハ一口ノ使用時間二十分迄每ニ左ノ割合ニ據ル

一　量水器ノ裝置アルモノ　前條量水器所屬栓料金ノ外　一圓五十錢
二　量水器ノ裝置ナキモノ　同　二圓

第二十七條　使用料ハ一年度分ヲ左ノ二期ニ區分シ給水開始ノ際一期間相當ノ概算額ヲ前納セシメ以後前期分ハ十一月末日後期分ハ五月末日迄ニ之ヲ徵收ス

前期　自四月一日　至九月三十日
後期　自十月一日　至翌年三月三十一日

官公署及一時ノ給水ニ係ルモノノ使用料ハ精算額ニ依リ隨時徵收スルコトヲ得

湯屋營業其ノ他多量ノ水ヲ使用スルモノノ使用料ハ一月毎ニ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二月分相當ノ概算額ヲ前納セシメ翌月中ニ前月分ノ使用料ヲ徵收ス

第一項及前項ノ概算額ハ水道ノ使用ヲ廢止シタル際之ヲ精算ス

逋脫ノ使用料及違背處分ニ依リ徵收スヘキ使用料ハ隨時之ヲ徵收ス

第二十八條　水道ノ使用ヲ開始、中止、廢止シタル月ノ使用料ハ其ノ料率ノ重キニ從フ

給水裝置ノ種別又ハ量水器ノ口徑ヲ變更シタル月ノ使用料ハ其ノ料率ノ重キニ從フ

給水裝置ヲ料率ノ異ナル二種以上ノ用途ニ混用シタルトキハ本市ニ於テ其ノ使用量ノ區分ヲ認定シ使用料ヲ徵收ス此ノ場合ニ於ケル基本料金ハ其ノ重キニ從フ

水道ノ使用中止又ハ廢止ノ屆出ナキトキハ量水器ニ使用水量ヲ表示セサル場合ト雖基本料金ハ之ヲ徵收ス違背處分ニ依リ給水ヲ停止シタルトキ亦同シ

第二十九條　共用栓ノ使用水量ハ各戶均等ニ使用シタルモノト看做シ第二十五條第一項第三號(イ)(ロ)ノ區別ニ從ヒ其ノ使用料ヲ徵收ス

第三十條　給水裝置又ハ量水器ニ異狀アリタルトキ若ハ一時ノ給水ニシテ量水器ヲ裝置セサル場合ハ本市ニ於テ其ノ使用水量ヲ認定ス使用料ノ逋脫ヲ圖リタルトキ亦同シ

第三十一條　使用料ハ給水ノ制限、停止ヲ爲シタルトキ雖之ヲ減免セス

第三十二條　慈善、救濟又ハ公益ノ爲ニスル給水ニ對シテハ特ニ使用料ヲ輕減若ハ免除スルコトアルヘシ

第三十三條　手數料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス

一　給水裝置ノ工事ヲ請求シ設計着手後之ヲ取消シタルトキ
(イ)　鉛管工事　一工事ニ付二圓トシ支栓一個ヲ增ス毎ニ二十錢ヲ加フ
(ロ)　鐵管工事　一工事延長五十間以內ハ二圓トシ以上十間ヲ增ス毎ニ二十錢ヲ加フ
二　共用栓ノ鑑札又ハ鍵ノ再交付ヲ爲ストキ　一個一回　一圓
鑑札又ハ鍵一個ニ付三十錢
三　量水器ノ試驗ヲ請求シ試驗ノ結果異狀ヲ認メサルトキ
(イ)　量水器ノ口徑二十五ミリメートル迄　一個一回　二圓
(ロ)　同　三十ミリメートル乃至五十ミリメートル　一個一回　四圓
(ハ)　同　七十五ミリメートル乃至百ミリメートル　一個一回　七圓
(ニ)　同　百五十ミリメートル乃至二百ミリメートル　一個一回　十圓

(ホ) 同　二百五十ミリメートル乃至三百ミリメートル　一個一回　十　圓

四　第十五條第二項ニ該當スルトキ

甲　材料檢査

(イ) 鉛管一條延長五十尺迄ハ五十錢トシ以上十尺迄ヲ增ス每ニ十錢ヲ加フ

(ロ) 水栓及水止栓類一個十五錢

(ハ) 口徑五十ミリメートル迄ノ金屬管一本五十錢トシ以上十尺迄ヲ增ス每ニ十錢ヲ加フ

(ニ) 鐵管、阻水弁及異形管

口　徑　　鐵管一本ニ付　阻水弁及異形管一個ニ付

百ミリメートル迄　一圓　一圓五十錢

百五十ミリメートル乃至二百ミリメートル　二圓　三　圓

二百五十ミリメートル乃至三百ミリメートル　三　圓　四圓五十錢

(ホ) 消火栓一個二圓

乙　流末工事檢査

第一號ノ手數料ニ準ス

前各號ニ該當セサル物件ノ檢査ヲ要スル場合ハ類似シタル物件ニ對スル手數料ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第一項ノ設計又ハ檢査ノ爲メ特ニ要スル費用及量水器ノ取外、取付工費、運搬費ハ別ニ其ノ實費ヲ徵收ス

第一項第一號ノ場合ニ於テ第十六條工費概算額ノ豫納アルトキハ其ノ金額ヲ手數料ニ充當シ過不足アルトキハ

之ヲ還付又ハ追徵ス

第四章　違背處分

第三十四條　給水裝置ノ所有者、保管者、給水請求者、使用者ノ行爲ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以內給水ヲ停止シ又ハ基本料金一月以上三十月分迄ヲ增徵ス

一　恣ニ導水裝置ヲ爲シ又ハ給水裝置ヲ移動、變更、撤去若ハ加工シタルトキ

二　恣ニ水止栓ヲ開閉シタルトキ

三　量水器ヲ破損シ又ハ其ノ作用ヲ妨ケタルトキ

四　給水ヲ濫用シ又ハ恣ニ分與シタルトキ

五　共用栓ノ鑑札、鍵ヲ貸與又ハ讓與シ若ハ之ヲ連繫セスシテ使用シタルトキ

六　恣ニ給水裝置ヲ種別ノ異リタル用途ニ使用シタルトキ

七　工費、使用料、手數料其ノ他本條例ニ依リ納付スヘキ金額ヲ期限內ニ納付セサルトキ

八　給水裝置ノ修繕手續ヲ怠リ漏水ヲ放任シタルトキ

九　水道掛員ノ職務執行ヲ拒ミ又ハ妨害シタルトキ

十　使用料ノ逋脫ヲ圖リタルトキ

十一　前各號ノ外本條例又ハ本條例ニ基キ規定シタル事項ニ違背シ若ハ虛僞ノ屆出テヲ爲シタルトキ

停水處分ハ專用栓及特別栓併用者ニ在リテハ其ノ全部ニ對シテ之ヲ執行ス

第三十五條　私設消火栓ノ封緘ヲ消火ノ目的ニ非スシテ破毀シ又ハ恣ニ消火以外ノ用途ニ使用シタルトキハ本市

ノ認定シタル使用料ヲ徴收ス

前項ノ場合ニ於テハ消火栓ニ量水器ノ裝置ヲ爲シ爾後本市ノ認ムル種別ニ依リ第二十五條ノ使用料ヲ徴收ス但シ消火ノ爲使用シタリト認ムル水量ハ之ヲ控除ス

第三十六條　第三十四條ノ增徴金及前條ノ使用料ハ其ノ違背行爲者ヨリ之ヲ徴收ス

第三十七條　本條例ノ違背行爲者ニシテ給水裝置ノ所有者、保管者、使用者又ハ給水請求者ノ家族、雇人、同居人ナルトキハ其ノ行爲者ノ屬スル戸主、世帶主又ハ雇主ヲシテ其ノ責ニ任セシム

第三十八條　左ノ場合ニ於テハ情狀ニ依リ其ノ使用ノ承認ヲ取消シ給水管ヲ切斷シ又ハ二月以內給水ヲ停止ス

一　第七條ノ後段ニ違背シタルトキ

二　違背處分ヲ受クルモ其ノ行爲ヲ改メサルトキ

第三十九條　給水裝置所有者、保管者、給水請求者又ハ使用者ニ非スシテ第三十四條第一項第一號乃至第三號第九號ニ該當スル者又ハ規定ノ手續ニ依ラスシテ水道ヲ使用シタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處ス仍損害アルトキハ之ヲ賠償セシム

第四十條　違背處分ヲ受ケタル者其ノ違背行爲ヲ釐正シタルトキハ停水處分ノ執行ヲ猶豫輕減又ハ免除スルコトアルヘシ

附則

第四十一條　從前ノ規定ニ依リ納付シタル計量給水料豫納金ハ本條例ニ依ル使用料概算額トス

第四十二條　既設ノ給水裝置ニ設備スル量水器ノ取付工事ハ本市ノ定ムル施行順序ニ依ル其ノ工費ハ材料費ノ外之ヲ徴收セス

前項ノ施行順序ニ拘ラス量水器ノ裝置ヲ請求スル者ハ其ノ工費ノ全額ヲ徴收ス

第四十三條　從前ノ規定ニ依ル專用栓及共用栓ノ使用料ハ量水器ヲ裝置スル迄左ノ通トス

一　專用栓

(イ)　一戸五人迄一月七十錢トシ以上一人ヲ增ス毎ニ七錢ヲ加フ

(ロ)　支栓一個一月四十錢

(ハ)　支栓ノ設ケナキ浴槽一個一月十五錢

(ニ)　牛馬一頭一月自用ハ五十錢營業用ハ三十五錢

二　共用栓

(イ)　建坪十二坪未滿ノ家屋居住者ハ一戸一月二十錢トシ浴槽ヲ有スル者ハ一個一月十錢ヲ加フ

(ロ)　公設共用栓使用者ニシテ建坪六坪未滿ノ家屋ニ居住シ家計困難ト認ムル者ハ一戸一月八錢トシ浴槽ヲ有スル者ハ一個一月五錢ヲ加フ

(ハ)　特ニ承認ヲ受ケタル者ハ左ノ通トス

建坪十二坪以上二十坪未滿ノ家屋居住者ハ一戸五人迄一月四十錢トシ一人ヲ增ス毎ニ七錢ヲ加ヘ浴槽ヲ有スル者ハ一個一月十五錢ヲ加フ

建坪二十坪以上ノ家屋居住者ハ專用栓ノ料率ニ依ル

第四十四條　從前ノ規定ニ依ル專用栓及共用栓ニ量水器ヲ裝置シタル月ノ使用料ハ前條ノ規定ニ依リ徴收ス

第四十五條　本條例施行前裝置シタル私有量水器ハ引續キ之ヲ使用スルコトヲ得

第四十六條　公益上其ノ他本市ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ市外ニ給水スルコトアルヘシ

前項ノ給水ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四十七條　本條例施行期日及施行上必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第四十八條　明治四十年三月東京市告示第十八號東京市水道市設共用栓規則ハ之ヲ廢止ス

說明　第七十七號議案ニ伴ヒ給水制度ノ改正ヲ要スルト現行水道使用條例ハ制定後十數年ヲ經過シ運用上不便ノ廉アルヲ以テ之カ改正ノ必要アリ尚料金ハ近時諸物價及勞銀ノ昂騰ニ伴フ水道擴張工事費ノ增額竝給水制度變更ニ因ル量水器取付工事費一部ノ資源トシテ之カ引上ヲ爲スモノトシ本案ヲ提出ス

（參照）

東京市水道使用條例（明治四十年三月二十七日　東京市條例第一號　明治四十一年三月十五日　東京市條例第一號追加）

第一章　通則

第一條　給水ハ左ノ四種ニ分ツ

一　專用給水　一戶ノ專用ニ屬シ水量ヲ計ラスシテ供給スルモノ

二　共用給水　二戶以上ノ共用ニ屬シ水量ヲ計ラスシテ供給スルモノ

三　普通計量給水　一戶又ハ一ケ所ノ專用ニ屬シ水量ヲ計リテ左ノ使用ニ供給スルモノ

一　官衙、公署、兵營、學校、病院、會社、劇場、寄席、湯屋、豆腐屋、宿屋、料理屋、貸座敷、製造業、釀造業、印刷業、青物商、魚商、酒小賣商、古物商、洗濯屋、理髮店其他之ニ類スルモノ但多量ノ水ヲ使用セスト認ムルモノハ之ヲ除ク

一　一戶十一人以上又ハ居住人員ノ一定セザルモノ

一　牛馬四頭以上ヲ飼養スルモノ

一　船舶又ハ船舶給水所

一　前各項ノ外多量ノ水ヲ使用スルモノ

四　特別計量給水　水量ヲ計リテ左ノ使用ニ供給スルモノ

一　噴水、瀧、泉池、庭園ノ撒水等

一　水槽ヲ設ケテ他ニ導水スルモノ但本市ノ指定ニ依リ設置シタルモノハ之ヲ除ク

一　原動力

一　工事其他ノ爲メ一時使用ニ係ルモノ

第二條　專用給水ノ使用ニ該當スル者ト雖其希望ニ依リ普通計量給水ト爲スコトヲ得

給水ハ二種以上ヲ併用スルコトヲ得ス但特別計量給水ハ此限ニアラス

給水種別ノ決定ハ本市ノ認ムル所ニ依ル

第三條　防火用ノ爲メニ私設消火栓ヲ設ルコトヲ得

私設消火栓ハ火災又ハ使用演習ノ場合ノ外使用スルコトヲ得ス

私設消火栓ハ本市ニ於テ封緘ヲ附ス

第四條　給水ハ罹災又ハ水道工事其他已ムヲ得サル場合ノ外制限若クハ停止スルコトナシ但給水ヲ制限シ若クハ停止スヘキ場合ハ本市ニ於テ其順序區域等ヲ定メ之ヲ告知ス

第二章　給水請求及裝置

第五條　給水ヲ請求セントスル者ハ所轄區役所ニ申出ツヘシ給水管及給水附具ノ位置變更、改造、增設、修繕若クハ撤去ヲ爲サントスルトキ亦同シ但撤去ノ場合ニハ未納ニ係ル料金工費ヲ完納スヘシ

他人ノ給水管ヨリ支分引用セントスル者ハ本管所有者ノ承諾ヲ得タルコトヲ證スヘシ

本管所有者ハ給水ノ廢止又ハ撤去ヲ爲サントスルトキハ豫メ支分引用者ニ通知スヘシ此場合ニ於テ支分引用者本管取得ノ手續ヲ爲ササルトキハ給水ヲ廢止シタルモノト看做ス

共用給水ハ地主又ハ家主ヨリ請求スヘシ若シ數名ノ地主又ハ家主共同シテ請求セントスルトキハ總代人一名ヲ選定スルモノトス但借地人又ハ借

家人連署シ總代人一名ヲ選定シ請求スルコトヲ得

給水請求者其區ニ居住セサルトキハ料金其他ノ事務ヲ處辨セシムル爲メ其區内ニ代理人ヲ選定スヘシ

第六條　總代人ハ給水ニ關スル一切ノ責任ヲ負擔シ給水管及給水用具ヲ處分スル權能ヲ有スルモノトス

總代人又ハ代理人不適任ナリト認メタルトキハ其變更ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　非用給水ノ請求者ニハ使用者ノ月數ニ應シ證札及鍵ヲ交付ス其不用ニ際シタルモノハ直ニ之ヲ返納スヘシ

使用者ハ送水ノ際必ス證札鍵ヲ携帶スヘシ

證札又ハ鍵ヲ毀損亡失シ更ニ交付スルトキハ手數料トシテ各金貳拾錢ヲ徴ス

亡失シタル證札、鍵ヲ發見シタルトキハ直ニ返納スヘシ

第八條　給水裝置ハ本市ニ於テ之ヲ爲ス

工事ハ工費ノ納付又ハ月賦檢查ノ提出ヲ待チ着手ス但本市ニ於テ其必要ヲ認メサルトキ及金五圓以内ノ工事竝修繕工事ハ此限ニ在ラス

給水管及給水用具ノ位置ハ請求者ニ於テ指定スヘシ

前項ノ指定ニ對シ第三者ノ異議アルモ本市ハ其責ニ任セス

水壓及給水器ノ位置不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ相當指定期日内ニ變更ノ手續ヲ爲ササルトキハ本市直ニ工事ヲ施行シ其費用ヲ徴收ス

第九條　給水請求ニ先チ工費概算ヲ知ラントスル者ハ設計ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十條　給水ノ請求ヲ取消シ又ハ前條ノ請求者ニシテ工費概算通知ノ後十五日以内ニ給水ノ請求ヲ爲ササルトキハ金五拾錢以上金五圓以下ノ設計手數料ヲ徴收ス但請求者ニシテ官衙、公署若クハ實地調査前ノモノハ此限ニ在ラス

第十一條　給水所ヲ設ケントスル者ハ本市ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　計量給水ニハ本市ニ於テ量水器ヲ設置ス其保管ハ給水用具所有者ノ責任トス

本市ノ檢查承認ヲ受ケ私有ノ量水器ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金五拾錢以上金五圓以下ノ檢查手數料ヲ徴收ス

第十三條　給水請求者ハ本市ノ檢查承認ヲ受ケ自ラ水槽ヲ設ケ又ハ量水器以下三尺ノ部分ヨリ流末裝置ヲ爲スコトヲ得其改設、變更、修繕ノ場合亦同シ

前項ノ工事ハ着手書日前其落成シタルトキハ三日以内ニ當廳ニ届出テ實地檢查ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ金五拾錢以上金五圓以下ノ檢查手數料ヲ徴收ス

第十四條　給水使用者ノ門戸ニハ標識ヲ掲ク

第十五條　給水管、給水用具又ハ量水器ニ異狀アリト認ムルトキハ速ニ所轄區役所ニ申出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ量水器ノ試驗ヲ請求シ試驗ノ結果異狀ヲ認メサルトキハ金五十錢以上金五圓以下ノ試驗手數料ヲ徴收ス

第十六條　左ノ場合ニ於テハ三日以前ニ所轄區役所ニ申出ツヘシ

一　給水ヲ開始、中止、廢止セントスルトキ

二　練習ノ爲メ私設消火栓ヲ使用セントスルトキ

三　他人ノ給水管及給水用具ヲ管理セントスルトキ

第十七條　左ノ場合ニ於テハ七日以内ニ所轄區役所ニ申出ツヘシ

一　給水種別ヲ變更スヘキ事由ヲ生シ又ハ料金ノ標準ニ異動アリタルトキ

二　火災ノ爲メ私設消火栓ヲ使用シタルトキ

三　給水管及給水用具所有名義ノ變更又ハ借ヲ爲シタルトキ

四　代理人ノ變更ヲ爲シタルトキ

五　非用給水ノ繼代人ヲ變更シタルトキ

六　非用給水使用者ノ增減アリタルトキ

七　證札、鍵ヲ毀損亡失シタルトキ

給水管及給水用具ヲ讓受ケ又ハ新ニ非用給水ノ繼代人ト爲リタル者ハ前者ノ權利義務ヲ繼承スルコトヲ要ス

第十八條　給水管及給水用具ノ所有者所在不明ニシテ適當ナル管理者ヲ附セス若クハ正當ノ事由ナクシテ六ケ月以上水道ヲ使用セサルトキハ其給水管ヲ切斷スルコトアルヘシ

第十九條　道路變更其他ノ事由ニ依リ水道本支管ノ移轉ヲ必要トスルトキハ之ニ伴フ各月給水管ノ改造工事ハ所有者ノ請求ヲ待タス本市ニ於テ之ヲ

ヲ施行ス

前項ノ費用ハ水道本支管移轉ノ必要ヲ生セシメタル者ノ負擔トシ給水管ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ其所有者ニ交付ス

第三章　給水工費

第二十條　給水工費ハ給水請求者ノ負擔トス但給水開始ノ日ヨリ三ケ月以內ニ給水管又ハ給水用具ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ本市ノ費用ヲ以テ之ヲ修補ス

第二十一條　工事施行ノ際請求ニ依リ徵收シ過不足アルモ之ヲ還付又ハ追徵セス

第二十二條　給水請求者工費額ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ所轄區役所ニ納付スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以內ニ納付セス又ハ月賦證書ヲ差出ササルトキハ給水請求ヲ取消シタルモノト看做ス但第九條ニ依リ工費額ノ通知ヲ受ケタル者ニ在テハ其期間ヲ給水請求ノ日ヨリ起算ス

第二十三條　給水工費ヲ一時ニ納付シ能ハサル者ハ本市ノ定ムル利子ヲ加ヘ十二ケ月以內ノ月賦ヲ以テ納付スルコトヲ得

但修繕、變更、改造、增設、撤去等ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

月賦納付ヲ爲サントスル者ハ保證人連署ノ上月賦證書ヲ差出スヘシ

保證人ハ本市內ニ居住シ土地又ハ家屋ヲ所有スル者ニ限ル

保證人ハ連帶ノ責任アルモノトス

保證人其資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ第二項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條　給水工費ノ月賦納付ニ係ル給水管及給水用具ハ月賦皆納ニ至ル迄本市ニ其所有權ヲ留保ス但月賦皆納迄ハ給水請求者ヲ管理者ト看做ス

第二十五條　月賦工費皆納前給水ヲ廢止シ又ハ變災其他ノ事故ニ因リ給水管及給水用具ヲ毀損亡失シタルトキト雖其未納ニ係ル月賦工費ハ之ヲ徵收ス

第二十六條　月賦工費ノ納付ヲ怠リタルトキハ給水管及給水用具ヲ撤去シ既納ニ係ル工費ハ之ヲ還付セス若シ既納ノ工費ニシテ撤去費竝其材料價格ノ缺損ヲ償フニ足ラサルトキハ更ニ其差額ヲ徵收ス

第四章　料　金

第二十七條　水料ハ左ノ割合ニ據リ徵收ス

專用給水ノ料金ハ一ケ年ニ付左ノ割合トス

一　一戶五人迄金五圓トシ一人ヲ增ス每ニ金五拾錢ヲ加フ

二　支栓ヲ設クルモノハ一栓ニ付金參圓

三　支栓ヲ設ケサル浴槽ハ一個ニ付金壹圓

四　自用牛馬ヲ飼養スルモノハ一頭ニ付金參圓五拾錢

五　營業用牛馬ヲ飼養スルモノハ一頭ニ付金貳圓五拾錢

共用給水ノ料金ハ一戶一ケ年金壹圓五拾錢トス

普通計量給水ノ料金ハ一ケ月ニ付使用高十立方メートル迄ハ金參拾錢以上一立方メートルヲ增ス每ニ湯屋營業ハ金貳錢其他ハ金參錢ヲ加フ

特別計量給水ノ料金ハ一立方メートルニ付水槽ハ金五錢其他ハ金拾錢トス

第二十八條　私設消火栓演習ノ料金ハ左ノ割合ニ據リ徵收ス

一　量水器ノ裝置アルモノハ普通計量給水水料ノ外一ロ一回ニ付金五拾錢

二　量水器ノ裝置ナキモノハ一口一回ニ付金壹圓

第二十九條　料金ハ給水用具ノ所有者若クハ管理者又ハ共用給水總代人ヨリ徵收ス

第三十條　水料ハ每年左ノ二期ニ分チ前期ハ五月末日後期ハ十一月末日迄ニ徵收ス但官衙、公署ノ水料ハ隨時徵收スルコトヲ得

前期　四月一日ヨリ　九月三十日マテ

後期　十月一日ヨリ翌年　三月三十一日マテ

徵收期間內ニ開栓シタルモノ又ハ一時ノ給水ニ係ルモノノ水料ハ隨時之ヲ徵收ス

湯屋營業者其他多量ノ水ヲ使用スル者ニ對スル水料ハ一ケ月每ニ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十一條　專用給水及共用給水ノ水料ハ每期初月一日現在ノ標準數ニ據リ之ヲ査定ス

給水ヲ開始、中止、廢止シタルトキノ水料ハ月割ヲ以テ徵收ス但給水ヲ中止シタル月ニ於テ更ニ給水スルトキハ其月ノ水料ハ之ヲ徵收セス

一期間內ニ戶數、入口、牛馬及浴槽ノ數ニ異動ヲ生スルモ水料ハ之ヲ增減セス

第三十二條　計量給水ノ水量ハ量水器ヲ以テ之ヲ定ム但一時ノ給水ニシテ量水器ノ裝置ヲ爲サヽリシ場合ハ見積量ニ據ル計量給水ノ水料ハ官衙、公署ヲ除ク外給水開始ノ際一期間ノ見積額ヲ豫納セシメ以後每期初月十日迄ニ點檢シ其使用水量ニ據リ精算額ヲ徵收ス但給水ヲ止メタルトキハ其日迄ノ使用水量ニ據ル

一ケ月每ニ徵收スルモノニ在テハ前項ノ見積額ヲ二ケ月分トス

計量給水ノ開通シタル月ノ使用水量ハ翌月ニ合算ス

量水器ニ異狀ヲ生シ又ハ給水管、給水用具ニ破損アリタル場合ノ水料ハ其改修前後二ケ月間ニ於ケル使用水量ノ平均量ニ據リ算定ス

第二項豫納額ヲ增減スルノ必要アルトキハ三十日以內ニ其差額ヲ追徵又ハ還付ス

第三十三條　給水ノ種別ニ變更シタル月ノ水料ハ舊種別ニ據リ徵收ス但計量給水ヲ專用給水ニ變更シタル月ノ水料ハ其前月分ノ水量ニ據リ徵收ス

第三十四條　量水器使用料ハ左ノ割合ニ據リ徵收ス

內徑	一ケ月使用料
十二又ハ十三ミリメートル	金貳拾錢
十六ミリメートル	金貳拾貳錢
二十ミリメートル	金貳拾五錢
二十五ミリメートル	金參拾六錢
三十ミリメートル	金四拾六錢
四十ミリメートル	金五拾四錢
五十ミリメートル	金七拾參錢
七十五又ハ八十ミリメートル	金九拾五錢
百ミリメートル	金壹圓參拾五錢
百五十ミリメートル	金貳圓貳拾五錢
二百ミリメートル	金參圓貳拾錢
二百五十ミリメートル	金四圓四拾錢

量水器使用料ハ水料徵收ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

量水器使用料ハ裝置中之ヲ徵收ス但量水器取付竝取外ノ月ハ各全月分ヲ徵收ス

第三十五條　慈善若クハ公共事業ノ爲メニスル給水ニ對シテハ特ニ料金ヲ輕減若クハ免除スルコトアルヘシ

變災又ハ水道工事等ノ爲メ給水ヲ制限シ若クハ停止スルモ水料ハ之ヲ減免セス違背處分ノ爲メ給水ヲ停止スル場合亦同シ

第五章　違背處分

第三十六條　給水用具ノ所有者、管理者、共用給水總代人又ハ給水使用者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三ケ月以內給水ヲ停止シ又ハ六ケ月分以內水料三倍迄ヲ增徵スルコトアルヘシ

一　工費又ハ料金ヲ期限內ニ納付セサル者

二　給水ヲ濫用シ又ハ他人ニ分與シタル者

三　恣ニ導水裝置ヲ爲シ若クハ給水管、給水用具、量水器ヲ移動變更又ハ開閉シタル者

四　故ナク水道檢査員ノ檢査ヲ拒ミタル者

五　料金ノ標準トナルヘキ要件ノ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者

六　前各號ノ外此條例ニ違背シタル者

本條ノ處分ヲ受ケタル者違背ノ事項ヲ釐正シタルトキハ其處分ヲ輕減又ハ免除スルコトアルヘシ

第三十七條　何人ヲ問ハス前條第一項第二號第三號第四號第六號及左ノ事項ニ該當スル者ハ金五錢以上金壹圓九拾五錢以下ノ過料ニ處ス

一　共用給水ノ鑑札、鍵ヲ携帶セスシテ汲水シ若クハ鑑札、鍵ヲ貸借シ又ハ模造ノ鑑札、鍵ヲ使用シ汲水シタル者

附　則

第三十八條　市設共用栓及市外ノ給水ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十九條　本條例中給水請求廢止等ニ關スル書式及章標雛形ハ東京市參事會之ヲ定ム

第四十條　本條例ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

第四十一條　給水ノ種別ヲ變更スヘキモノ又ハ本條例ニ抵觸スルモノハ明治四十年十二月三十一日迄ニ其手續ヲ爲スヘシ特別專用給水ノ料金種類

變更迄專用給水ト看做シ之ヲ徵收ス

第四十二條　明治三十四年十二月東京市告示第一〇六號東京市水道給水規則及明治三十四年七月東京市條例第一號東京市水道使用料ニ關スル細則ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

東京市水道市設共用栓規則（明治四十年三月二十七日東京市告示第十八號）

第一條　市設共用栓ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ使用セシム

一　給水裝置ヲ爲スコト能ハサル者

二　途上ノ公衆

三　特ニ本市ノ承認ヲ受ケタル者

前項ニ該當セサル者ト雖變災其他衞生上一時供給ノ必要ヲ認メタル場合ハ區域期間ヲ定メ特ニ使用セシムルコトアルヘシ

第二條　前條第一項第一號ニ依リ市設共用栓ヲ使用セントスル者ハ地主、家主又ハ其管理人ヨリ所轄區役所ニ請求スヘシ

前項ノ地主、家主又ハ其管理人ハ料金ノ納付其他一切ノ責任ヲ負擔スヘシ

前條第一項第三號ニ依リ市設共用栓ヲ使用セントスル者ハ地主、家主又ハ其管理人ノ連署ヲ以テ所轄區役所ニ申出テ承認ヲ受クヘシ

前項ノ地主、家主又ハ其管理人ハ料金納付ニ付使用者ト連帶ノ責任アルモノトス

第三條　料金ハ左ノ割合ニ據リ徵收ス

一　第一條第一項第一號ニ該當スルモノハ一戸一ケ年金六十錢

二　第一條第一項第三號ニ該當スルモノハ一戸一ケ年金壹圓五拾錢

其他ノ使用者ハ料金ヲ徵收セス

第四條　前各條ノ外本市水道使用條例ヲ準用ス

附　則

第五條　本規則ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス但本規則ニ牴觸スルモノハ明治四十年十二月三十一日迄ニ共手續ヲ爲スヘシ

（參考表）

一、事業費年割豫算表

年度	第一期上水道擴張費	量水器取附費	計
大正九年度	円 一〇、三二二、〇〇〇	円 九六〇、〇〇〇	円 一一、二八二、〇〇〇
大正十年度	七、二三七、〇〇〇	一、三一〇、〇〇〇	八、五四七、〇〇〇
大正十一年度	七、五三二、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	八、八三二、〇〇〇
大正十二年度	六、一二五、〇〇〇	一、二九〇、〇〇〇	七、四一五、〇〇〇
大正十三年度	—	一、一四〇、〇〇〇	一、一四〇、〇〇〇
計	三一、二一六、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	三七、二一六、〇〇〇

備考

一、本表ノ大正九年度上水道擴張費中ニハ前年度ヨリノ繰越豫定額二、五七五、〇〇〇圓ヲ含ム

二、資源豫定表

年度	量水器取附材料費收入	水道積立金繰入	公債 發行額	公債 手取額	計
大正九年度	円 一三九、五八四	円 二、〇〇〇、〇〇〇	円 （二〇、〇〇〇、〇〇〇）	円 一八、〇〇〇、〇〇〇	円 二〇、一三九、五八四
大正十年度	三一四、〇六四				三一四、〇六四
大正十一年度	三一四、〇六四		（一七、六〇〇、〇〇〇）	一五、八四〇、〇〇〇	一六、一五四、〇六四
大正十二年度	三一四、〇六四				三一四、〇六四
大正十三年度	二九四、二二四				二九四、二二四
計	一、三七六、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	（三七、六〇〇、〇〇〇）	三三、八四〇、〇〇〇	三七、二一六、〇〇〇

備考

一、公債手取額ハ劵面百圓ニ付九十圓ノ割合トス

▽水道市外給水規則改正ニ關スル件

第八十號

東京市水道市外給水規則改正ニ關スル件

東京市水道市外給水規則左ノ通改正スルモノトス

東京市水道市外給水規則

第一條　本市水道ハ左ノ場合ニ限リ市外ニ給水スルコトアルヘシ

一　官公署、兵營、學校、病院其ノ他之ニ類スルモノヽ使用セムトスルトキ

二　公益上必要アリト認ムルトキ

三　公設消火栓ヲ防火ノ爲使用セムトスルトキ

第二條　市內給水量ニ不足ヲ生スル場合ハ隨時給水ヲ制限、停止又ハ廢止スルコトアルヘシ

第三條　使用料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徵收ス

一　量水器一個一月使用量二立方メートル迄ノ基本料金ヲ左ノ通トシ以上一立方メートルヲ增ス毎ニ普通用及防火用ハ十二錢、汽罐用、自動車ノ洗滌又ハ一時工事用ハ四十錢ヲ加フ

量水器口經（單位ミリメートル）	基本料金
十二又ハ十三	七十錢
十六	八十五錢
二十	九十錢

二十五	一圓十錢
三十	一圓二十五錢
四十	一圓三十五錢
五十	一圓六十五錢
七十五	二圓
聯用（七十五又ハ八十）	二圓四十錢
百	二圓六十五錢
聯用（百二十五）	三圓二十五錢
百五十	四圓十錢
聯用（百五十二十五）	四圓七十錢
二百	五圓六十錢
聯用（二百三十又ハ四十）	六圓五十錢
二百五十	七圓五十五錢
聯用（二百五十四十）	八圓四十錢
三百	十圓十錢
聯用（三百四十又ハ五十）	十一圓二十五錢

二　量水器ノ裝置ナキ消火栓ヲ防火又ハ演習ノ爲使用シタルトキハ一口二時間以內ハ四圓トシ以上一時間迄ヲ

增ス每ニ二圓ヲ加フ

使用水量ニ制限ヲ付シタル場合ニ於テ限度超過シタルトキハ其ノ超過水量ニ對シ前項使用料ノ倍額ヲ徴收ス

第四條　給水ノ爲出張ニ要スル旅費其ノ他ノ費用ハ本市ノ所定ニ依リ給水請求者ヨリ之ヲ徴收ス

第五條　東京市水道使用條例及之ニ關スル規定ハ市外給水ニ之ヲ準用ス

附　則

本規則施行期日ハ市長之ヲ定ム

說明　第七十七號及第七十九號議案ニ伴ヒ之カ改正ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス

（參照）

東京市水道市外給水規則（明治四十年三月二十七日東京市告示第十九號）

第一條　本市水道ハ左ノ場合ニ限リ市外ニ給水スルコトアルヘシ但原動力ニ使用スルモノ及營業者修ノ用ニ供スルモノハ此限ニ在ラス

一　官衙、公署、兵營、學校、病院其他之ニ類スルモノノ請求ニ係ルトキ

二　本市ノ公益ヲ保持スル爲メ必要アルトキ

三　市設消火栓ヲ防火用ノ爲メ使用セントスルトキ

四　工事用ノ爲メ一時使用セントスルトキ

第二條　前條ノ給水ハ市内給水量ニ不足ヲ生スル場合ハ臨時之ヲ制限シ又ハ停止シ若クハ廢止スルコトアルヘシ

第三條　市内給水ニ支障ナキ場合ト雖モ一ケ年間ノ使用量ヲ限定シ供給スルコトアルヘシ

第四條　市外給水ハ總テ計量法ニ據リ供給ス但單ニ防火用ノ爲メ設置スル消火栓ハ此限ニ在ラス

第五條　水料ハ左ノ割合ニ據リ徴收ス

一　普通用ノモノハ一立方メートルニ付金六錢

二　一時工事用ノモノハ一立方メートルニ付金貳拾錢

三　防火用ノモノハ消火栓一口一回使用時間一時間以内ハ金貳圓同二時間以内ハ金四圓トシ以上三十分ヲ增ス每ニ金壹圓ヲ遞加ス

第六條　市設消火栓ヲ使用シ水道用具ヲ毀損シタルトキハ給水請求者ヨリ其修繕費ヲ徴收ス

第七條　給水ニ關スル出張員ノ旅費日當ハ本市ノ規定ニ據リ給水請求者ヨリ之ヲ徴收ス

第八條　前各條ノ外本市水道使用條例ヲ準用ス

附　則

第九條　本規則ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス但給水ノ種別ヲ變更スルトキモノ又ハ本規則ニ抵觸スルモノハ明治四十年十二月三十一日迄ニ其手續ヲ爲スヘシ

上記四案ハ、**大崎清作君**ノ發議ニヨリ、十日以内ニ調査ヲ終了スルノ條件ヲ以テ、議長指名十五名ノ委員ニ付託スルニ決シ、議長ハ左ノ指名ヲ爲セリ。

笠原文太郎　中村鐵二　松山傳十郎　所澤貞太郎　大庭重治

垣見八郎右衞門　竹下延保　中村舜二　大崎清作　南　甲

佐々木藤市郎　伊東靖　酒井泰　塚原寅次郎　前田兼七

委員ハ**所澤貞太郎君**ヲ委員長ニ推シ、審議ノ末、七月十九日ノ會議ニ左ノ報告ヲ爲セリ。

第七十七號議案調査委員意見報告

委員ハ實地ヲ踏査シ屢集會審議ノ末左記希望ヲ附シ別紙朱書ノ通修正スルコトニ議決セリ

右及報告候也

大正九年七月十日

議長　宛

委員連名

左記

一　臨時水道擴張課ハ從來ノ實蹟ニ鑑ミ之ヲ獨立ノ一課トシテ存置スルハ却テ事務ノ進捗ニ妨ケアリト認ム依テ之ヲ廢シ水道課ニ併合セシムルコト

一　現在未給水ニ係ル區域ニ對シテハ急速ニ配水管等ノ施設ヲ行ヒ以テ水道ノ普及ヲ企圖スルコト

一　擴張工事ハ從來ノ工程甚タ遺憾ニ堪ヘサルモノアリ依テ所定ノ期間內ニ必ス竣功ヲ期スルコト

（編者曰、委員會ノ修正ハ大正九年度ノ給料ニ於テ參百六拾八圓ヲ減ジ、雜給ニ於テ同額ヲ增シタルニ止リ、總額ニ於テ何等ノ增減ナシ）

此報告ニ對シ、左ノ少數者意見報告提出セラレタリ。

第七十七號議案調査委員少數者意見報告

本員等ハ本案々件ニ付反對否決ノ意見ヲ有ス

右少數者意見及報告候也

大正九年七月十日

右議案調査委員

長町康夫　松山傳十郎　大庭重治

南甲吉

議長宛

本案ノ議事ニ入ルヤ議長ハ議場ニ諮リテ、左記同一委員ノ三報告ヲモ一括シテ議題ニ供スルコトニ決セリ。

第七十八號議案調査委員意見報告

委員ハ實地ヲ踏査シ屢集會審議ノ末別紙朱書ノ通修正スルコトニ議決セリ

大正九年七月十日

委員連名

議長宛

（編者曰、委員會ノ修正ハ第七十七號議案ト同一ニシテ、總額ニ於テ何等ノ增減ナシ）

本報告ニ對シテモ、第七十七號ト同文同名ノ少數者意見報告提出アリタリ。

第七十九號議案調査委員意見報告

委員ハ實地ヲ踏査シ屢集會審議ノ末原案ヲ可決スルコトニ議決セリ

右及報告候也

大正九年七月十日

委員連名

議長宛

本報告ニ對シテモ、前記同樣ノ少數者意見報告アリタリ。

第八十號議案調査委員意見報告

委員ハ實地ヲ踏査シ屢集會審議ノ末原案ヲ可決スルニ決セリ

右及報告候也

議長宛

本報告ニ對シテモ、前記同樣ノ少數者意見報告アリ、次イデ**加藤議長**ハ、發言ノ順序ヲ第一委員長ノ報告、第二少數者意見ノ報告、第三質問、第四意見ト定ムベシト宣ス。仍テ**所澤委員長**ハ、大要左ノ如ク報告セリ。

委員會ハ一部ノ修正ヲ除キ、全部原案ヲ可決シタルガ、其理由ハ曩ニ理事者ガ配布シタル說明書ニ審カナレバ、爰ニ複演セズ、要スルニ物價ノ騰貴及ビ給料、物件費等ノ增加ノ爲、現在ノ水道收入ヲ以テシテハ、公債ノ償還モ不可能ナリ、況ヤ水道工事ノ進行ヲヤ。從テ現狀ヲ以テシテハ、水道ノ普及ハ到底企圖スベキニ非ズ、是レ値上ノ已ムヲ得ザル所以ナリ。蓋シ擴張工事ハ大正十二年ニ至ラザレバ完成セズ、故ニ今日ノ狀態ヲ以テ推移スルトキハ、給水區域ニ對シテ現在ノ水量ヲ持續スルコトスラ頗ル困難ト爲ルベク、從テ未給水區域ヲ顧ミルノ遑ナキハ勿論ナリ。然レドモ今若シ全部量水器ヲ使用スルトキハ、順次未給水區域ヲ潤スノ餘裕ヲ生ズルナラン。他面ニ於テ計量制ノ採用ハ將來避クベカラザル事ニ屬ス。以上ハ即チ委員會ガ計量制ヲ可決シタル理由ナリ。猶之ニ對シテハ少數意見提出セラレタルガ、其說明ノ任務ハ之ヲ提出者ニ讓ルコトヽシ、玆ニ第七十七號案及ビ第七十八號議案ノ修正ニ付テ一言セン。此兩案ハ本年四月一日ヨリ實施スルモノトシテ收支ヲ計上シタルモ、今ヤ既ニ三箇月以上ヲ經過シタルヲ以テ、實施ノ期日ヲ八月一日トシ、五箇年計畫ヲ四箇年八月ニ短縮セリ。又第七十七號ノ末尾ニ附シタル希望條項ハ、他ノ三案ニモ關係ヲ有スルモノナルガ、臨時水道擴張課ヲ獨立ノ一課トシテ存續スルトキハ、却テ事務ノ進捗ヲ妨グルガ故ニ、之ヲ水道課ト併合スルニ如カズトノ委員會ノ希望ハ、決シテ擴張課ノ不信任ヲ意味セズ。又現在未給水區域ハ約二割ナルガ、「メートル」制實施後ハ、急速ニ水道ノ普及ヲ圖ルベシト云ヘルハ第二ノ希望ナリ。第三、擴張工事ハ種々ノ事情ノ爲、從來遲々トシテ進マザリシガ、今回ハ必ズ豫定ノ期間ニ完成スルコトヲ期スベシト云フニ在リ。

大庭重治君、議題ト爲レル四案ニ對スル少數意見、即チ原案ニ絕對反對ノ理由ヲ述ブベシトテ、第一、計量制ノ實施ハ本市三十年來ノ水道ニ對スル根本方針ニ違背スルコト、第二、今遽ニ計量制ヲ實施スルニ於テハ、本市ノ損失ハ莫大ナルコト、第三、市民ガ直接ニ被ル一時的竝永久的損害モ亦莫大ナルコト、第四、計量制五箇年繼續事業ノ原案ハ杜撰極ルコトヲ逐次詳論セリ。此少數意見ノ報告終リタル後、質問ニ移リ、先ヅ**小久江美代吉君**問ウテ曰ク、第七十七號議案ニ附帶セル三箇ノ希望條件ヲ理事者ハ必ズ實行スルノ決心アリヤ、殊ニ第三ノ擴張工事ヲ所定ノ期間內ニ竣成セシムルコトニ關シテハ、確乎タル成算アリヤ、抑ゝ本工事ハ大正二年ニ貳千七拾萬圓ノ豫算ヲ以テ起工シタルガ、若シ豫定ノ如ク本工事ガ大正八年迄ニ完成シタランニハ、水道料値上又ハ計量器取附ノ問題ハ起ラザリシナラン、理事者ノ決意如何ト。助役**戶野周二郎君**答ヘテ曰ク、從來擴張工事ノ遲々トシテ進マザリシハ、理事者モ亦頗ル遺憾トスル所ナルモ、事情ノ酌量スベキモノ無キニ非ズ、大正二年豫算編製當時、鐵管ノ價格一噸八拾圓ナリシガ、大正七年ニハ戰爭ノ爲七倍シテ五百六拾餘圓ニ昂騰シタレバ、拱手シテ時機ノ來ルヲ待ツノ外ナカリキ、今日ノ狀勢ハ之ト異ルヲ以テ、大正十二年度中ニ所謂六割ノ工程ヲ了シテ、全市內ニ給水スルコトニ努ムベシト。**小久江君**重ネテ問ウテ曰ク、東京市現在一日ノ送水量ハ千百萬立方尺ナリト聞ク、而モ是レ夏期數日間ニ過ギズシテ、平素ハ六七百萬立方尺ヲ出デズ、故ニ三四百萬立方尺ノ源水ノ大部分ハ、日々中間ノ水路ニ於テ放棄セラレ、淀橋、本鄕及ビ芝ノ貯水池ニ淨水トシテ貯ヘラルヽ量ハ、三百萬立方尺ニ過ギズ、是レ東京市ノ給水制度ノ缺陷ニシテ、紐育ノ如キハ一週間

分ノ淨水ヲ貯藏スル池ヲ備ヘリ、何故ニ本市ハ三日乃至一週間分ノ貯水ヲ爲シ得ルノ設備ヲ爲サヾルヤト。水道局長**小川鐵三君**答ヘテ曰ク、源水ハ貯水池ニ於テ日ヲ經ルニ從ヒ性質ヲ良化スルモ、淨水ハ一兩日內ニ使用セザレバ、衞生上有害ナリト。**小久江君**、淨水ガ光線ニ觸ルレバ、一兩日ニシテ不良ト爲ルノ虞アランモ、外氣ニ觸レシメザルトキハ、然ラズト聞ク、如何ト問ヘバ。**戶野助役**、此ノ如キ專門的ノ質問ニ對シテハ研究ノ上答フベシト述ブ。次ニ**若林成昭君**問ウテ曰ク、計量器制度ヲ實施スレバ、現在ノ放水給制度ニ比シ、淨水ノ餘剩額如何、又此餘剩額ヲ以テ、第一年度ニ於テ如何ナル程度迄普及シ得ルヤ、尙ホ水道擴張課ヲ廢止スルモ、計量制ニ依リ市民ニ充分ニ給水シ得ルヤト。**戶野助役**答ヘテ曰ク、計量制ノ爲ニ節約シ得ル水量ハ約二割ナリ、故ニ今日給水ノ最高限ナル千一百萬立方尺ノ場合ニハ、二百二十萬立方尺ヲ節シ得ベシ、但シ本案通過スルモ、計量制ハ漸次ニ實行セラルベキヲ以テ、今正確ナル數字ヲ擧グルヲ得ズ。又東京市ノ人口ハ年ヲ逐ウテ增加スルノミナラズ、道路ノ撒水、下水ノ洗滌ニモ上水ヲ使用セントスル今日ニ於テ、全部計量制ヲ實施スルモ、水道擴張事業ニ依ラズシテ全市ニ給水スルハ困難ナリト。**若林君**重ネテ、此制度ノ改正ハ、增收ヲ主タル目的トスルカ、又家族增減ノ調査ト計量器使用規定トハ勵行セラレツヽアリヤト問ヒ。**戶野助役**、計量制ノ目的ハ普及ヲ主トシ、增收ヲ從トス。又從來水道檢查員ニ命ジ、半年ニ一回、全市ノ計量器及ビ人口ノ整理ヲ爲シツヽアルモ、充分ノ正確ヲ保スル能ハズト答ヘ。**若林君**、一家五人ノ水稅最低五圓ナルガ、七人又ハ十人ニシテ、猶五圓ヲ支拂ヒツヽアル者尠カラズ、是レ計量器制度採用ノ大ナル理由ナリトセバ、正シキ市民ハ不正ナル者ノ爲ニ迷惑ヲ蒙ル結果ト爲ル、當局者ハ計量制實施ニ先ダチ、嚴重ナル調查ヲ行ウテ、納稅級ヲ整理スベキニアラズヤ。又計量制ヲ實施シタル爲、市民中ニ一種ノ反抗心ヲ起ス者アリテ、給水ノ最モ必要ナル夏期ニ於テ、水稅ノ增加ヲ顧慮スルコトナク、淨水ヲ濫費セバ、當局者ハ如何ナル方策ヲ以

テ之ニ臨マントスルカト問ヒ。**戶野助役**ハ、其點ニハ想到セズト答ヘタリ。

天利庄次郎君問ウテ曰ク、當局者ハ計量制ニ依テ水ノ不足ヲ緩和スト云ヘルガ、余ハ水ガ爾ク不足セリト信ズル能ハズ、若シ又爾ク不足セリトセバ、當局ハ郡部ニ對シテ如何ナル方針ヲ採リツヽアリヤ、東京市水道市外給水規則第二條ハ、「市內給水量ニ不足ヲ生スル場合ニハ隨時之ヲ制限シ又ハ停止シ若ハ廢止スルコトアルベシ」ト云ヘルガ、當局ハ市外ニ對スル給水ヲ今日如何ニ處理セルカ、又本案ノ參考資料タル本市以外ノ十市ニ對スル水道料金ノ比較表ニハ、計量器ノ有無ヲ附記セズ、余ハ此點ヲ知ラント欲ス、又一ケ年ノ給水量ノ比較ハ如何ト。**戶野助役**答ヘテ曰ク、實際水ハ大ニ不足セリ、蓋シ給水區域ノ約二割ハ未ダ配水管、鐵管等ヲ布設スルニ至ラザルガ、既ニ此ヲ布設シタル部分ニモ、屢ゝ斷水又ハ停水スルコトアリ、又郡部ニ對シテハ主トシテ夜間ニ於ケル市內ノ剩餘水ヲ供給シツヽアリ、尙ホ晝間市外給水モ全然爲サヾルニアラザルモ、特ニ市內ノ給水ニ故障ヲ生ゼザル部分ニ之ヲ局限セリ、故ニ大體ニ於テ郡部ト市內ノ給水ハ沒交涉ト謂フヲ得ベシ、猶水道料金ノ比較參考書ニ記セル諸市ノ中、計量器ヲ使用セルハ、大阪、神戶等ニシテ、此等ハ當初放任制ナリシガ、近來計量制ヲ採用シ、大ニ好成績ヲ擧ゲツヽアルヲ以テ、名古屋市モ亦遠カラズ之ニ倣フベシト聞クト。**小川水道局長**、戶野助役ノ答辯ヲ補足シタル後、一ケ年ノ總水量ノ調查書類ハ今携帶セザルヲ以テ即答スル能ハズト述ブレバ。**天利君**、大正二年擴張工事計畫後、每年ノ總給水量ヲ比較スルハ、參考上大ニ必要ナルガ故ニ、速ニ書面ヲ以テ報告スベシト請求シ、更ニ市外ノ給水ガ市內ニ影響セズトハ信ズル能ハズ、今ヤ計量制ヲ實施シテ、大ニ市民ノ負擔ヲ增加センントスル時、此點ニ關シ、理事者ノ注意ヲ喚起セザルヲ得ズト說ケリ。

是ヨリ本案ノ討議ニ移リ、左ノ論議アリタリ。

松山傳十郎君　若林君ノ質問ニ對シ、理事者ハ計量制ノ主タル目的ハ給水ノ普及ニ在リト云ヘルモ、余ハ收入增加ニ在ルコトヲ確信ス。何トナレバ本案ハ財政ノ點ノミヲ考慮シ、社會政策及ビ衞生ノ點ヲ全然閑却シタレバナリ。水ハ人生ノ必需品ニシテ、而モ何物ヲモ之ニ代用スルヲ許サヾルノミナラズ、貧富貴賤ノ別ナク、衞生上之ガ一定ノ量ヲ要ス。然ルニ增收入ヲ目的トスル結果、料金ヲ支拂フ者ハ無制限ニ水ヲ濫費シ得ルモ、之ヲ支拂フコト能ハザル者ハ、生活ニ必要ナル一杯ノ水ヲモ得ルニ苦ムコトアルベシ。但シ文字ノ上ニ於テハ、貧困者ノ爲ニ救濟又ハ料金輕減ノ特例ヲ設クルモ、實際ニ於テハ、彼等ハ些ノ恩典ニモ浴スル能ハザルナリ。且又理事者ハ、平常東京市民ノ公德心ヲ疑ヒツヽアルガ、今俄ニ六七割ヲ增徵スルノ制度ヲ布カバ、公德心ニ乏キ市民ハ、反感ニ驅ラレテ、却テ水ヲ濫費スルヤ必セリ。以上ノ理由ニ因リ、余ハ本案ニ反對ス。

中村舜二君　余ハ簡單ニ本案贊成ノ理由ヲ述ベ、以テ吾人ノ態度ヲ公明ナラシメント欲ス。我々ハ勿論進ンデ積極的ニ本案ヲ謳歌スル者ニ非ズシテ、東京市ノ現狀ニ鑑ミ、已ヲ得ズトシテ消極的ニ之ヲ是認スルニ過ギズ。人間ノ生存上絕對ニ必要ナル水ニ對シテハ、能フベクンバ料金ヲ低減スルハ當然ナリ。唯東京市今日ノ財政ハ之ヲ許サヾルノミナラズ、一面ニ於テハ、現在ノ設備ヲ以テシテハ、給水ハ益々不足ヲ告ゲ、又一面ニ於テハ、東京市ノ急速ナル膨脹發達ニ伴ヒ、大ニ水道ノ擴張計畫ヲ立ツルノ必要ニ迫レリ。是レ即チ計量制ヲ實施シテ濫費ノ弊ヲ防グト同時ニ、給水ノ普及ヲ圖ラントスル所以ナリ。但シ水ノ如キ生活ノ必要品ニ對シテハ、一般會計ヨリ之ヲ補助スルモ値上ヲ爲スベカラズトノ議論ハ、一理ナキニ非ザルモ、今日ノ財政狀態ガ之ヲ許サヾルヲ奈何セン。反對論者ハ六割五分ノ値上ハ中流以下ノ階級ヲ脅威スト云フモ、他ノ物價ニ比シ、水道料金ハ猶甚ダ廉ナルヲ以テ、擴張工事ノ爲ニハ、此際値上ヲ忍バザルベカラズ、是レ市民ノ輿論ナリ。又反對論者ハ、計量制ヲ以テ三十年來ノ根本原則ヲ破壞スルモノナリト爲スモ、是レ實ニ笑フニ堪ヘタル愚論ニシテ、苟モ其必要ニ迫ラバ、幾十年ノ舊習ヲ打破シテ、時代ノ進運ニ伴フニ足ル施設ヲ爲スハ、市理事者當然ノ任務ニ非ズヤ。余ハ勿論當局者從來ノ怠慢ヲ責ムルニ躊躇セザルモ、水道事業ノ一日モ忽諸ニ附スベカラザルヲ知ルガ故ニ、彼等ヲ監視督勵シテ、此大任ヲ完ウセシメント欲ス。願ハクハ區々ノ感情ヲ棄テ、滿場一致本案ヲ可決セラレンコトヲ。

小久江美代吉君　余ハ本案ノ少數意見ニ贊成ス。中村君ハ反對論者ハ感情ニ捉ハレ、虛名ヲ貪ルノ徒ナリト斷ゼラレタルモ、我々ハ研究ノ結果、眞ニ市民ノ福利ノ爲ナリトノ確信ニ基キテ、意見ヲ述ブルノミ。中村君ハ、現在ノ水道料金ハ、諸物價ニ比較シテ甚ダ低廉ナルガ故ニ、値上ノ餘地アリト言ヘルモ、現在ノ料金ヲ以テシテ、停水處分ヲ受ケタル者、大正七年度ニ五百七十件、同八年度ニ五百四十七件ニ達セリ。一朝俄ニ六七割ノ値上ヲ爲サバ、此件數ノ激增スルハ明白ナリ。今ヤ東京市ハ公園ト云ヒ、下水道ト云ヒ、社會事業ト云ヒ、所謂有ルハ無キニ優ルノ事業ニ對シテ、莫大ナル負擔ヲ爲シツヽアリ、然ラバ則チ生活ノ必要品ニ對シテ市經濟ヨリ補助スルハ、今日ノ場合當然ナリト信ズ。更ニ又計量制ヲ以テ改良ナリト稱スルモ、我々ハ放水制ヲ以テ原則トスルコトヲ望ム。殊ニ吾人ハ値上ノ原因ガ、理事者ノ怠慢ニ在ルコトヲ記セザルベカラズ。蓋シ理事者ハ大正二年ニ貳千七拾萬圓ノ工事豫算ヲ提出シ、大正八年度ニ完成スベシト斷言シタルガ、若シ此擴張事業ガ豫定ノ如ク進行シタリシナラン二ハ、今日値上ノ必要ナカリシナリ。當局ハ物價騰貴ヲ云爲スルモ、大正二三年ノ頃ニハ物價ハ變動ナカリシニ非ズヤ、自己ノ怠慢ノ爲ニ市民ニ損害ヲ與フルハ、無責任モ亦甚シト謂フ可シ。又假リニ計量制ヲ實施スルモ、果シテ豫期ノ如ク水ヲ節シ得ルカ、本市ノ路面ガ未ダ充分ニ改良セラレザル爲、道路ハ日々荒廢シ、塵埃濛々タリ、之ヲ防グニハ撒水ニ依ラザルベカラズ、然ルニ一方ニハ從來ノ堀井戸ヲ埋メシメ、更ニ水道ニ

「メートル」ヲ附ケテ制限スルハ、市民ニ大ナル苦痛ヲ與フルモノナリ。現在ノ給水制度ニ於テ不便ヲ感ズルハ、夏季十數日間ニ過ギズシテ、平時ニ於テハ五六百萬立方尺ニテ足リ、毫モ節約ノ必要ナク、淀橋淨水場ニ到ル途中ニ於テ、多量ノ源水ヲ放棄シツヽアルニ非ズヤ。故ニ紐育ノ一週間ノ貯水ハ暫ク措キ、假リニ此不用ノ水ヲ二三日ニテモ貯藏スルノ設備ヲ爲サバ、五千萬圓ノ大工事ヲ起スノ必要ナカルベシ。若林君ノ現行法ノ下ニ不正使用者取締ノ必要論、松山君ノ社會政策論等ハ、理事者ガ第一ニ考慮スベキ點ナルニ、全然之ヲ閑却セルノミナラズ、本案ニ重大關係ヲ有スル衞生委員ニモ本案ヲ諮問セザリシハ、不法モ甚シト謂フベシ。此時酒井泰君ノ動議ニ依リ、討論終結ニ決シタレバ、四案ヲ一括シテ採決スルコトヽシ、氏名點呼ニ依リテ採決シタル結果、少數意見ハ敗レテ、委員會ノ報告可決セラレタリ。

第拾五節　社會事業ト特別消費稅問題

▽特別消費稅條例設定ニ關スル件　七月十九日ノ會議ニ左ノ議案提出セラレタリ。

第百十一號

東京市特別稅特別消費稅條例設定ニ關スル件　（右傍ノ○印ハ委員會修正ノ朱書左傍ノ――印ハ原案削除ナリ以下之倣）

東京市特別稅特別消費稅條例左ノ通設定スルモノトス

東京市特別稅特別消費稅條例

第一條　市制第百十七條ニ依リ本市ニ特別稅特別消費稅ヲ設定ス

第二條　特別消費稅ハ本市內ニ於テ藝妓、娼妓、幇間、遊藝稼人其ノ他之ニ類スル者ヲ招致シテ金員ヲ消費シタル者ニ對シ之ヲ賦課ス但シ娼妓ノミヲ招致シタル場合ニ於テ其ノ消費金額一人一回三圓ニ滿タサルモノ及數人共同消費ノ場合ニ於テ其ノ平分額三圓ニ滿タサルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第三條　特別消費稅ハ消費金額百分ノ十以內トシ每年度市會ノ議決ヲ經テ其ノ賦課率ヲ定ム

第四條　特別消費稅ハ隨時之ヲ徵收ス

第五條　特別消費稅ハ料理屋、待合茶屋、引手茶屋、貸座敷等ニ於テ第二條ノ消費ヲ爲シタル者ニ賦課スル場合ハ當該營業者ヲ以テ其ノ徵收義務者トス

第六條　前條以外ノ場所ニ於テ第二條ノ消費ヲ爲シタル者ハ其ノ翌日迄ニ消費金額ヲ所轄區長ニ申告スヘシ

第七條　第五條ノ營業者ハ市長ノ定ムル所ニ依リ課稅上必要ナル事項ヲ記載スル帳簿ヲ備ヘ且當該事項ヲ區長ニ申告スヘシ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ五圓以下ノ過料ヲ科ス

一　虛僞其ノ他不正ノ手段ヲ以テ脫稅ヲ圖リタル者

二　第六條、第七條ノ申告ヲ怠リ又ハ第七條ノ帳簿ヲ備ヘス注意ヲ受クルモ仍其ノ手續ヲ爲ササル者

三　正當ノ理由ナクシテ市制第百二十七條第一項ノ檢查ヲ拒ミ又ハ之ニ支障ヲ加ヘ若ハ加ヘムトシタル者

前項第一號ニ該當スル者自首シタルトキハ過料ヲ科セサルコトアルヘシ

第九條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　社會事業等施設ノ爲多額ノ資源ヲ要スルトコロ現下ノ歳入狀態ハ到底之ニ應スルヲ得サルモノアルヲ以テ新稅設定ニ依リ處辨スルモノトシ本案ヲ提出ス

本案ガ議題ト爲ルヤ、**酒井泰君**ノ動議ニ因リ、左記三案モ、之ト相關聯セルヲ以テ、一括シテ議題ニ供スルコトトナレリ。

▽東京市歳入出追加豫算

第百十二號

大正九年度東京市歳入出追加豫算

歳　入

九拾萬貳千九百七拾四圓
一金百拾貳萬八千七百拾七圓

歳　出

五萬五千四百九拾六圓
一金六萬八千八百七拾參圓

八拾四萬七千四百七拾八圓
一金百五萬九千八百四拾四圓

九拾萬貳千九百七拾四圓
合計金百拾貳萬八千七百拾七圓

說明　社會施設ニ關スル經費トシテ該事業費經濟ヘ多額ノ繰入ヲ要スルニ依リ第百十一號議案ニ基ク市稅收入ヲ以テ之ニ充ツルコトトシ尙右市稅徵收ニ要スル經費ヲ豫計シ豫算追加ノ爲本案ヲ提出ス

歳入豫算高

經常部豫算高

臨時部豫算高

▽東京市社會事業費歳入出追加豫算

第百十三號

大正九年度東京市社會事業費歳入出追加豫算

歳　入

八拾四萬八千八百八拾圓
一金百六萬千貳百四拾六圓

歳　出

拾萬參千七百七拾五圓
一金拾貳萬千四百參拾壹圓

七拾四萬五千百五圓
一金九拾參萬九千八百拾五圓

八拾四萬八千八百八拾圓
合計金百六萬千貳百四拾六圓

說明　社會事業ノ施設ニ付テハ輓近ノ狀況ニ顧ミ先以テ勞力ノ需給仲介機關トシテ職業紹介ノ組織ヲ完整セシムルト共ニ一般勞働者ノ風紀及保健上竝勞働能率增進ノ爲合宿所及託兒場ヲ設置シ又浮浪兒感化善導ノ爲幼少年保護所ヲ設ケ且諸般社會政策徹底ノ機關トシテ方面委員設置等ノ要アリ即チ此等施設ノ關係經費及事務膨脹ニ伴フ諸費ヲ豫計シ本案ヲ提出ス

歳入豫算高

經常部豫算高

臨時部豫算高

▽課稅率決定ノ件

第百十四號

課稅率決定ノ件

大正九年度市稅特別消費稅率左ノ通決定スルモノトス

消費金額　百分ノ四・五

說明　第百十二號議案ニ伴ヒ課稅率決定ノ爲本案ヲ提出ス

上記四案ニ關シ、左ノ如キ問答アリタリ。

小坂梅吉君　社會事業ノ發展ハ我々市會議員トシテ最モ希望スル所ナルモ、百拾貳萬圓ノ巨額ナル豫算ヲ立ツルニ方リ、其財源ヲ單ニ遊興稅ノミニ求メ、他ノ方面ヲ考慮ニ加ヘザリシハ、頗ル不公平ニ失シ、當該營業者ノ苦痛察スルニ餘リアリ。卑見ヲ以テスレバ、類似ノ財源ハ他ニ多々アリ、例ヘハ奢侈稅ノ如キ其一ニシテ、五千圓、壹萬圓ヲ投ジテ「ダイヤモンド」ヲ購フ者アリ、巨萬ノ價格ヲ以テ骨董品ヲ賣買スル者アリ、市內ニ山林、田畑、沼池ヲ一部トスル廣大ナル庭園ヲ有スル富豪アリ、又住宅難ノ今日、市內ニ廣大ナル宅地ヲ買收シ、宏壯ナル邸宅、幽邃ナル庭園ヲ築キテ、豪奢ヲ誇ル貴族紳商アリ、市當局ハ何故ニ此等ニ對スル徵稅ノ方法ヲ研究セザリシカ。現ニ東京府會ハ、五萬圓以上ノ建築物ニ增課稅ヲ課セルニアラズヤ。又大阪市ニ於テハ富豪篤志家ノ寄附ヲ仰ギ、財團法人組織ヲ以テ、社會事業ヲ經營シツヽアリ。東京市ニ於テモ養育院ノ如キハ、澁澤男爵ノ熱心ナル努力ニ依リ、寄附金ヲ基礎トシテ今日ノ發達ヲ爲セリ。然ルニ社會局創設以來、未ダ曾テ此種ノ計畫ヲ試ミタルコトナキハ、吾人其手腕ヲ疑ハザルヲ得ズ。本案實施ノ結果、徵稅セラルベキ營業者ノ數ハ市內ニ千七百人アリ、而モ其多クハ婦女子ニシテ、幕府時代ニハ、之ヲ稱シテ弱キ稼業ト云ヘリ。社會局長ハ何故ニ斯ル營業者ノミニ重荷ヲ負擔セシメズシテ他ノ方面ニモ、公平ニ之ヲ分擔セシムルノ方針ヲ採ラザリシカ。又本案ノ建築豫算ヲ見ルニ、平家タルト、二階建タルト、合宿所タルトヲ問ハズ、總テ五百圓ヲ計上ス。然ルニ先般竣工セル芝區ノ南櫻學校ハ、二階建參百貳拾圓ニシテ、而モ頗ル堅牢ナリ。之ト對比スル時、物價下落ノ今日、二階建五百圓ノ建築ハ高キニ失セズヤ。尙ホ又都下數十萬ノ勞働者ニ對シテ、四百二十坪內外ノ合宿所ヲ設クルハ、九牛ノ一毛タルノ感ナキカ、又此合宿所ノ經費ハ如何。

山崎助役　特別消費稅ニ就テ答ヘンニ、從來種々ノ稅源ヲ研究シタルモ、幾多硬固ナル法令ニ抵觸シテ、何レモ財源タルニ適セズ。奢侈稅ノ如キモ、參事會ニ於テ大ニ攻究セラレタリト雖モ、奢侈ノ程度ト標準トノ區別等ニ關シ、實際問題トシテハ大ニ困難ノ點アリ。市中ノ山林、田畑ハ固ヨリ整理ヲ要スルモ、當面ノ財源トシテハ貧弱ニシテ考慮ノ價値ナシ。又府ハ家屋ノ價格ニ依リ、一種特別ノ課稅ヲ爲セルガ、元來家屋稅ハ府ノ本稅ニシテ、各區ニ於テモ、之ガ附加稅ヲ同樣ノ標準ニ依テ課シ來レリ。住宅難ノ際ヲモ顧ミズ、富豪ガ附近ノ小住宅ヲ買收シテ、宏壯ナル邸園ヲ構フルハ、一見絕好ノ稅源ナルニ似タルモ、徵稅ノ標準ヲ發見スルニ困難ヲ感ゼリ。以上ハ已ヲ得ズ今回爰ニ特別消費稅ヲ提案シタル所以ニシテ、若シ他ニ適當ノ稅源アラバ、當局者ハ社會事業ニ對シテ此特別稅ヲ設定セザルコト勿論ナリ。社會事業ノ方法ニ關シテハ、窪田參與ヨリ答フル所アルベキモ、猶建築費ノ高キニ過ギズヤトノ質問ニ答ヘンニ、本案ノ家屋ハ小學校ト建築ノ要素ヲ異ニスルノミナラズ、造作ニモ多大ノ經費ヲ要スルガ爲ナリ。

小坂君、理事者ハ動モスレバ法規ノ許サヾルコトヲ說クモ、法規ハ本來人ノ之ヲ改良スルニ任ス、何ゾ速ニ適當ノ措置ヲ執ラザルヤト詰リ、尙ホ寄附行爲ニ關スル社會局長ノ答辯ヲ促セバ。**窪田局長**ハ、先ヅ社會事業ニ關スル根本的見解ヨリ說キ起シ、昔時ハ慈善事業アリタルモ、社會事業無カリシコト、慈善事業トハ慈善家、篤志家ガ、貧者ノ困苦病

苦ヲ救助スルノ謂ニシテ、經濟組織ノ甚ダ單純ナル時代ニ在リテハ、此ノ如キ個々ノ企圖ヲ以テ不足ヲ感ゼザリシコト、產業組織ノ複雜化スルニ隨ヒ、自由競爭ノ結果、適者生存ノ原則ガ極度ニ實現セラレ、普通ノ體力ト智力トノ所有者ニシテ、尙ホ且續々落伍者ノ群ニ投ゼラルヽコト、若シ斯ル狀勢ヲ放任スルトキハ、社會ノ秩序ハ遂ニ紊亂セラルヽノ虞アルニ至ルコト、而モ是レ社會制度ノ缺陷ニ基ク弊害ナルガ故ニ、根本的ニ之ヲ芟除セントセバ、大革命ヲ招致スルコト、此革命ヲ避クルト同時ニ、此弊害ヲ能フ限リ減少センコトヲ期スルハ所謂社會政策ノ精神ニシテ、制度ノ缺陷ニ基ク落伍者ノ救助ハ、之ヲ慈善家ニ一任セズシテ、國家若クハ公共團體ガ、自ラ其任ニ膺ラザルベカラザルコト等ヲ縷述シ、本案ガ市ノ財政上最少限度ノモノナリト結べリ。是ニ於テ**小久江美代吉君**、窪田局長ニ問ウテ曰ク、局長ハ前回ノ會議ニ於ケル余ノ質問ニ答ヘテ、社會局ノ事業ハ大ニ振ヒツヽアリト言ヒタルガ、是レ本計畫ヲ指シタルカ、或ハ此平凡ナル計畫以外ニ、更ニ妙案ヲ有スルカ、願ハクハ手品ノ種ヲ聞クヲ得ント。**窪田局長**、余ハ手品師ニ非ズ、本年度ハ本案以外ニ何等ノ計畫ナシト答フレバ。**小久江君**、三菱ヨリ百萬圓寄附ノ申出アリタリト聞ケルガ、特別稅ヲ起スニ先ダチ、何故ニ之ヲ利用スルノ途ヲ講ゼザルカト問ヒ。**窪田局長**、三菱ヨリ公設市場及ビ食堂ヲ建設スル爲、百萬圓ヲ寄附スベシトノ意思表示アリ、先般具體案ヲ得タルヲ以テ、今參事會ニ諮問中ナリト答ヘリ。

早川庄太郎君問ウテ曰ク、余ハ市ノ新財源トシテ富豪ノ有スル廣大ナル庭園ニ課稅スルノ方法ナキヤヲ曾テ理事者ニ質シタルニ、監督官廳ハ恐ラク庭園稅ヲ許可セザルナラントノ答辯ニ接シタレバ、何等カノ手段方法ヲ研究スベキヲ依囑シタルコトアリ、爾來理事者ハ果シテ如何ナル方法ヲ講ジタルカ、第二、本案ニ據レバ、遊興費僅ニ參圓ヲ消費スルモ、納稅ノ義務ヲ免レザルガ、他面ニ於テ、富豪ハ一幕ノ觀劇ニ五圓、七圓ヲ擲ツヲ常トス、局長ハ觀覽稅ニ關シ如何ナル調査ヲ遂ゲタルカト。**山崎助役**、庭園稅ニ關シテハ先般早川君ノ質問ノ後、研究ヲ重ヌルト同時ニ、政府

ノ意向ヲモ探知スルニ努メタルガ、政府ハ遠カラズ都市計畫ノ財源トシテ、市町村ニ一層廣キ範圍ノ徵稅ヲ許可センコトヲ聞クト答ヘヘ。又**窪田局長**ハ、觀覽稅ニ關シテハ未ダ深ク研究セズト答フ。

南甥君ト窪田局長トノ間ニ一二問答アリタル後、**横山勝太郎君**問ウテ曰ク、參考書中ニ、「大正九年勅令第百六十八號第二條第一項及第六條ノ規定ニ依リ左ノ市稅、區稅及町村稅ヲ指定ス」トアリテ、此指定稅目トシテ遊興稅、歡興稅、宴席消費稅、特別消費稅、其他ノモノヲ列擧セルガ、本案ノ稅金ハ、上記項目中ノ特別消費稅ニ該當スルカ、又ハ遊興稅、歡興稅、宴席消費稅ヲモ包括スルカ、又本條例案ノ第二條ニ、「藝妓、娼妓、幇間、遊藝、稼人、其他之ニ類スル者ヲ招致シテ金員ヲ消費シタル者ニ對シ之ヲ賦課ス」トアルガ、例ヘバ數十人ノ客ガ多額ノ飮食費ヲ投ジタルニ拘ラズ、僅ニ數圓ヲ投ジテ四五人ノ藝人ヲ招キタル場合ニ、本條例ハ此飮食費及ビ藝人費ヲ合セテ之ニ課稅セントスルカ、又ハ藝人ノミニ課稅セントスルカト。**山崎助役**答ヘテ曰ク、特別消費稅ナル名稱ハ、遊興稅、歡興稅、宴席消費稅ヲモ含ミ、更ニ廣キ範圍ニ涉ルト考フ、又第二條ノ規定ノ文字ハ、飮食費及ビ藝人費ヲ合セラ課稅標準ト爲シ得ルコト勿論ナルモ、此標準等ニ關シテハ、市長ニ於テ別ニ必要ナル規定ヲ設クベシト。**横山君**續イテ曰ク、法文上ノ用例ヨリ云ヘバ、特別消費稅ナルモノヽ外ニ、宴席稅、消費稅若クハ遊興稅等ハ、獨立ノ存在ヲ有スルコト明ナリ、然ルニ市當局者ガ此等ヲ悉ク特別消費稅ニ包括セルハ、一般ノ用例ト異ナル所アリテ、立法ノ體裁上宜ヲ得タリト云フ能ハズ、此點ハ固ヨリ委員會ニ於テ審議セラルベキモ、他ニ適當ノ解決法ナキカ、又第三條ノ賦課率ノ標準如何ト。**山崎助役**答ヘテ曰ク、內務省ガ何故ニ斯ク多クノ名稱ヲ列擧シタルカヲ解スル能ハザルモ、各都市ニ於テモ、此種稅目ノ名稱ハ一定セズ、但シ本市ニハ特別消費稅ナル獨立ノ稅目アリ、又第三條ノ賦課率ハ、市會ノ議決ヲ經テ定ムルコト勿論ナルモ、九年度ニ於テハ、第百十四號案ニ明カナルガ如ク、百分ノ五ヲ徵收セント欲スト。**横山君**ハ

進ンデ、本稅ハ新年宴會、送別會等ノ如キ東京市民ノ社交上ノ禮儀ヲ破壞スルノ傾向ヲ有スル惡稅ナリト論ジ。**酒井泰君**ノ動議ニ依リ、上記四案ヲ一括シテ議長指名十五名ノ調査委員ニ付託スルニ決シ、議長ハ左ノ指名ヲ爲セリ。

笠原文太郎　成島菊次良　中村鐵二　中村舜二　尾中勝也
早川庄太郎　岩松兼經　伊東靖　矢野鉉吉　增野豐
淺川保平　羽田如雲　小栗富五郎　本宮辰次郎　齋藤知二

委員ハ**伊東靖君**ヲ委員長ニ推シ、審議ノ結果、本節初頭ニ揭記シタル如キ修正ヲ加フルニ決シ、其旨九月二十日ノ會議ニ報告シタリ。仍テ四案ヲ一括シテ議題ニ供シタルニ、**大庭重治君**先ヅ問ウテ曰フ、聞クガ如クンバ、內務省ハ飮食費ヲ除キ、藝娼妓其他ノ者ノ玉祝儀ニ課稅スルコトハ、人頭稅ニ類スルノ故ヲ以テ、之ヲ許可セザルノ內意アリト云フ、市ノ當局ハ之ヲ知ルガ故ニ、表面消費金額ニ課稅スルカノ如クニ裝ヒ、實際玉祝儀ノミニ課稅セントスルニ非ザルカト。**永井助役**答ヘテ曰ク、特別消費稅ハ、本市以外ノ主ナル都市ニ於テ已ニ實施シツヽアルヲ以テ、研究資料ニ乏シカラズ、又內務當局ノ意見ハ固ヨリ大ニ之ヲ參酌シ、此等ヲ基礎トシテ本案ノ圓滿ナル運用ヲ期スル爲、種々研究スル所アリタリ、第二條ニ因リ、課稅ノ目的物ハ明瞭ナリト信ズルモ、其施行細則ハ市長別ニ之ヲ定ムルガ故ニ、目下實際ニ適合スル方法ヲ講究中ナリト。猶大庭君ト永井助役トノ間ニ二三問答アリタル後、**天利庄次郎君**問ウテ曰ク、若シ飮食費ニ課稅スルトセバ、何故ニ條文ニ之ヲ明記セザル、又宴會其他ノ席ニ藝妓又ハ遊藝稼人ヲ聘シタル場合、其藝術ヲ演ズルト演ゼザルトニ論ナク、之ニ課稅スルノ意カ、又慈善會等ニ於テ、藝人ノ利益ヲ目的トセズ、慈善的、寄附的ノ好意ニ出デタル場合、若ハ踊三味線ノ師匠ヲ練習ノ爲ニ一定ノ時期ニ招聘スル場合等ニ對シテ課稅ノ有無ニ關スル當局ノ見解如何ト。**永井助役**、第二條ニ明ナル如ク、藝娼妓等ヲ招キ、金員ヲ費消シタル者ニ課稅スルトセバ、飮食代ハ當然此中ニ含マルト答ヘ。**天利君**、然ラバ何故ニ之ヲ明記セザルカト詰リ。**永井助役**續テ曰ク、第二ノ質問ハ冠婚葬祭ノ場合ト考フルガ、斯ル場合ニモ、藝人ヲ招キ金員ヲ消費スレバ、徵收ヲ免レズ、又踊ノ師匠ノ如キハ、遊藝稼人ニ非ズト答ヘ。**天利君**、寄附的ニ席ニ列リタル時ハ如何ト問ヒ。**永井助役**、藝人ノ寄附的行爲ハ徵稅ニ關係ナシト答フ。**大庭君**、第二條ヲ「遊藝稼人其他之ニ類スル者ヲ招致シテ飮食遊興ヲ爲シ金員ヲ消費シタル者」ト修正スルモ、異議ナキカト永井助役ニ諮レバ。**助役**ハ、修正ハ貴下ノ任意ナリト答フ。續イテ左ノ修正意見ノ討議ニ入ル。

第百十二號、第百十三號議案修正意見

右提出候也

大正九年九月二十日

提出者　小久江美代吉　長町康夫
贊成者　野々山幸吉　外六名

東京市會議長加藤正義殿

委員長報告ノ外左ノ修正ヲ爲ス

第百十三號議案

經常部　第一款　事務所費　六萬七千參百貳拾圓ヲ削除
臨時部　第五款　事務所費　七萬貳千圓ヲ削除
第六款　社會事業施設費中第一項職業紹介所建設費　拾參萬參千八百五拾壹圓ヲ削除

右削除ノ結果減少シタル金額ヲ歳入剰餘金トス

小久江美代吉君提案ノ趣旨ヲ説明シテ曰ク、吾人ハ上記ノ削除ガ社會施設其モノニハ毫モ影響スル所ナキヲ信ズ、社會局ハ今回ノ豫算ニ於テ、事務所費トシテ經常部ニ於テ五十人ノ增員ヲ要求セルモ、同局ハ現ニ本廳詰トシテ九十七人ノ定員ヲ有シ、之ニ公設市場、職業紹介所等ノ現場員ヲ加フレバ、約百二十人ニ達スルナラン、而モ本廳詰ノ吏員ハ現ニ充分ノ餘力ヲ有スルヲ以テ、今回計畫セル社會的施設ヲ實行スルニ些ノ支障ナカルベシ、又臨時部ニ於ケル社會局新廳舍ノ建築ハ、早晩本廳舍ノ新築ヲ見ルベキヲ以テ、今ハ其必要ナシト信ズ。職業紹介所ノ新築モ、亦不急ノ工事ナリ、以上削減ノ結果、約參拾萬圓ヲ節約シ、之ヲ以テ增稅ノ緩和ヲ計ラントスト。此時**伊東委員長**ハ、本條例第六條中ニ「其ノ翌日迄ニ」トアルハ印刷ノ誤ニシテ、「三日以內」ト訂正スト述ブ。次ニ**早川庄太郎君**修正案ニ反對シテ曰ク、委員會ニ於テモ、小久江君ガ杞憂スルガ如キ問題ハ大ニ攻究セラレタルガ、要スルニ現在ノ狀勢ハ、一日モ社會的施設ノ閑却ヲ許サヾルモノアリトシテ、委員會ハ先キニ報告シタル修正ヲ加ヘ、全會一致ヲ以テ可決シタル次第ナリ、加之吾人ハ後刻附議セラルベキ社會局常設委員條例ノ設定ニ依リ、相當ノ委員ヲ擧ゲ理事者ト協力シ、且ツ之ヲ鞭撻シテ、社會事業ノ進展ヲ圖ラントス、故ニ余ハ小久江君ノ修正案ノ必要ヲ認メズト。此時議長ハ次ノ修正案ヲ議題ニ供スベシト宣セリ。

東京市特別稅特別消費稅條例設定ニ關スル件修正意見

右提出候也

大正九年九月二十日

提出者　南　甕

贊成者　大庭重治　外一名

東京市會議長加藤正義殿

一、東京市特別稅特別消費稅條例第二條ノ末項ニ結婚祭典ノ場合ハ前項ノ規定ヲ適用セズ

ト挿入ス

南甕君提案ノ趣旨ヲ説明シテ曰ク、結婚祭典ノ場合ニ親戚知己ヲ料亭ニ會スルハ、社會的ニ必要ナル禮儀ニシテ、遊冶郎ガ長夜ノ宴ヲ張ルト大ニ其趣キヲ異ニス、是レ本修正ノ必要ナル所以ナリト。斯クテ採決ニ入リタルガ、小久江君及ビ南君ノ修正意見ハ敗レ、委員會ノ報告可決セラレタリ。

▽社會局常設委員會條例制定ノ建議　前記議案ノ採決終ルヤ、左記建議案議題ニ供セラレタリ。

一　社會局常設委員會條例制定ノ建議

右提出候也

大正九年八月九日

提出者

早川庄太郎　羽田如雲　増野豐

成嶋菊次良　笠原文太郎　本宮辰次郎

伊東靖　中村鐵二　尾中勝也

小栗富五郎　中村舜二　淺川保平

齋藤知二

東京市會議長加藤正義殿

社會局常設委員會條例制定ノ建議

本市社會局事務ノ改善ヲ企圖シ其遺策ナキヲ期センカ爲メ市制第八十三條ニ則リ之カ委員會（市會議員ヨリ九名名譽職市參事會員ヨリ二名）設置ノ條例制定ヲ望ム

早川庄太郎君、社會事業ノ施設ハ從來遲々トシテ進マザルノ感アリ、之ヲ理事者ノミニ一任スルハ得策ニアラズトシテ、委員會ニ於テハ全會一致、本建議案ヲ提出スルニ決セリ、是レ社會事業ノ急速ナル進展ヲ期スルガ爲ナリト提案ノ趣旨ヲ說明シ。**山口憲君**、委員數ヲ變更シテ市會議員ヨリ九名、市參事會員ヨリ二名、市公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ四名ト爲スノ修正意見ヲ提出シタルガ。**大庭重治君**、社會局ノ事業トシテ、本日既ニ方面委員制度ヲ可決シタルガ、說明ニ據レバ此制度ハ社會政策ノ基礎ヲ爲スト云ヘリ、然ルニ今又此委員ヲ設ケントスルハ如何ナル見解ニ基クカト問ヘバ。**早川君**、方面委員ト常設委員トハ全然其權能ヲ異ニシ、前者ハ凡ユル施設ノ內容ニ立入ルコトヲ得ズト答フ。斯クテ採決ニ入リ、多數ヲ以テ山口君ノ修正案通リ可決セリ。

第拾六節　市長助役議長參事會員其他ノ辭職

十二月七日ノ會議ニ於テ、劈頭八田書記長ハ、市制第四十九條ニ據リ年長議員島田藤吉君ノ議長席ニ着カレムコトヲ請フト述ブレバ、島田君議長職務代理トシテ議長席ニ着キ、開會ヲ宣シ、且ツ曰ク、本日ハ正副議長共ニ支障アル爲、年長者タル不肖議長ノ職務ヲ代行ス、願ハクハ諒セヨト。斯クテ新ニ議席ニ着ケル淺草區選出ノ松崎英太郎君、四谷區選出ノ山本茂三郎君ヲ紹介セリ。

此時、十一月三十日ヲ以テ、新ニ東京市長職務管掌ヲ命ゼラレタル東京府內務部長**大海原重義君**發言ヲ求メテ曰ク、余ハ今回東京市長ノ職務管掌ヲ命ゼラレ、玆ニ御挨拶ノ機會ヲ得タルハ、余ノ欣幸トスル所ナリ。本日ハ當市會ノ最モ重要案件タル東京市長ノ選擧執行セラルベキヲ以テ、余ハ事ノ經過ヲ簡單ニ述ブベシ。前市長田尻子爵ノ退職願ハ去ル二十七日ニ、又永井、戶野兩助役ノ退職願ハ三十日ニ提出セラレテ、既ニ內務大臣及ビ東京府知事ノ認可ヲ得タリ、此ノ如クニシテ我東京市ハ突如トシテ樞要ナル執行機關ノ全部ヲ缺クニ至リタレバ、東京府知事ハ市制第百六十四條第一項ニ基キ、不肖ニ職務管掌ヲ命ゼリ、此ノ如キハ全ク異例ニ屬スルヲ以テ、余ハ東京市ガ速ニ人格識見共ニ卓越セル良市長ヲ迎ヘムコトヲ衷心ヨリ希望シテ已マザルナリ。本日開會ノ市會ニ於テハ、內務大臣ノ命ニ依リ、市長候補者選擧ノ件ヲ傳達シ、且ツ市制上最モ重要機關タル市參事會ノ辭任、竝ニ其補缺選擧ノ件ヲ傳達スルコトヲ主題トシテ開會シタル次第ナリ、希クハ市政ノ現狀ニ鑑ミ、適當ナル選擧ヲ了セラレムコトヲト。**平岡定太郎君**モ亦、新ニ道路局長ヲ拜命シタレバ、宜ク指導ヲ賜ハラムコトヲ請フト挨拶セリ。斯クテ暫時休憩ノ後再ビ開會シ、嶋田議長職務代理ハ、書記長ヲシテ他ノ報告ト共ニ、左ノ重要ナル報告ヲ朗讀セシメタリ。

庶發第九七七號

市會議員加藤正義君ヨリ別紙ノ通辭任屆出相成候條此段報告候也

大正九年十一月二十九日

東京市長代理東京市助役　永井環

（別紙）

大正年間　第貳章　大正九年　第拾六節　市長助役議長參事會員其他ノ辭職

辭　表

東京市道路不正事件ハ言語同斷ノ大失態ニシテ當局者責任ノ重大ナルハ勿論ナルモ拙者亦タ市會議員トシテ殊ニ議長ノ職ニ在リテ此失態ヲ見ル實ニ責任ノ重キヲ感セサルヲ得ス依テ進退ヲ自決シ以テ市民ニ謝スルヲ相當ノ措置ト認メ玆ニ市會議員ヲ辭任致シ候也

大正九年十一月二十六日

東京市會議員　加藤正義

東京市長子爵田尻稻次郎殿

庶發第九七九號

市長候補者推薦方別紙ノ通令達セラレ候條右送付候也

大正九年十一月二十九日

東京市長代理
東京市助役　永井環

東京市會副議長鳩山一郎殿

追而候補者推薦ノ儀ハ此際至急御取計相成度旨特ニ通牒有之候ニ付申添候

（別　紙）

內務省東地第四七〇號

東京府東京市會

其市市長子爵田尻稻次郎本年十一月二十七日辭任ニ付市長候補者三人推薦スヘシ

大正九年十一月二十七日

內務大臣　床次竹二郎

庶發第九八〇號

本市市長子爵田尻稻次郎本月二十七日內務大臣ノ認可ヲ受ケ退職致候間此段通知候也

大正九年十一月二十九日

東京市長代理
東京市助役　永井環

東京市會副議長鳩山一郎殿

庶發第九八六號

東京市長缺員ニ付市長職務管掌トシテ東京府內務部長大海原重義ヲ任命派遣ノ旨別紙ノ通通達有之候ニ付此段報告候也

大正九年十一月三十日

東京市役所

（別　紙）

申庶第無號

大正年間　第貳章　大正九年　第拾六節　市長助役議長參事會員其他ノ辭職

大正九年十一月三十日

東京府內務部長　大海原重義

東京市役所御中

貴市市長缺員ニ付左記ノ者市長職務管掌トシテ派遣候間依命此段及通達候也

東京府內務部長　大海原重義

庶發第九八七號

本市助役永井環、同戶野周二郎ハ十一月三十日東京府知事ノ認可ヲ受ケ退職致候間此段通知候也

大正九年十二月一日

東京市役所

庶發第九九二號

名譽職參事會員安住佐太郎君同長谷川吉次君同山口憲君同伊藤定七君同宮崎三之助君同丸山名政君同野々山幸吉君同作間耕逸君同西川嘉門君同辰澤延次郎君同細野順君ヨリ別紙ノ通辭任屆出相成候條此段報告候也

大正九年十二月二日

東京市會副議長鳩山一郎殿

東京市長職務管掌

東京府內務部長　大海原重義

東京市會副議長鳩山一郎殿

（別紙）

辭任屆

東京市道路不正疑獄事件ニ關シ田尻市長及永井戶野兩助役ノ辭任ヲ視ルニ至リシハ本市ノ不面目實ニ不過之小生又市參事會員ノ末班ヲ汚シ共責任ノ重且ツ大ナルヲ感セサルヲ得ス依而茲ニ市參事會員ノ職ヲ辭任仕候也

大正九年十二月一日

東京市參事會員

伊藤定七

東京市長職務管掌

東京府內務部長　大海原重義殿

自分共儀感スル所有之今般東京市名譽職市參事會員ノ職ヲ辭任仕候也

大正九年十二月一日

東京市名譽職市參事會員

宮崎三之助

辰澤延次郎

東京市長職務管掌

東京府內務部長　殿

辭職屆

自分共儀臧スル處アリ東京市名譽職市參事會員ヲ辭職致候也

大正九年十二月一日

東京市長職務管掌
東京府內務部長　大海原重義殿

山口憲
細野順
西川嘉門
丸山名政

東京市參事會員

安住佐太郎
長谷川吉次
野々山幸吉
作間耕逸

右自分等同志ノ市參事會員ハ這般ノ市疑獄事件ニ關シテハ直接其責ノ任スヘキヲ認メス寧ロ留マリテ職責ヲ全フスルヲ相當ナリト信スルモ而カモ此際人心ノ一新ヲ期スルハ市政ノ運用上更ニ緊要ナリト臧ジ參事會ノ改善ヲ欲シテ連袂市參事會員ノ職ヲ退キ候此段及御屆候也

大正九年十二月一日

東京市長職務管掌
東京府內務部長　大海原重義殿

右

安住佐太郎
長谷川吉次
野々山幸吉
作間耕逸

庶發第九九三號

報告

名譽職參事會員高橋義信君ヨリ別紙ノ通辭任屆出相成候條此段報告候也

大正九年十二月二日

東京市長職務管掌
東京府內務部長　大海原重義

東京市會副議長鳩山一郎殿

（別紙）

辭職屆

自分儀感スル所有之今般東京市名譽職市參事會員ノ職ヲ辭任候也

大正九年十二月一日

名譽職
東京市參事會員　高橋義信

東京市長職務管掌
東京府內務部長　大海原重義　殿

庶發第九九五號

名譽職參事會員及名譽職參事會員選出ノ養育院常設委員其他委員補闕選擧ノ爲至急開議相成度此段請求候也

大正九年十二月二日

東京市長職務管掌
東京府內務部長　大海原重義

東京市會副議長鳩山一郎殿

第拾七節　市會議長選擧

十二月七日ノ會議ニ於テ、日程第一市會議長選擧ニ關シ、**横山勝太郎君、作間耕逸君**等ヨリ延期ノ動議提出セラレタルモ成立セズ、單記無記名ニ依リ、投票ヲ行ヒタル結果、左ノ如ク桐島像一君當選セリ。

投票總數	六十五票
無效投票	一票
有效投票	六十四票
三十四票	桐島像一
三十票	鳩山一郎

仍テ**桐島像一君**議長席ニ着キ就任ノ挨拶ヲ述ベテ曰ク、余不肖ノ身ヲ以テ、圖ラズモ榮譽アル推薦ヲ辱ウシ、諸君ノ厚情ニ對シ、恐縮ニ堪ヘザルナリ。殊ニ余ハ昨今多少健康ヲ損シタレバ、此重任ニ耐ヘ得ルヤ否ヤハ、疑ナキ能ハザルノミナラズ、不敏ニシテ職務ニ關スル諸規則ニモ通曉セザルガ故ニ、或ハ議場整理ノ任ヲ全ウスル能ハザルヲ恐ル、此場合唯奮勵努力以テ諸君ノ好意ニ對ヘント欲ス、願ハクハ援助ヲ賜ハラムコトヲト。

第拾八節　市長候補者三名選擧

前記議長選擧ヲ終リタル後、桐島新議長ノ下ニ直ニ市長候補者三名ノ選擧ニ移リ、單記無記名ヲ以テ、先ヅ第一候補者ノ選擧ヲ行ヒタルガ、投票ノ結果左ノ如ク後藤新平君當選セリ。

投票總數	六十五票
無效投票	一票
有效投票	六十四票
六十三票	後藤新平

一　票　岩松兼經

次ニ第二候補者ノ選擧ヲ行ヒタルニ、左ノ如ク岩松兼經君當選セリ。

投票總數　六十五票
無效投票　十一票
有效投票　五十四票
四十七票　岩松兼經
二　票　野々山幸吉
二　票　棚橋一郎
一　票　松山傳十郎
一　票　南　甕
一　票　鳩山一郎

次ニ第三候補者ノ選擧ヲ行ヒタルニ、左ノ如ク棚橋一郎君當選セリ。

投票總數　六十五票
無效投票　十二票
有效投票　五十三票
四十七票　棚橋一郎
一　票　鳩山一郎

一　票　山口憲
一　票　嶋田藤吉
一　票　山崎林太郎
一　票　伊藤定七
一　票　原敬

▽**後藤新平君市長就任ノ辭**　斯クテ次ニ開カレタル十二月二十二日ノ會議ニ、左ノ報告アリタリ

庶發第一〇二九號

曩ニ市會ニ於テ推薦相成候正三位勳一等男爵後藤新平ハ本市市長就任ノ儀本月十七日御裁可ヲ經候條此段御通知候也

大正九年十二月十八日

東京市長男爵　後藤新平　印

東京市會議長桐嶋像一殿

同日ノ會議劈頭ニ於テ、**桐島議長**ハ、後藤市長ハ御裁可ヲ經テ就任セラレ、本日出席セラレタレバ紹介スベシ、猶市長ヨリノ發言ノ通告アリ、此際之ヲ許スベシト告ゲ、**後藤市長**ハ直ニ左ノ挨拶ヲ爲セリ。

此度新平圖ラズモ諸君ノ推薦ニ依リテ市長ニ選擧セラレ、御裁可ヲ經テ就任スルノ光榮ヲ擔ヒタルガ、同時ニ責任ノ重大ナルヲ感ゼリ。而シテ此責任ヲ盡クス爲ニハ、日新ノ大勢ニ順應シテ、複雜ナル市ノ事務ヲ簡單ニ整理シ、之ヲ遂行スルニ於テ、遺憾ナキヲ期セザルベカラズト信ズ。余之ヲ聞ク、曰ク國ヲ治ムルハ易ク、家ヲ治ム

ルハ難シト。而モ現今ノ東京市ヲ治ムルハ、一層難シトノ感ナキヲ保セザルモ、唯熱誠事ニ膺リ、之ニ亞グニ勉勵ヲ以テセバ、庶幾クハ市民ノ望ニ副フコトヲ得ン。今ヤ余ハ或ハ責任ヲ盡スコト能ハザルヲ恐ルト云フガ如キ謙讓ノ辭ヲ用フルコトヲ容サズシテ、必ズ之ヲ盡サヾルベカラザルノ境地ニ立テリ。希クハ諸君ノ充分ナル協力ニ依リ、此推薦ノ光榮ニ應フルコトヲ得ン。

第拾九節　名譽職市參事會員十二名補缺選擧

十二月七日ノ會議ニ於テ、市長選擧ニ次ギ、單記無記名ヲ以テ名譽職市參事會員十二名ノ補缺選擧ヲ行ヒタル結果、當選者左ノ如シ。

投票總數　六十五票
有效投票　六十五票

新井輿四郎
笠原文太郎
小坂梅吉
津村重舍
角野庄太郎
大崎清作
若林成昭
德岡梅吉
大庭重治
垣見八郎右衞門
中村鐵二
中村舜二

第貳拾節　助役決定ノ件

十二月二十二日ノ會議ニ於テ、助役決定ニ關シ左ノ報告アリタリ。

庶發第一〇四六號

左記ノ者本市助役ニ推薦致候條御決定相成度候也

大正九年十二月二十二日

東京市長男爵　後藤新平

東京市會議長桐島像一殿

左記

永田秀次郎
池田宏
前田多門

此報告ニ基キ、同日ノ會議ニ於テ、議長ハ、市長ヨリ永田秀次郎、池田宏、前田多門ノ三君ヲ助役ニ推薦シ來リタルガ異議ナキヤト議場ニ諮リタルニ、滿場異議ナカリシヲ以テ、三君助役ニ決定セリ。

第貳拾壹節　市會議員橫山勝太郎君ノ辭任

十二月二十二日ノ會議ニ、市會議員橫山勝太郎君ノ辭任ニ關シ、左ノ如ク報告アリタリ。

庶發第一〇四七號

市會議員橫山勝太郎君ヨリ別紙ノ通辭任屆出相成候條此段報告候也

大正九年十二月二十二日

東京市會議長桐嶋像一殿

東京市長男爵　後藤新平

（別紙）

辭表

東京市會議員　橫山勝太郎

今回瓦斯、道路等ノ問題ニ關シ數多ノ瀆職犯罪者ヲ出シ爲ニ大ニ天下ノ物議ヲ釀シ市長、議長、助役、參事會員等ノ辭職ヲ見延テ官權ノ關渉ヲ受クルニ至リタルハ我帝都自治體ノ面目ヲ損傷スルノ甚キモノニシテ實ニ千秋ノ大恨事ナリト謂ハサル可ラス自分ハ斷シテ公人タル節度ヲ失ハス內ニ顧ミテ寸毫ノ疚シキ所ナキハ天下ニ公言シテ憚ラサル所ナリト雖モ畢竟微力ニシテ平常監視ノ實ヲ全フスル能ハサリシ爲メニシテ議員トシテ其責任甚タ輕カラスト深ク憂慮罷在候依テ自分ハ公人タルノ德ヲ守リ玆ニ斷然處決シテ正義ナル市民ニ對シ陳謝ノ誠意ヲ表白スルヲ以テ立憲自治ニ處スル相當ノ道ナリト思料シ今回名譽アル市會議員ノ公職ヲ辭任致度此段御屆致候也

大正九年十二月二十一日

右

橫山勝太郎

東京市長男爵　後藤新平殿

第貳拾貳節　市會議員異動

大正九年中ニ於ケル市會議員ノ異動左ノ如シ。

選舉區	氏名	年月日	摘要
淺草區	松崎權四郎	大正九年五月九日	死亡
四谷區	波多野友江	大正九年八月十一日	辭職
麹町區	加藤正義	大正九年十一月二十六日	辭職
芝區	橫山勝太郎	大正九年十二月二十一日	辭職
日本橋區	前田兼七	大正九年一月二十六日	補缺
淺草區	松崎英太郎	大正九年九月二十五日	補缺
四谷區	山本茂三郎	大正九年十二月六日	補缺

第參章　大正十年

第壹節　大正十年度東京市歳入出總豫算

▽普通會計ニ屬スル豫算

大正十年度歳入出豫算

歳入出		原案	委員會修正額	市會決定額
歳入		二三、三三五、一九四・〇〇〇円	一三、九七六、五七五・〇〇〇円	同左
歳出	經常部	一三、九三六、五七五・〇〇〇	九、三五八、六一九・〇〇〇	同左
	臨時部	九、三九八、六一九・〇〇〇	委員會報告通	同左
	合計	二三、三三五、一九四・〇〇〇	原案通	委員會報告通

市參事會ハ本案ニ對シ、左記希望條件ヲ附シテ同意シタル旨追記セリ。

希望條件

一、現在豫算ノ編制方法ハ複雜多岐ニシテ、體ヲ得サルモノ多シ。仍テ今後之カ整齊統一ヲ圖ラレンコトヲ希望ス。

一、現在ノ市政ハ因襲ノ久シキ、情弊ノ纏綿スル處尠カラス。仍テ此際行政財政兩方面ニ亙リ、根本的ニ整理更革ノ實ヲ擧ケ、大ニ事務ノ刷新ヲ圖ラレンコトヲ希望ス。

一、本豫算ノ實行ニ際シテハ、細心ノ注意ト周到ノ考慮ヲ拂ヒ、極力經費ノ節減ヲ圖ルト共ニ、運用ノ上ニ萬遺算無カランコトヲ希望ス。

本案ハ二月九日ノ會議ニ上程サルヽヤ、市長**後藤新平君**豫算編製方針ノ概要ヲ述ベテ曰ク、大正十年度ノ豫算ハ、既定費目ノ支出額ト既定繼續費年割額トヲ計上シタルニ止マリ、新規事業費ノ類ハ能フ限リ之ヲ他日ノ考慮ニ讓ル事トセリ、元來本市ノ豫算ハ、諸君モ熟知ノ如ク頗ル複雜ニシテ、一般會計ノ外ニ、特別會計ハ十三種アリ、而モ此ノ十三種ニ類別サレタル特別會計ノ箇々ノ內容モ亦複雜ナリ、故ニ豫算編製上或ハ其體ヲ得ザルモノアルベシト察セラルヲ期セント欲ス、尙ホ本市ノ行政、財政ノ兩方面ニ亙ル根本的整理改革ニ就イテモ、科學的攻究ヲ要スル點尠カラザルヲ以テ、充分努力スル考ヘナリ、兎ニ角本年度ノ豫算ハ、新規事業其他特殊ノ事項ヲ含ム事比較的少ク、從テ前年度ニ比シテ增稅等ノ事ナキモ、一般、特別兩會計ヲ通ジテ歳計總額壹億參千萬圓ヲ算シ、地方經濟トシテハ相當鉅額ニ達ス、仍テ充分調査審議ヲ煩ハサント欲スト。次デ**大庭重治君**ハ、名譽職ノ受クル費用辨償ハ何レモ均一ナラザルベカラズ、然ルニ豫算案中、議長、副議長、市參事會員、學務委員等ト、一般市會議員トノ間ニ差別ヲ設ケタルハ甚ダ不合理ニシテ、何レモ名譽職タル以上、其費用辨償ハ均一ナラザルベカラズト思惟ス、此ハ本員一人ノ意見ニアラズ、故ニ本案ガ委員ニ調査ヲ付託サレナバ、委員諸君ハ此ノ點ニ留意サレンコトヲ希望スト述ベタリ。斯クテ**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ、第二十五號議案（課稅率決定ノ件）外十案ヲ一括シテ、議長指名十三名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

島田藤吉　成島菊次良　河井榮三郎　松崎英太郎　川久保源治
竹下延保　後藤武夫　尾中勝也　伊東靖　小久江美代吉
山本茂三郎　塚原寅次郎　本宮辰次郎

委員ハ川久保源治君ヲ委員長ニ、松崎英太郎、伊東靖、本宮辰次郎ノ三君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、歳入出總額ニハ異動ナキモ、經常部第二款第一項費用辨償額中、旅費四千九百圓ヲ四千圓ニ減額シテ、豫備費貳拾萬圓ヲ貳拾四萬九百圓ニ增額シ、臨時部第二十六款第四項海外視察費五萬圓ヲ壹萬圓ニ削減シテ、前表ノ如ク修正シ、且ツ左記希望條件ヲ附スル事トシタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

希望條件

一、從來豫算提出ノ時期甚タ遲キニ失ス。仍テ將來ハ必ス一月中ニ本會ニ附議シ得ル樣措置アラムコトヲ望ム。
一、市有地、公園地ノ使用料及物件貸付料ハ、均衡ヲ得サルモノアリト認ム。仍テ調査ノ上、適當ノ時期ニ於テ改正ヲ行ハレムコトヲ望ム。

越エテ七月二十七日附ヲ以テ、市理事者ヨリ左記更正竝ニ追加豫算案ノ提出アリタリ。

大正十年度歳入出更正竝追加豫算

			（右側ノ◎印ハ委員會修正額 左側ノ―印ハ同會ニテ削除）
歳出	既定豫算高	二六、九六二、三三六・〇〇〇	円
	更正竝追加豫算高	三〇、二三〇、一〇五・〇〇〇	◎ ◎
		三〇、六九九、一八七・〇〇〇	― ―

歳出	既定經常部豫算高	一四、〇四八、七六一・〇〇〇	
	既定臨時部豫算高	一二、九一三、五七五・〇〇〇	
	合計	二六、九六二、三三六・〇〇〇	
	更正竝追加經常部豫算高	一四、〇四五、八七三・〇〇〇	◎ ◎ ◎
		一四、一四七、一五二・〇〇〇	― ― ―
	更正竝追加臨時部豫算高	一六、一八四、二三二・〇〇〇	◎ ◎ ◎
		一六、五五二、〇三五・〇〇〇	― ― ―
	合計	三〇、二三〇、一〇五・〇〇〇	◎ ◎ ◎
		三〇、六九九、一八七・〇〇〇	― ― ―

說明　物價及勞銀低落ニ伴フ歳出豫算不用額ヲ控除スルト共ニ、第百二號乃至第百十號議案（註、小學校建築費、道路擴築費其他橋梁改築等ノ繼續年期支出ニ關スル豫算案）ニ基ク繼續年割額ヲ計上シ、且塵埃及屎尿ノ處分設備竝掃除、道路整理竝改良、路面ノ清掃、印刷及自動車修理工場ノ設營、自治訓練、吏員、教員ノ教養、講習、共ノ他現下ノ市勢ニ鑑ミ必要ト認ムル施設ヲ爲スモノトシ、豫算更正追加ノ爲メ本案ヲ提出ス。

右ハ八月四日ノ會議ニ上程、早川庄太郎君ノ動議ニ據リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

兼藤良三郎　島田藤吉　西川嘉門　成島菊次良　佐々木藤市郎
細野順　吉川忠志　堀內伊太郎　塚原寅次郎　本宮辰次郎
松崎英太郎

委員ハ細野順君ヲ委員長ニ、兼藤良三郎、松崎英太郎、吉川忠志ノ三君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、歳出經常部中、印

刷工場費參萬七千四百五拾壹圓ヲ削除シタル外、市役所費中ノ給料、區役所費中ノ雜給、其他道路橋梁費等ヲ削減シ、臨時部ニ於テモ、市役所費中ノ營繕費、道路橋梁費、汚物掃除費等ヲ減額シ、歲入ハ市稅中ノ國稅營業稅附加稅、特別稅特別消費稅等ヲ減額シテ、歲入出總額ヲ前表ノ如ク修正シタル上、左記希望條件ヲ附シテ可決シタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

左記

一、本案歲入第十一款財產賣拂代第一項土地賣拂代ハ、歲出臨時部第二十八款雜支出第一項社會事業費經濟繰入ニ充當スルモノニシテ、右ハ第九十九號議案調査委員報告意見ノ如ク穩當ナラスト認ム。（註、特別會計ニ屬スル豫算中社會事業歲入出第二回更正豫算ノ項參照）仍テ將來ハ注意セラレムコトヲ望ム。

一、歲出經常部第一款市役所費第三項雜給第十二目特別慰勞金ハ、理事者ノ說明ニヨリ之ヲ承認セルモ、將來ハ其內容ヲ明カニシテ提案スルノ方法ヲ採ラレムコトヲ望ム。

一、歲出經常部第十九款及臨時部第十款汚物掃除費ノ塵芥處分方法ハ、尙ホ姑息ノ嫌ヒアリ、仍テ速ニ之カ根本的改善ノ方法ヲ講セラレムコトヲ望ム。

▽特別會計ニ屬スル豫算

・水道歲入出豫算

歲入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歲入	六、〇四七、二五八・〇〇〇圓	原案通	委員會報告通
歲出 經常部	三、一三四、五八〇・〇〇〇	原案通	委員會報告通
歲出 臨時部	二、八九五、一〇三・〇〇〇	二、八三七、七一八・〇〇〇圓	委員會報告通
合計	六、〇二九、六八三・〇〇〇	五、九七二、二九八・〇〇〇	委員會報告通
歲入出差引殘金	一七、五七五・〇〇〇	七四、九六〇・〇〇〇	委員會報告通

市參事會ハ本案ニ對シ、左記希望條件ヲ附シテ同意シタル旨追記セリ。

希望條件

一、現在豫算ノ編制方法ハ、複雜多岐ニシテ體ヲ得サルモノ多シ。仍テ今後之カ整齊統一ヲ圖ラレンコトヲ希望ス。

一、現在ノ市政ハ因襲ノ久シキ、情弊ノ纏綿スル處尠カラス。仍テ此際行政財政兩方面ニ亙リ、根本的ニ整理更革ノ實ヲ擧ケ、大ニ事務ノ刷新ヲ圖ラレンコトヲ希望ス。

一、本豫算ノ實行ニ際シテハ、細心ノ注意ト周到ノ考慮ヲ拂ヒ、極力經費ノ節減ヲ圖ルト共ニ、運用ノ上ニ萬遺算無カランコトヲ希望ス。

本案ハ二月九日ノ會議ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ依リ、第十四號議案（上水道擴張費歲入出豫算）外六議案ヲ一括シテ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選任セリ。

竹下延保　南　甲　川上賢三　佐々木藤市郎
野々山幸吉　菊池武恒　堀內伊太郎　塚原寅次郎　本宮辰次郎
前田兼七

委員ハ**竹下延保君**ヲ委員長ニ、**南甲**、**川上賢三**兩君ヲ理事ニ推シ、審查ノ末、歲出臨時部第一款事務所費中、營繕費

拾五萬八百九拾參圓ヲ九萬參千五百八圓ニ削減シタル以外ハ、歳入竝ニ歳出經常費ハ、原案通可決シタル旨二月二十七日ノ會議ニ報告シタルニ、委員會ノ報告通可決セリ。

上水道擴張費歳入出豫算

歳入		七、二三七、〇〇〇・〇〇〇円
歳出		七、二三七、〇〇〇・〇〇〇
附記	市參事會ハ本案ニ對シテモ、前項水道歳入出豫算案ニ追記シタルト同一希望條件ヲ追記セリ。	
本案ハ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ據リ、第十三號議案（水道歳入出豫算）ト同一委員ニ調査ヲ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案通可決シタル旨報告、委員會ノ報告通可決セリ。		

都市計畫事業費歳入出豫算

	原案額		委員會修正額	
歳入	四、一五六、七八七・〇〇〇円	市會決定額	三、九六二、四三五・〇〇〇円	委員會報告通
歳出	四、一五六、七八七・〇〇〇	委員會報告通	三、九六二、四三五・〇〇〇	委員會報告通

附記　市參事會ハ本案ニ對シテモ、水道歳入出豫算案ニ追記シタルト同一希望條件ヲ追記セリ。

本案モ二月九日ノ會議ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ依リ、第十三號議案（水道歳入出豫算）ト同一委員ニ調査ヲ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、歳出第九款多磨墓地新設繼續費本年度支出額中、敷地買收費一坪四圓ヲ參圓ニ減ジテ、八拾四萬圓ヲ六拾參萬圓ニ修正シ、豫備費七萬圓ヲ八萬五千六百四拾八圓ニ增額セリ。而シテ歳入ハ、第五款都市計畫特別稅中、國稅營業稅割百分ノ十五ヲ百分ノ十三トシテ、其金額百四拾五萬七千六百四拾圓ヲ百貳拾六萬參千貳百八拾八圓ニ減ジ、歳入出總額ヲ前表ノ如ク修正シタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

越ヱテ五月二十三日附ヲ以テ、市理事者ヨリ左記追加豫算案ノ提出アリタリ。

歳入		七六九、〇七六・〇〇〇円
歳出		七六九、〇七六・〇〇〇

說明　過般大火ノ爲燒失シタル四谷區新宿二丁目、三丁目及淺草區田町一丁目、千束町二丁目、三丁目、象潟町、馬道町五丁目、七丁目ノ跡地ニ對シ、都市計畫事業トシテ區劃整理施行ノ件、內閣ノ認可ニ基キ實施スルモノトシ豫算追加ノ爲本案ヲ提出ス。

右ハ五月三十日ノ會議ニ於テ、大庭重治君ノ動議ニ據リ、議長指名十三名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

兼藤良三郎　長町康夫　島田藤吉　成島菊次良　松崎英太郎
後藤武夫　佐々木藤市郎　細野順　山本茂三郎　原田吉兵衞
塚原寅次郎　本宮辰次郎　河井榮三郎

委員ハ細野順君ヲ委員長ニ、成島菊次良、松崎英太郎、山本茂三郎ノ三君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、六月十八日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

市理事者ハ更ニ七月二十七日附ヲ以テ、左記更正竝ニ追加豫算案ヲ提出セリ。

都市計畫事業費歳入出更正竝追加豫算

歳入（既定豫算高　八、六九〇、六二八・〇〇〇円
　　更正竝追加豫算高　九、五七〇、一六九・〇〇〇
歳出（既定豫算高　八、六九〇、六二八・〇〇〇
　　更正竝追加豫算高　八、八一八、一四八・〇〇〇

歳入出差引殘金七拾五萬貳千貳拾壹圓

説明　物價及勞銀低落ニ伴フ既定歳出豫算不用額ヲ控除スルト共ニ、第九十五號議案ニ伴フ市債償還資金繰入及第九十六號（註、都市計畫事業費繼續年期及支出方法ノ件）第九十七號（註、下水道改良工事實施調査繼續年期及支出方法ノ件）議案ニ基ク年割額計上ノ爲本案ヲ提出ス。而シテ從來公債募集不能ノ爲繰替處辨シタル下水道改良費ハ、本年度公債募集金ヲ以テ補塡スルモノトセリ。尙歳入出差引殘金七拾五萬貳千貳拾壹圓ハ、前年度歳入不足ノ爲繰上充用シタルモノトス。

右ハ八月四日ノ會議ニ上程、**早川庄太郎君**ノ動議ニ據リ、第九十三號（都市計畫事業公債條例設定ノ件、註、本章第七節上下兩水道事業中第貳項參照）外八議案ヲ一括シテ議題ニ供スル事ニ決スルヤ、市長男爵**後藤新平君**提案ノ理由ヲ述ベテ曰ク、過般當市會ニ提案シタル大正十年度豫算ハ、當職ノ就任後日尙ホ淺カリシ爲メ、暫定トシテ諸君ノ協賛ヲ得タリシガ、爾來能フ限リ經費ノ節約ヲ爲シテ、之ヲ緊急差擱キ難キ支出ニ充當シ、尙ホ不足ノ財源ニ對シテハ、他ニ適當ナル財源ヲ求メテ、本日玆ニ追加竝ニ更正豫算案ヲ提出シタリ、今回此ノ追加竝ニ更正豫算案提出ニ際シテハ、事業ノ緩急取捨ヲ如何ニスベキカニ就キ頗ル苦心シ、其最適ト信ジタルモノヲ提案シタル次第ナルヲ以テ、充分審議ノ上協賛アランコトヲ請フト。**眞下五郎君**先ヅ市長ニ問ウテ曰ク、本案ト共ニ唯今一括シテ議題ニ供セラレタルモノ以外ニ、未ダ議題ニ供セラレザルモ追テ議題ニ供セラルベキ追加更正豫算アリ、是等ヲ總括シテ市長ニ問ハント欲ス、本年五六月ノ交、市長ガ吾々ニ向テ非公式ニ發表サレタル大抱負ノ八億圓計畫ハ、今回提案ノ追加更正豫算中ニ計上シアリヤ、將又本案ハ八億圓計畫トハ全然別個ノ應急的ノモノナルモ、其一部又ハ其準備ト看做サレテ差支ヘナシ、本市ノ行政及ビ財政ヲ根本正豫算ハ八億圓計畫トハ別個ノモノナルモ、的ニ整理改革センコトハ、短日月ノ間ニテハ不可能ナリト。次イデ**早川庄太郎君**ヨリ、議長指名九名ノ委員ニ調査ヲ付託セラレンコトヲ望ムトノ動議提出アリ、異議ナク早川君ノ動議成立シテ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

坪谷善四郎　松崎英太郎　南　甥　尾中勝也　小久江美代吉
菊池武恒　山本茂三郎　原田吉兵衛　前田兼七

委員ハ**坪谷善四郎君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、八月二十九日ノ會議ニ於テ、原案通可決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

次イデ十一月十六日附ヲ以テ、市理事者ハ更ニ左記更正竝ニ追加豫算案ヲ提出セリ。

都市計畫事業費歳入出更正竝追加豫算

歳入（既定豫算高　九、五七〇、一六九・〇〇〇円
　　更正竝追加豫算高　一一、四〇二、七三五・〇〇〇
歳出（既定豫算高　八、八一八、一四八・〇〇〇
　　更正竝追加豫算高　一〇、六五〇、〇三四・〇〇〇

歳入出差引殘金七拾五萬貳千七百壹圓

右ハ十一月十九日ノ會議ニ上程、竹下延保君ノ動議ニ據リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

成島菊次良　宮田哲雄　橋本直一　秋山朗　志村吉藏
野々山幸吉　鈴木彌吉　細野順　菊池武恒　加藤照一
塚原寅次郎

委員ハ野々山幸吉君ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、十二月二十一日ノ會議ニ於テ原案通可決シタル旨報告シタルニ、本會議ハ異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

火災共濟金歳入出豫算

歳入　七六六、四七七・〇〇〇圓
歳出　七六六、四七七・〇〇〇

本案ハ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ據リ、第二十號議案（養育院歳入出豫算）ト共ニ議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ原案通可決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

事業公債償還金歳入出豫算

歳入　五、八三六、七〇〇・〇〇〇圓
歳出　一、〇七七、一〇四・〇〇〇圓

歳入出差引殘金四百七拾五萬九千五百九拾六圓

附記　市參事會ハ本案ニ對シテモ、水道歳入出豫算案ニ追記シタルト同一希望條件ヲ追記セリ。

本案モ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ據リ、養育院歳入出豫算案調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ原案ヲ可決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

上下水道公債償還金歳入出豫算

歳入　一、八四八、七〇〇・〇〇〇圓
歳出　一、一六八、二七五・〇〇〇圓

歳入出差引殘金六拾八萬四百貳拾五圓

歳計剩餘ハ上水道擴張費及下水道改良費ニ充當

附記　市參事會ハ本案ニ對シテモ、水道歳入出豫算案ニ追記シタルト同一希望條件ヲ追記セリ。

本案ハ二月九日ノ會議ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ據リ、水道歳入出豫算案調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ原案ヲ可決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

次イデ三月二十九日ノ會議ニ於テ、左記更正竝ニ追加豫算案ノ提出アリ、異議ナク原案通可決セリ。

上下水道公債償還金歳入出更正竝追加豫算

歳入　既定豫算高　一、八四八、七〇〇・〇〇〇圓
　　更正竝追加豫算高　二、四三二、八九四・〇〇〇
歳出　既定豫算高　一、一六八、二七五・〇〇〇
　　更正竝追加豫算高　一、五三五、八八三・〇〇〇

歳入出差引殘金八拾九萬七千拾壹圓

說明　本年第四十六號市會議決ニ基キ既定收支更正ノ爲本案ヲ提出ス（註、本章第七節第參項參照）

尙ホ十一月十六日附ヲ以テ、市理事者ハ更ニ左記更正竝ニ追加豫算案ヲ提出セリ。

上下水道公債償還金歳入出更正竝追加豫算

歳入　既定豫算高　二、四三二、八九四・〇〇〇円
　　更正竝追加豫算高　二、一一〇、五一五・〇〇〇

歳出　既定豫算高　一、五三五、八八三・〇〇〇
　　更正竝追加豫算高　一、三二六、三五二・〇〇〇

歳入出差引殘金七拾八萬四千百六拾參圓

說明　第百四十二號（註、都市計畫事業費歳入出第二回更正竝追加豫算）議案ニ伴ヒ都市計畫事業費經濟ヨリノ繰入ヲ更正スルト共ニ公債ノ募集遲延ニ伴フ關係收支更正ノ爲本案ヲ提出ス。

右ハ十一月十九日ノ會議ニ上程、竹下延保君ノ動議ニ據リ、第百四十一號議案都市計畫下水道事業費歳入出更正竝追加豫算調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、十二月二十一日ノ會議ニ於テ原案通リ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

社會事業費歳入出豫算

歳入　九八二、六四〇・〇〇〇円

歳出　經常部　七四四、二〇〇・〇〇〇
　　臨時部　二三八、四四〇・〇〇〇
　　合計　九八二、六四〇・〇〇〇

附記　市參事會ハ本案ニ對シテモ、水道歳入出豫算案ニ追記シタルト同一希望條件ヲ追記セリ。

本案ハ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ據リ、養育院豫算案調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、歳出經常部中、各款項目ニ亘リテ減額修正ヲ爲シタルモ、豫備費ヲ增額シ、歳入出總額ハ原案通据置キタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

越エテ五月二十三日附ヲ以テ、市理事者ヨリ左記追加豫算案ノ提出アリタリ。

社會事業費歳入出追加豫算

歳入　四八〇、〇〇〇・〇〇〇円

歳出　臨時部　四八〇、〇〇〇・〇〇〇

說明　本費ハ大正九年度ニ屬スルモノナルモ、第八十號議案（註、市民住宅建設計畫變更ニ關スル件）ニ伴ヒ既定計畫變更ノ上、大正十年度ニ繰越施行スルモノトシ本案ヲ提出ス。

右ハ五月三十日ノ會議ニ於テ、大庭重治君ノ動議ニ據リ、第七十五號議案（註、東京市營住宅貸付規程設定ノ件、本卷第拾貳節第貳項參照）調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、八月四日ノ會議ニ於テ、細目ニ種々修正ヲ加ヘタルモ豫算總額ニハ影響ヲ及ボサシメザリシ旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

次イデ七月二十七日附ヲ以テ、市理事者ハ更ニ左記更正竝ニ追加豫算案ノ提出ヲ爲セリ。

社會事業費歳入出更正竝追加豫算

歳入
- 既定豫算高　二、一三六、〇三一・〇〇〇円
- 更正竝追加豫算高　三、〇二九、七六六・〇〇〇
  - 既定經常部豫算高　七四四、二〇〇・〇〇〇
  - 既定臨時部豫算高　一、三九一、八三一・〇〇〇
  - 合計　二、一三六、〇三一・〇〇〇

歳出
- 更正竝追加經常部豫算高　七〇五、八二四・〇〇〇
- 更正竝追加臨時部豫算高　二、三二三、九四二・〇〇〇
- 合計　三、〇二九、七六六・〇〇〇

説明　物價及勞銀低落ニ伴フ歳出豫算不用額ヲ控除スルト共ニ、借家料、休職給、住宅建設敷地買收費及市債元利金所要不足額ヲ追加シ、且既定社會事業施設ニ職業紹介所及方面委員ノ增設ヲ爲シ、新ニ產院、兒童遊園及公衆食堂ヲ施設スルモノトシ、一豫算更正追加ノ爲本案ヲ提出ス。

右ハ八月四日ノ會議ニ於テ、**早川庄太郎君**ノ動議ニ據リ、第九十八號議案都市計畫事業費歳入出更正竝追加豫算（註、第二回更正豫算）調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、左記ノ意見ヲ附シテ原案ヲ可決スル事トシタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

左記

本案中、歳出臨時部第四款住宅建設費第一項土地買收費ハ、曩ニ本市所有ノ深川區越中島地先第二號埋立地ト交換ノ決議ヲ爲シタル本鄕區眞砂町三十六番地二號、東京帝國大學所屬地ヲ買收セムトスルモノニシテ、其ノ經緯ニ付理事者ノ說明ニ依レバ、其ノ後東京帝國大學ハ交換ニ應セス、更ニ該土地ノ買收ヲ望ムトノ提議アリシヲ以テ、本案ヲ提出スト言フニアリ。仍テ之ヲ承認セルモ、將來ハ本件ノ如ク事件決議ヲ爲シタルモノニ對シテハ、單ニ豫算ヲ以テ其ノ變更ヲ提案セラルヽコトナキヲ望ム。

市理事者ハ、更ニ十二月十二日附ヲ以テ左記追加豫算案ヲ提出シ、市會ハ同月二十一日ノ會議ニ之ヲ上程シタルニ、異議ナク直チニ原案通可決セリ。

社會事業費歳入出追加豫算

歳入　五二、一三二・〇〇〇円

歳出　經常部　五二、一三二・〇〇〇

説明　本市職業紹介所ニ於ケル勞力供給ノ途漸次擴張セラレ、工賃繰替金ノ豫算ニ不足ヲ告クルヲ以テ之カ追加ノ爲本案ヲ提出ス。

養育院歳入出豫算

歳入　一、二二四、三二二・〇〇〇円

歳出　經常部　五六九、五二二・〇〇〇

臨時部　六五四、八〇〇・〇〇〇

合計　一、二二四、三二二・〇〇〇

附記　市參事會ハ本案ニ對シテモ、水道歳入出豫算案ニ追記シタルト同一希望條件ヲ追記セリ。

本案ハ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

長谷川吉次　佐々木藤市郎　岩松兼經　天利庄次郎　矢野鉉吉
鈴木彌吉　細野順恒　菊池武山本茂三郎　小栗富五郎
原田吉兵衞

委員ハ**細野順恒君**ヲ委員長ニ、**長谷川吉次**、**矢野鉉吉**兩君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、委員會ノ報告通可決セリ。

次イデ八月四日ノ會議ニ於テ、市理事者ヨリ左記更正豫算ノ提出アリ、市會ハ**早川庄太郎君**ノ動議ニ據リ、議長指名九名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

坪谷善四郎　松崎英太郎　南　昶　尾中勝也　小久江美代吉
島田藤吉　山本茂三郎　原田吉兵衞　前田兼七

委員ハ**坪谷善四郎君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、八月二十九日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、委員會ノ報告通可決セリ。

養育院歳入出更正豫算

歳入	既定豫算	一、二二四、三二二・〇〇〇円	
	更正豫算	一、二二三、三一三・〇〇〇	
歳出	既定經常部豫算	五六九、五二二・〇〇〇	
	既定臨時部豫算	六五四、八〇〇・〇〇〇	
	合計	一、二二四、三二二・〇〇〇	
	更正經常部豫算	五五二、三四四・〇〇〇	
	更正臨時部豫算	六七〇、九六九・〇〇〇	
	合計	一、二二三、三一三・〇〇〇	

說明　物價及勞銀低落ニ伴フ既定歳出豫算不用額ヲ控除スルト共ニ、醫療上必要ナル「エツキス」光線裝置其他ヲ調辨スルモノトシ、豫算更正ノ爲本案ヲ提出ス。

電氣軌道事業費歳入出豫算

歳入出	原案額	委員會修正額	市會決定額
歳入	六二、五四六、四八三・〇〇〇円	六二、五四〇、三九三・〇〇〇円	委員會報告通
歳出 經常部	二〇、四二六、一一六・〇〇〇	二〇、三九三、七一六・〇〇〇	委員會報告通
歳出 臨時部	四一、四五五、四三五・〇〇〇	四一、四四九、三四五・〇〇〇	委員會報告通
歳出 合計	六一、八八一、五五一・〇〇〇	六一、八四三、〇六一・〇〇〇	委員會報告通
歳入出差引殘金	六六四、九三二・〇〇〇	六九七、三三二・〇〇〇	委員會報告通

電氣供給事業費歳入出豫算

歳入	五、〇五一、二四六・〇〇〇円

歳出　經常部　二、九七二、一〇三・〇〇〇
　　臨時部　二、〇七九、一四三・〇〇〇
　　合計　五、〇五一、二四六・〇〇〇

水力電氣事業費歳入出豫算

歳入　二、四六五、八一〇・〇〇〇円

歳出　二、四六五、八一〇・〇〇〇

電氣事業減債金歳入出豫算

歳入　一四、四五六、九六四・〇〇〇円

歳出　七、二五一、六二八・〇〇〇

歳入出差引殘金七百貳拾萬五千參百參拾六圓

附記　市參事會ハ前記四案ニ對シテモ、水道歳入出豫算案ニ追記シタルト同一希望條件ヲ追記セリ。

右四案ハ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ一括シテ議題ニ供スル事ニ決スルヤ、**小久江美代吉君**ハ理事者ニ問ウテ曰ク、明治四十二年十月十二日附ヲ以テ、東京鐵道株式會社長ト鬼怒川水力電氣株式會社準備組合常務員トノ間ニ行ヒタル契約第二條ニ據レバ、鬼怒川水力電氣株式會社ハ東京鐵道株式會社ニ對シ、一時間一キロワット壹錢七厘ノ割合ヲ以テ、最大動力一萬五千キロワットヲ送電スル事トナリ居リ、送電時間ハ二十四時間ナリ、其後更ニ一萬八千六百五十キロワットヲ送電スベキ追加契約ヲ爲シ、鬼怒川ハ東鐵ニ對シテ一日八十萬キロワットヲ送電セザルベカラザル義務ヲ負ヘリ、然リ而シテ此ノ東鐵ノ權利ハ、本市ガ東鐵ヲ買收シタルト同時ニ本市ニ繼

紹サレタルモノナルガ、鬼怒川水力會社ハ本市ニ對シテ、此ノ契約上ノ義務ヲ履行シ居レリヤ否ヤ、本員ノ聞ク所ニ據レバ、本市ガ電燈、電車、電力其他ニ要スル動力八十萬キロワットハ、之ヲ鬼怒川水力ヨリ供給ヲ受クベキ契約アルニ拘ハラズ、五十萬キロワットノ動力ヲ供給セルノミニテ、鬼怒川水力ハ本市ニ對シ契約上ノ義務ヲ完全ニ履行シ居ラズ、爲メニ本市ハ大正七年度ニ於テ貳拾四萬餘圓、大正八年度ニ於テ八拾壹萬七千圓ノ損害ヲ被リタリト、大正九年度ハ未ダ其金額ヲ聞知セザルモ、大正八年度ト略ミ同額ト見テ大過ナカルベシ、尤モ大正七年度ニ於ケル本市ノ損害ニ就イテハ、鬼怒川水力ハ本市ニ對シ其半額貳萬數千圓ヲ賠償シタルモ、大正八年度ニ於ケル損失額ニ就イテハ、本市ハ未ダ何等辨償ヲ受ケ居ラザルナリ、元來大正七年度ノ冬期、火力發電所ヲ有スル本市ハ其筋ノ命ニ據リテ、火力發電ヲ爲シタルモノナルガ、縱ヒ渴水期ト雖モ鬼怒川水力會社ガ契約上ノ義務ヲ完全ニ履行シ得バ、本市ガ其筋ヨリ火力發電ノ義務ヲ命ゼラルヽ筈ナク、要スルニ送電義務者ガ完全ニ自己ノ義務ヲ履行セザリシ爲メニ、一般電氣事業界ニ支障ヲ生ジ、其結果火力發電所ヲ有スル本市ガ其筋ヨリ火力發電ヲ爲スベキ命令ヲ受クル事トナリタルモノナルヲ以テ、水力電氣會社ハ本市ニ對シ、本市ノ被リタル損害金ノ全額ハ當然賠償セザルベカラズ、然ルニ纔ニ其半額ヲ辨償シタルニ過ギザルハ、甚ダ當ヲ得ザル措置ナリト思惟ス、然レドモ本員ハ既往ヲ咎メント欲スルモノニアラズ、只本員ガ敢テ問ハント欲スルハ、大正七年度ノ賠償金ヲ受クル際、將來ノ損害賠償ニ就イテモ契約ヲ爲シタリヤ否ヤ、而シテ大正八年度以降ノ損害ニ就イテハ、市當局ハ如何ナル措置ヲ爲サント欲スル意嚮ナリヤトノ二點ニ在リ、是レ本員ノ質問ノ第一ナリ、第二ハ、當市會ヨリ提出シタル水力電氣自給ニ關スル建議ニ基キ、市當局ハ多摩川上流ニ發電所設置ノ計畫ヲ爲シテ其筋ニ出願シタリト聞ク、然ルニ爾來幾多ノ歳月ヲ經居レルニ拘ハラズ、本件ニ關シテ何等聞ク所ナシ、右ハ今日如何ナル程度ニマデ進行シ居レリヤ、元來市當局ノ計畫セル多摩川水力ノ發電能力

ハ、本市ノ電力需要總數ノ僅ニ一割内外ニ過ギズ、當市會ガ曩ニ市理事者ニ向テ爲シタル建議ノ趣旨ハ、斯ル小規模ノモノニアラズシテ、本市ニ要スル電力ノ全部ヲ自給セント欲スルニ在リ、市當局ハ他ニ適當ナル發電所設置ニ就キ調査研究ヲ爲シタリヤ如何、第三、本年ノ豫算案中ニモ、電車事業改良計畫ニ就イテノ費目ヲ掲ゲ居レルガ、電氣局長ハ如何ナル方針ニテ電車事業ノ改善ヲ爲サント欲スルヤ、最近少數ノ新ボギー車ハ出來シ、乘換券ノ改正アリ、運轉系統ニモ多少ノ變更ヲ見タリト雖モ、此ハ周圍ノ事情ニ因リ餘儀ナクサレタル改良ニシテ、電氣局ガ自發的ニ爲シタル改良ニアラズ、殊ニ昨年六月乘車賃ノ値上ヲ爲シ、以テ乘客ノ利便ヲ圖ルベシト公約セルニ拘ハラズ、今日尚ホ成績ノ何等見ルベキモノナキハ遺憾ナリ、電氣局長ハ曾テ電氣局ノ組織擴大ヲ要スト稱シ、總務課以下約十課ヲ增設シ、職員ヲ增加センコトヲ要求セリ、市會ハ局長ノ此ノ要求ヲ理由アリト認メ、之レニ同意シタリ、然ルニ豫算成立後既ニ約三ケ年ヲ經過シタルニ拘ハラズ、二課長ノ任命ヲ見タル以外、事務員及ビ雇員ハ從前ニ比シテ增員シタリト言フト雖モ、要スルニ某々吏員ヲ昇格又ハ增俸セシメタルニ過ギズシテ、局長ノ聲明シタル新陣容亦毫モ看ルベキモノナク、本市電氣事業ノ將來ハ懸念ノ至リニ堪ヘズ、尚ホ最後ニ敢テ問フ、電氣局事業ノ遲々トシテ進マザルハ何故ナリヤ、大正九年度ノ事業トシテ參千壹百萬圓ノ豫算ヲ要求セルニ拘ハラズ、大正九年度モ剩ス所僅ニ三箇月ニ過ギザル同年十二月現在ニ於テ、七百數萬圓ノ工程ヲ進メタルニ過ギズ、九箇月間ニ僅々七百數萬圓ノ工程ヲ進メタルニ過ギズシテ、殘餘ノ三箇月間ニ於テ、貳千數百萬圓ノ事業ヲ遂行シ得ベシトハ到底考ヘラレズ、斯テハ市民ノ信賴ニ戻ルモ亦甚ダシト云ハザルベカラズ、以上ノ諸點ニ就キ局長ヨリ明確ナル答辯アランコトヲ望ムト。電氣局長井上敬次郎君答ヘテ曰ク、本市ト鬼怒川水力トノ送電契約ハ、三萬六七千キロワット時ナルモ、六バーセントナルヲ以テ、約四十六萬キロワットナリ、然リ而シテ會社ハ、一昨年マデハ契約通リ四十六萬キロワット昨々年來世界的ニ物價ハ騰貴シ、本邦モ其影響ヲ免ルヽ能ハズシテ、石炭、人件費、其他總テノ物價ハ暴騰シ、爲メニ會社ハ四十五六萬キロノ送電ハ不可能トナリタルモノヽ如シ、仍テ會社ハ他ヨリ電力ヲ購入シテ、之ヲ本市ニ供給スル事ト爲シタルガ、其結果、會社ハ他ヨリ高價ナル電力ヲ購入シテ、之ヲ低廉ニ本市ニ供給セザルベカラザル事トナレリ、然レドモ會社ハ、初メ其差金ハ會社ニテ負擔シ、或ル程度ノ損失ハ忍ブベシトノ事ナリキ、然ルニ其損失數拾萬圓ノ鉅額ヲ算スルニ至ルヤ、昨年ニ至リ鬼怒川水力會社ハ東京市ニ對シ、一萬五千キロワットノ電力ハ契約上必ズ供給セザルベカラザルモ、其レ以上ノ電力ヲ供給スベキ義務ナシトテ、契約書ノ解釋ニ關スル辯護士ノ鑑定書ヲ添附シテ電氣局ヘ申越セリ、契約書ノ解釋ニ關シテハ、當職等ハ會社側ト見解ヲ異ニセルヲ以テ、電氣局ハ電氣局トシテ別ニ辯護士ノ鑑定ヲ求メタルニ、電氣局ノ依賴シタル辯護士ハ當職等ト同一解釋ヲ爲セリ、兩者斯ク其見解ヲ異ニシ、金額ハ數拾萬圓ノ上ルモノナルヲ以テ、結局ハ訴訟沙汰トナルベク、其結末ハ裁判ノ結果ニ待タザルベカラズト思惟ス、兎ニ角電氣局トシテハ、電力ハ一日モ缺クベカラザルヲ以テ、一キロワット壹錢七厘ノ割合ハ從前通リトシ、補充電力ハ實費ヲ支拂フ事ニ會社側ト談合シタリ、斯テ大正七年度ニ本市ノ被リタル損害金ノ半額拾貳萬數千圓ノ賠償ヲ受ケタルナリ、大正八年度ニ於ケル五拾參萬圓ノ損害ニ就イテハ、今日尚ホ壹錢壹厘ノ賠償ヲモ受ケザルガ、東京市ヨリ會社ニ支拂フベキモノニシテ、未ダ支拂ハザル金額貳拾四五萬圓アリ、是等ハ訴訟等ノ結果ヲ俟ッテ解決セント欲ス、多摩川上流ニ發電所設置ノ件ニ就キテハ、過般市會ノ議決ヲ經テ主務省ニ出願シタルガ、同所ニハ四五ノ共願者アルノミナラズ、本市ノ出願以前ニ既ニ出願シタル者モアリテ、目下監督官廳ニ於テ調査中ナリトノ事ナルヲ以テ、其結果如何ハ今日明言スル能ハザルヲ遺憾トス、同所以外ノ方面ニ就キテノ調査モ行ヒタルガ、遠隔ノ地以外ニハ適當ナル場所ヲ發見スル能ハザリキ、電車事業ノ改善

ニ就キテハ、臨時軌道調査委員タル小久江氏ニハ委員會ノ席上ニ於テ、當務者ヨリ說明モシ、質問ニモ答ヘ置キタル筈ナルガ、運輸交通ノ根本的改善策トシテハ、高架線、地下線等ヲ新設スル以外、今日ノ地上線ニテハ如何トモ爲ス能ハズ、然レドモ能フ限リノ改善ヲ爲スベク、全局員ハ渾身ノ努力ヲ爲シ居レリ、局內部ノ陣容ニ就イテハ、今暫ク日時ヲ藉サレンコトヲ望ムト。**小久江君**ハ更ニ、本員ノ質問ノ第一中、大正七年度ノ損害ニ對シ會社ヨリ賠償ヲ受クル際、將來ノ約束ヲ爲シタリヤ否ヤニ就キテハ答辯ナカリキ、此ノ點如何、更ニ現在一萬五千キロワット以上ノ供給ヲ受ケタル場合、其超過電力ニ就キ、本市ハ會社ニ對シテ料金ノ前拂ヲ爲シ居レルモノナリヤ否ヤ、此ノ點ニ就イテモ明答アランコトヲ望ム、尙ホ電氣局ノ事業ハ厖大ニシテ、業務繁多ナルニ拘ハラズ、人員之レニ伴ハズ、爲メニ業績ヲ擧グル能ハザルナリトハ、從來數々局長ノ唱フル所ナリキ、仍テ市會ハ局長ノ要求ヲ承認シ、從來四課ナリシ電氣局ノ組織ヲ十二課ニ擴張スル事ト爲シタルニ、爾來局長ハ電力ト會計トノ兩課長ヲ任命セザルハ、業績ヲ擧グル能ハザル申譯トハ矛盾スルニアラズヤ、局長ノ所見如何ト質シ。**井上局長**、一昨年九月鬼怒川水力會社ヨリ本市ニ對シ、十年以後ノ契約方ニ就キテ申出デアリ、目下之レガ審議中ナルヲ以テ、補充電力問題モ本問題ト同時ニ解決サルベキモノト考フ、超過電力ニ就イテハ、使用後水力ト火力トノ實費計算ヲ爲シタル上支拂ヒ居レリ、尙ホ人物登庸ノ件ナルガ、課長級ノ人選ハ甚ダ困難ナルヲ以テ、今暫ク猶豫アランコトヲ望ムト答ヘ。**佐々木藤市郎君**ヨリ、四案ヲ一括シテ、議長指名十三名ノ委員ニ調査ヲ付託スベシトノ動議提出アリ、異議ナク佐々木君ノ動議成立シテ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

兼藤良三郎　田村彰一　南　甲
早川庄太郎　矢野鉉吉　眞下五郎　近藤達兒
野々山幸吉　羽田如雲　原田吉兵衞
尾中勝也　作間耕逸　河井榮三郎

委員ハ**早川庄太郎君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、電氣軌道事業費歲入出豫算經常部第二款運輸費中、燃料費貳拾貳萬七百貳拾五圓ヲ拾八萬八千參百貳拾五圓ニ、臨時部第二款補修費中、建物補修費拾貳萬貳千百八拾貳圓ヲ拾壹萬六千九拾貳圓ニ減額シテ、歲入出總額ヲ前表ノ如ク修正シ、電氣供給事業費歲入出豫算ハ、經常部第二款供給費中、燃料費五百圓ヲ減額シタルモ、豫備費ヲ增額シテ歲入出總額ヲ動カサズ、他ノ二案ハ原案通リ可決シタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

越エテ七月二十七日附ヲ以テ市理事者ハ左記更正豫算案ヲ提出セリ。

電氣軌道事業費歲入出更正豫算

歲入	既定豫算高	六七、九三一、四八〇・〇〇〇	円
	更正豫算高	六七、八〇九、九六九・〇〇〇	
歲出	既定經常部豫算高	二〇、三九三、七一六・〇〇〇	
	既定臨時部豫算高	四六、七九七、〇三二・〇〇〇	
	合計	六七、一九〇、七四八・〇〇〇	
	更正經常部豫算高	二〇、三八六、〇九六・〇〇〇	
	更正臨時部豫算高	四六、七九五、五七〇・〇〇〇	
	合計	六七、一八一、六六六・〇〇〇	

右ハ八月四日ノ會議ニ於テ、**早川庄太郎君**ノ動議ニ據リ、第九十八號議案都市計畫事業費歲入出更正竝追加豫算（註

第二回更正豫算）調査委員ニ併託、委員ハ審査ノ末、同月二十九日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

次イデ十月二十四日附ヲ以テ、市理事者ヨリ更ニ左記追加豫算案ノ提出アリタリ。

電氣軌道事業費歳入出追加豫算

歳入		
歳出	經常部	九五五、四四四・〇〇〇円
	臨時部	四、七〇〇・〇〇〇
	合計	八六一、五五四・〇〇〇
歳入出差引不足金		八六六、二五四・〇〇〇

右不足ニ對スル歳入ハ既定豫算收支殘金ノ內ヲ以テ充當

説明　本案ハ左記理由ニ依リ資源ヲ關係收入ニ需メ、豫算追加ノ爲之ヲ提出ス。

歳出經・常部

第一款　事務費諸費ハ廣告件數ヲ增加シタル爲、廣告料金ニ不足ヲ告クルヲ以テ豫算追加ヲ要スルニ因ル。

臨時費

第四款　雜支出

（イ）電氣事業減債金經濟繰入額ノ計上ハ、本年五月第二回短期債募債ノ結果、手取差額積立年割額ニ異動ヲ生シ、不足額ニ對シ繰入ヲ要スルト、貯藏品及工場勘定ニ於テ一時減債金經濟ヨリ運用シタル資金ニ對シ、利子ヲ附スル必要アルト

ニ因ル。

（ロ）調査費ヲ新ニ計上シタルハ、從業員神經系統及能率調査事務開始ノ爲諸般ノ設備ヲ要スルト、亞炭ヲ燃料トシテ技術上相當利用シ得ルニ於テハ、經濟上ノ效用ヲ多カラシムルモノアルヲ以テ、燃燒試驗ヲ爲スモノトシ、所要經費ヲ計上セリ。

（ハ）減損補塡金繰入ハ、從前繰替使用シタル未成線事業建設資金借入金ノ償還ニ充ツル爲之ヲ計上セリ。

（ニ）電氣軌道事業準備積立金ヲ計上セルハ、大正十年第六十三號市會議決ニ基ク財產賣拂代收入金ノ積立ヲ要スルニ因ル。

右ハ十月二十八日ノ會議ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

兼藤良三郎　長町康夫　橋本直一　秋山朗　村林榮助
鈴木彌吉　細野順　菊池武恒　加藤照一　堀內伊太郎
長坂賴幸

委員ハ**細野順君**ヲ**委員長**ニ推シ、審査ノ末、十一月十九日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

尙ホ電氣供給事業費歳入出豫算ニ就イテモ、市理事者ハ十月二十四日附ヲ以テ、左記更正竝ニ追加豫算案ノ提出ヲ爲セリ。

電氣供給事業費歳入出更正竝追加豫算

歳入　既定豫算高　五、〇五九、二四六・〇〇〇円
　　更正竝追加豫算高　六、八八二、九二三・〇〇〇
歳出　既定經常部豫算高　二、九八〇、一〇三・〇〇〇
　　既定臨時部豫算高　二、〇七九、一四三・〇〇〇
　　合計　五、〇五九、二四六・〇〇〇
　　更正竝追加經常部豫算高　三、一〇三、〇七六・〇〇〇
　　更正竝追加臨時部豫算高　二、七八一、七五七・〇〇〇
　　合計　五、八八四、八三三・〇〇〇

歳入出差引殘金九拾九萬八千九拾圓

右八十月二十八日ノ會議ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ據リ、前項ノ電氣軌道事業費歳入出追加豫算調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員八審査ノ末、十一月十九日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

越エテ十二月十七日、市理事者ヨリ更ニ左記追加豫算案ヲ提出アリ、市會ハ十二月二十一日ノ會議ニ上程原案通可決セリ。

電氣供給事業費歳入出追加豫算

歳入　經常部　三五六、八三五・〇〇〇円
歳出　經常部　一八一、五九三・〇〇〇
　　臨時部　二九〇、七九三・〇〇〇

一合計　四七二、三八六・〇〇〇

歳入出差引不足金拾壹萬五千五百五拾壹圓

右不足金ハ本年度收支殘金ノ內ヲ以テ充當

說明　本案ハ左記理由ニ依リ豫算追加ノ爲、資源ヲ關係收入、電氣使用料ノ自然增收及本年度收支殘金ニ需メ之ヲ提出ス。

一、供給費　電燈實點箇數增加ニ伴ヒ、電球取替費、試驗所費及電力料等ニ不足ヲ告ケ、且江戸川及品川變電所開始ニ伴フ經費ヲ要スルニ因ル。

二、維持費　變電所及建物ノ修繕件數ヲ增加シタルニ因ル。

三、雜支出　防護移轉及受託工事件數ヲ增加シ、變電所設備、機械器具借受料ノ支出及電氣使用料過年度過誤納金ノ拂戻ヲ要スルニ因ル。

四、平和記念博覽會供給設備費　平和記念博覽會ニ對シ電氣ノ供給ヲ爲スモノトシ、之カ設備其ノ他ノ經費ヲ要スルニ因ル。

第貳節　課稅率決定ノ件

第二十五號

課稅率決定ノ件　（右肩ノ○印ハ委員會ニテ修正　左側ノ｜印ハ同會ニテ削除）

大正十年度分市稅課稅率左ノ通決定スルモノトス

附加稅

大正年間　第參章　大正十年　第貳節　課稅率決定ノ件

地租附加稅	宅地	本稅 百分ノ二十八
	其他ノ土地	同 百分ノ六十六
國稅營業稅附加稅		同 百分ノ三十九・五
所得稅附加稅		同 百分ノ十五・六
鑛業稅附加稅		同 百分ノ十
賣藥營業稅附加稅		同 百分ノ五
取引所營業稅附加稅		同 百分ノ十
府稅營業稅附加稅		同 百分ノ百四十
雜種稅附加稅		別表ノ通
特別稅		
不動產取得稅		物價時價 百分ノ一
戶別割		建物一坪ニ付四十錢
特別消費稅		消費金額 百分ノ四
都市計畫特別稅		
地租割		本稅 百分ノ十二・五
國稅營業稅割		同 百分ノ十三・五

（別表）

雜種稅附加稅

一、自用馬車		本稅 百分ノ百七十一
一、營業馬車		同 百分ノ二百十八
一、荷積牛馬車		同 百分ノ百七十一
一、自用人力車	二人乘	同 百分ノ百八十六
	一人乘	同 百分ノ百九十三
一、荷積大車		同 百分ノ百九十七
一、荷積小車		同 百分ノ二百六
一、自轉車		同 百分ノ百七十五
一、自動自轉車		同 百分ノ百八十三
一、自動車	二十馬力以上	同 百分ノ百八十一
	十五馬力以上二十馬力未滿	同 百分ノ百八十五
	十馬力以上十五馬力未滿	同 百分ノ百八十九
	五馬力以上十馬力未滿	同 百分ノ百九十
	五馬力未滿	同 百分ノ百九十四

大正年間 第參章 大正十年 第貳節 課稅率決定ノ件

一、蒸汽船、西洋形機械船及同客船（河川ヲ航行スルモノニシテ乘客定員四十人以上ノ客船及其曳船以上ニ該當セサル船　同

一、西洋形風帆船及其他ノ西洋形船　同

一、其他　同

本案ハ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ據リ、普通會計ニ屬スル豫算案調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、同月二十七日ノ會議ニ於テ、國稅營業稅割ヲ前表ノ如ク修正シ、他ハ原案通可決スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

越エテ七月二十七日附ヲ以テ、市理事者ヨリ左記議案ノ提出アリタリ。

課稅率決定竝變更及市稅徵收方法ニ關スル件　（右側ノ○印ハ委員會修正左側ノ——印ハ同會削除）

第百十二號

大正十年度分市稅課率左ノ通決定竝變更スルモノトシ、之ニ關シ特ニ納期ノ定ヲ要スル場合ハ市參事會ノ議決ニ依ルモノトス

稅目	既定課率	變更課率
附加稅	國稅營業稅附加稅	本稅百分ノ三十九・五
特別稅	特別消費稅	消費金額百分ノ四

百分ノ二百十六
百分ノ百七十八
百分ノ百八十
百分ノ百四十

		後半期
		本稅百分ノ四十七
	九月以降	九・〇°
	八月以降	五・五°

都市計畫特別稅

國稅營業稅割	營業稅	本稅百分ノ十三
	雜種稅	——

說明　本年第七十六號（註、都市計畫事業費第一回歲入出追加豫算）市會議決竝第九十八號（註、都市計畫事業費第二回歲入出更正竝追加豫算）及第百十一號議案（註、普通會計ニ屬スル歲入出更正豫算）ニ伴フ課稅率變更ノ爲及特別納期ヲ便宜市參事會ノ議定ニ依リ設定スル爲本案ヲ提出ス。

本稅百分ノ十六・三
府稅十分ノ四
府稅十分ノ四

右ハ八月四日ノ會議ニ上程、早川庄太郎君ノ動議ニ據リ、普通會計ニ屬スル歲入出更正豫算案調査委員ニ併託、委員ハ審査ノ末、同月二十九日ノ會議ニ於テ、前表記載ノ如ク修正シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第參節　育英事業

▽市立小學校完成資金交付ニ關スル議決變更ノ件　二月九日ノ會議ニ於テ、左記議案ヲ上程、異議ナク原案通可決セリ。

第五號

市立小學校完成資金交付ニ關スル議決變更ノ件

大正七年第六十一號市參事會議決市立小學校完成資金交付ニ關スル件中、第一項ヲ左ノ通改メ、第三項ヲ削除スルモノトス。

一、本市ハ市立小學校建設費ニ對シ市立小學校建設費補給規程ニ依ルノ外已ムヲ得サル事情アル場合ニ於テハ區

ノ申出ニ依リ完成資金ノ交付ヲ爲スコトヲ得

說明　完成資金ハ從來校地ニ關シテハ之ヲ交付セサル規定ナリシカ、市立小學校建設費經理資金ノ關係上校地ノ取得ヲ急トスル事情アルモ、區ニ對シ補給金概算拂ヲナス能ハサル場合アリテ建設事業ノ遷延ヲ來ス虞ナキニアラス。故ニ補給金概算拂ニ代ヘテ完成資金ノ交付ニ依リ其取得ノ機會ヲ逸セサラシメムトシ、關係條項改正ノ爲本案ヲ提出ス

▽市立小學校位置變更ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件外一件　二月二十七日ノ會議ニ於テ、左記兩議案上程、是レ亦異議ナク何レモ直チニ原案通可決セリ。

第四十九號

市立尋常小學校位置變更ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件

本市鞆繪尋常小學校ノ位置變更ニ關シ、東京府知事ヨリ別紙ノ通諮問アリタルヲ以テ同意ノ旨答申スルモノトス

說明　芝區鞆繪尋常小學校ハ其規模狹小ニシテ、現ニ兒童ノ收容充分ナラス、加之學齡兒童ハ逐年增加ノ傾向アルヲ以テ擴張ノ餘地ナキカ故ニ、其位置ヲ變更シ所要ノ擴張ヲナス必要アルヲ以テ同意ノ旨答申スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（別　紙）

酉學甲第一、一五七號

東京市

東京市鞆繪尋常小學校ノ位置ヲ左ノ通リ變更セントス、仍テ其ノ市ノ意見ヲ問フ

記

一、位　置　東京市芝區西久保巴町三十番地

大正十年二月二十三日

東京府知事　阿　部　浩

第四十九號

市立尋常小學校數位置竝費用負擔ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件

市立尋常小學校數位置竝費用負擔ニ關シ、東京府知事ヨリ別紙ノ諮問アリタルニ依リ同意ノ旨答申スルモノトス

說明　東京府知事ヨリ指定セラレタル小石川區內ノ尋常小學校八校ハ、既ニ共設置ヲ完了セルモ、學齡兒童增加ノ趨勢ニ鑑ミ更ニ增設ノ必要アリ、且其費用ハ同區ノ負擔トスルヲ適當ト認ムルヲ以テ、同意ノ旨答申スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（別　紙）

酉學甲第一、一五六號

東京市

一、尋常小學校一校增設

二、位　置　東京市小石川區駕籠町四十一番地ノ一部

三、設置及維持ニ關スル費用負擔、小石川區ニ於テ負擔スルモノトス

右諮問ス

大正十年二月二十三日

東京府知事　阿　部　浩

▽市立小學校分教場增設ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件　五月三十日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、是

レ亦異議ナク原案通可決セリ。

第八十三號

市立尋常小學校分教場增設ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件

市立尋常小學校分教場增設ニ關シ、東京府知事ヨリ別紙ノ通諮問アリタルニ依リ、同意ノ旨答申スルモノトス。

說明　四谷區旭町附近ハ概シテ細民ノ居住地域ニシテ、右學齡兒童收容上直營鮫橋尋常小學校分教場設置ノ要アル際ナルヲ以テ同意ノ旨答申スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（別　紙）

酉學甲第四〇七九號

一、尋常小學校分教場增設

一、位　置　東京市四谷區旭町五十六番地及同五十八番地ノ一部

一、設置及維持ニ關スル費用ハ東京市ニ於テ負擔スルモノトス

右諮問ス

大正十年五月十六日

東京府知事　阿部浩

東京市

▽學校建築費繼續年期及支出方法

第百二號

一金參拾貳萬四千貳百九圓　自大正十年度至大正十一年度　東京市學校建築費繼續年期及支出方法

內譯

金八萬貳千八百參拾壹圓　大正十年度支出額

金貳拾四萬千參百七拾八圓　大正十一年度支出額

大正八年三月二十九日燒失セル猿江尋常小學校ノ復舊ヲ爲スモノトシ、二箇年繼續事業トシテ本費ヲ計上セリ。

（支出計算表略ス）

本案ハ八月四日ノ會議ニ於テ、**早川庄太郎君**ノ動議ニ據リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

兼藤良三郎　島田藤吉　西川嘉門　成島菊次良　佐々木藤市郎

細野順　吉川忠志　堀內伊太郎　塚原寅次郎　本宮辰次郎

松崎英太郎

委員ハ**細野順君**ヲ委員長ニ、**兼藤良三郎**、**松崎英太郎**、**吉川忠志**ノ三君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、同月二十九日ノ會議ニ於テ、左記希望條件ヲ附シテ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

左　記

一、現行市立小學校建設費補給規程ハ、木造建設ニ據ルモノヲ基準トシテ設定セラレタルモノヽ如キモ、今ヤ時代ノ進運ニ伴ヒ、本案ノ如ク鐵筋混凝土其他不燃質物ノ構造ニ依ル校舍ノ建設セラレントスル今日ニ於テハ、

其補給標準ノ實際ニ副ハサルモノアリ、仍テ速ニ該規程ノ改正ヲ講セラレムコトヲ望ム。

▽市立小學校數位置竝費用負擔ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件　八月四日ノ會議ニ於テ、左記議案上程異議ナク原案通可決セリ。

第百十九號

市立尋常小學校數位置竝費用負擔ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件

說明　東京府知事ヨリ指定セラレタル本所區內ノ尋常小學校九校ハ、既ニ其ノ設置ヲ完了セルモ、學齡兒童增加ノ趨勢ニ鑑ミ更ニ增設ノ必要アリ、且其ノ費用ハ同區ノ負擔トスルヲ適當ト認ムルヲ以テ、同意ノ旨答申スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（別　紙）

酉學甲第六八四九號

一、尋常小學校一校增設

一、位　置　東京市本所區柳島元町二十五番地乃至三十一番地、三十二番地乃至三十六番地ノ一部、四十番地乃至四十三番地

一、設置及維持ニ關スル費用ハ本所區ニ於テ負擔スルモノトス

右諮問ス

大正十年七月二十日

東京府知事　宇佐美勝夫

東京市

▽市立小學校數位置及費用負擔ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件外一件　九月二十四日ノ會議ニ於テ、左記兩議案上程、異議ナク是レ亦原案通可決セリ。

第百二十二號

市立尋常小學校數位置及費用負擔ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件

市立尋常小學校增設ニ關シ東京府知事ヨリ別紙ノ通諮問アリタルニ依リ、同意ノ旨答申スルモノトス

說明　東京府知事ヨリ指定セラレタル牛込區內ノ尋常小學校九校ハ、既ニ共設置ヲ完了セルモ、學齡兒童增加ノ趨勢ニ鑑ミ更ニ增設ノ必要アリ、且其ノ費用ハ同區ノ負擔トスルヲ適當ト認ムルヲ以テ、同意ノ旨答申スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（別　紙）

酉學甲第七、四二六號

一、尋常小學校一校增設

一、位　置　東京市牛込區鶴巻町四十番地

一、設置及維持ニ關スル費用ハ牛込區ニ於テ負擔スルモノトス

右諮問ス

大正十年八月二十六日

東京府知事　宇佐美勝夫

東京市

第百二十四號

市立尋常小學校位置指定ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ對シ答申ノ件

市立尋常小學校位置ニ關シ東京府知事ヨリ別紙ノ通諮問アリタルニ依リ、同意ノ旨答申スルモノトス。

說明　明治三十二年東京府知事ヨリ淺草區ノ負擔ヲ以テ增設スヘキ尋常小學校十七校ヲ指定セラレ、爾來十一校ヲ建設セリ。今般諮問セラレタルハ、未設ノ中一校ノ設置ヲ指定セムトスルモノニシテ、適當ト認ムルヲ以テ同意ノ旨答申スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（別紙）

酉學甲第七、五六〇號

東京市淺草區ニ設置スヘキ尋常小學校一校ノ位置ヲ左ノ通定メントス

記

一、東京市淺草區田中町八十八番地三號、八十九番地二號

右諮問ス

大正十年九月七日

東京府知事　宇佐美勝夫

第四節　墓地ト公園

▽多磨墓地新設費豫算

第七號

自大正九年度
至大正十年度　東京市都市計畫事業繼續年期及支出方法

一金百四拾四萬四百六圓

內譯

金四拾參萬七千八百七拾五圓　大正九年度支出額

金百萬貳千五百參拾壹圓　大正十年度支出額

本件ハ東京都市計畫事業北多摩郡多磨村及小金井村內多磨墓地新設計畫及二箇年繼續施行ノ件、大正九年十二月十四日內閣ノ認可アリタルヲ以テ、之ヲ實施スルモノトシ本費ヲ計上セリ。

（支出計算表略ス）

市參事會審查意見

大正十年二月二日市參事會ハ左ノ通修正スヘキモノトシ同意セリ

修正事項　第二項用地費第一目敷地買收ノ單位、四圓〇三三ハ高價ニ失スルモノト認ムルニ依リ、之ヲ三圓〇三三ニ低下スルコト

本案ハ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ依リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

坪谷善四郎　竹下延保　南　甩　佐々木藤市郎　野々山幸吉

川上賢三　堀内伊太郎　塚原寅次郎　本宮辰次郎　糸川正鐵
前田兼七

委員ハ竹下延保君ヲ委員長ニ、南甲、川上賢三ノ兩君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、敷地買收費ハ市參事會ノ意見通リ減額シ、豫算總額ヲ左ノ如ク修正スル事ニ議決シタル旨、同月二十七日ノ會議ニ報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

自大正九年度至大正十年度東京市都市計畫事業費繼續年期及支出方法

一金百拾五萬六千五拾四圓

内譯

金參拾四萬七千八百七拾五圓　多磨墓地新設費
金八拾萬八千百七拾九圓　大正九年度支出額
　大正十年度支出額

▽多磨墓地設備費豫算

第九號

自大正九年度至大正十年度東京市多磨墓地設備費繼續年期及支出方法

一金拾八萬貳千四百五拾圓

内譯

金壹萬七千四百四拾參圓　多磨墓地設備費
金拾六萬五千七圓　大正九年度支出額
　大正十年度支出額

本件ハ東京都市計畫事業北多摩郡多磨村及小金井村内多磨共葬墓地設置ニ付、之ヲ施設經營スルモノトシ、二箇年繼續事業トシテ本費ヲ計上セリ。

（支出計算表略ス）

本案ハ二月九日ノ會議ニ於テ、普通會計ニ屬スル豫算調査委員ニ併託、委員ハ審査ノ末、同月二十七日ノ會議ニ於テ原案ヲ可決スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

▽共葬墓地使用規則中改正

第七十九號

東京市共葬墓地使用規則中改正條例ニ關スル件　（右側ノ○印ハ委員會ニテ加入）

東京市共葬墓地使用規則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ヲ左ノ如ク改ム

墓地使用料ハ左ノ等級ニ依リ使用許可ノ際一時ニ之ヲ徵收ス

一等地　一坪ニ付　金四拾圓
二等地　同　金貳拾圓
三等地　同　金拾圓
四等地　同　金五圓

青山、谷中墓地ニ在リテハ前項使用料ノ倍額トス

第四條　削除

大正年間　第參章　大正十年　第四節　墓地ト公園

第五條　但書中「其使用料ハ第四條ニ依ル」ヲ削ル

第十條ヲ左ノ如ク改ム

墓地ノ返納ヲ許可シタルトキハ第三條ニ依ル使用料ノ半額ヲ交付ス

附則第十一條第一項削除

説明　現行墓地使用料ハ明治三十三年ノ改正ニ係リ低廉ニ失スルモノアルヲ以テ、之カ使用料ヲ增額シ、同時ニ使用地ノ返納ヲ爲シタル者ニ對スル交付金ヲ增額シ、墓地ノ不足ヲ緩和スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（參　照）

東京市共葬墓地使用規則

第一條　墓地ノ使用ハ戸主ヨリ出願スヘシ但戸主死亡シタル場合ニ於テハ其遺族若クハ緣故アル戸主ヨリ出願スルコトヲ得

第二條　戸主ニ非サル寄留人若ハ止宿人死亡シタルトキハ緣故アル戸主ヨリ出願スヘシ

第三條　墓地使用料ハ左ノ等級及坪數ニ應シ各墓地限リ使用許可ノ際一時ニ之ヲ徵收スヘシ

墓地使用料

使用坪數	一等地	二等地	三等地	四等地
一坪以下　一坪ニ付	六圓	參圓	壹圓五拾錢	六拾錢
二坪以下　同	九圓	五圓	貳圓五拾錢	―
三坪以下　同	拾貳圓	七圓	參圓五拾錢	―
四坪以下　同	拾五圓	九圓	四圓五拾錢	―
五坪以下　同	拾八圓	拾壹圓	―	―
六坪以下　同	貳拾參圓	拾參圓	―	―
七坪以下　同	貳拾六圓	拾五圓	―	―
八坪以下　同	貳拾九圓	拾七圓	―	―
九坪以下　同	參拾貳圓	―	―	―
十坪以下　同	參拾五圓	―	―	―
十一坪以下　同	參拾九圓	―	―	―
十二坪以下　同	四拾貳圓	―	―	―
十三坪以下　同	四拾五圓	―	―	―
十四坪以下　同	四拾八圓	―	―	―
十五坪以下　同	五拾壹圓	―	―	―
十六坪以下　同	五拾四圓	―	―	―

右ノ外一坪ヲ增ス每ニ、一等地ハ金參圓、二等地ハ金貳圓、三等地ハ金壹圓ヲ遞加ス

第四條　增坪使用ヲ請求スルモノアルトキハ前後ノ坪數ヲ通算シ第三條ノ率ヲ乘シ既納金額ヲ控除シタルモノヲ以テ增坪ノ使用料ヲ徵收ス但前後ノ等級同シカラサルモノハ其上級ノ乘率ニ依ル

第五條　墓地使用坪數ハ左ノ制限內ニ於テ一區畫ヲ限リ許可スルモノトス

一　等　地　　二坪以上十六坪

二　等　地　　一坪以上八坪

三　等　地　　半坪以上四坪

四　等　地　　四半坪以上一坪

但シ制限外增坪ノ必要ヲ生シ事實不得已ト認ムルモノハ他ノ區域ニ於テ更ニ本條ノ坪數ヲ限リ許可スルコトアルヘシ其使用料ハ第四條ニ依ル

第六條　土地ヲ使用セント欲スルモノハ第七條ニ依リ其場所ヲ選定シ願書ニ該墓地管理者ノ證印ヲ受ケ墓地所轄區長ノ許可ヲ受クヘシ

本條ノ許可ヲ得タルモノハ墓地使用劵ヲ受取リ之ヲ該管理者ニ示シ其ノ區域境界ヲ經營スヘシ

第七條　墓地ノ位置選定ハ使用者ノ望ミニ應スヘシト雖モ每區域ニ於テ其一端ヨリ又既ニ使用ヲ許可シタル場合アルトキハ其接續ノ場所ヨリ順次使用ヲ許可スルモノトス但其坪數ニ依リ殘地ノ區畫ヲ算シ不整理ニ至ルト認ムルトキハ之ヲ加除スルニ非サレハ許可セサルヘシ

第八條　前條ニ依リ許可シタルモノト雖モ一年以上各自其區畫ニ圍障ヲ設置セサルモノハ之ヲ他人ニ使用許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ更ニ換地ヲ與ヘ若クハ使用料ヲ還付スルモノトス但既ニ死屍遺骨ヲ埋葬シタルモノハ此限リアラス

第九條　墓地使用者ハ家督相續人ヲ除クノ外其使用權ヲ他人ニ移轉スルコトヲ許サス又埋葬セサル一部若クハ其全部不用ニ屬シタルトキハ管理人ノ證印ヲ受ケ區長ニ願出テ之ヲ返納スヘシ但其一部ヲ返納セントスルモ第五條ノ制限最下以下ノ坪數若クハ區畫ヲ素ト認ムルモノハ許可スルノ限リニ非ス

第十條　返納ヲ許可シタルトキハ每等其坪數ニ應シ第三條ノ使用料一坪以下ニ相當スル金額ヲ以テ下付スルモノトス

附　則

第十一條　本規則第十條ニ依リ金額ヲ下付スルトキハ明治二十二年七月十一日以前ニ係ルモノハ一坪ニ付上等地ハ金貳圓、中等地ハ壹圓、下等地ハ貳拾五錢ノ割合ヲ以テ同日以後明治三十三年十一月一日以前ニ係ルモノハ一坪ニ付上等地ハ參圓、中等地ハ壹圓五拾錢、下等地ハ參拾七錢五厘ノ割合ヲ以テ下付スルモノトス

本規則第五條ノ最下限ニ充タサル墓地ニシテ舊規則ニ據リ使用許可ヲ得タルモノ其全部ヲ返納シタル場合ニ於テ更ニ其全部ヲ使用セントスルモノアルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第十二條　本規則ハ明治三十三年十一月一日ヨリ施行ス本規則施行ニ關スル細則ハ市長之ヲ定ム

本案ハ五月三十日ノ會議ニ上程、**大庭重治君**ノ動議ニ據リ、議長指名十三名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

兼藤良三郎　長町康夫　島田藤吉　成島菊次良　松崎英太郎
後藤武夫　佐々木藤市郎　細野順　山本茂三郎　原田吉兵衛
塚原寅次郎　本宮辰次郎　河井榮三郎

委員ハ**細野順君**ヲ委員長ニ、**成島菊次良**、**松崎英太郎**、**山本茂三郎**ノ三君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、六月十八日ノ會議ニ於テ、冒頭ノ議案中ニ記載セルガ如ク加筆修正シタル旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

▽上野公園移管ニ關スル質疑應答　五月三十日ノ會議ニ於テ、**尾中勝也君**ハ市理事者ニ問ウテ曰ク、上野公園維持經營ニ關シ昨年六月東京府知事ヨリ本市ニ對シテ諮問アリタル際、當市會ハ六月二十八日ノ會議ニ於テ、本市公園トシテ維持經營シタキ旨ノ答申ヲ爲スベク議決セリ、然ルニ爾來既ニ一ケ年ニ垂タル今日、未ダ移管ノ實現ヲ聞カズ、右ハ如何ニナリタリヤ、尚ホ世上傳フル所ニ據レバ、本市ヘノ移管ニ就イテハ種々ノ障礙アリ、公園地トシテノ重要ナル箇處ハ諸官省其他ニ移管サレ、本市ヘハ其重要ナル箇處ヲ除キタル精粕ニ等シキ部分ノミナリト云ヘリ、果シテ然ルヤ否ヤト。助役**池田宏君**答ヘテ曰ク、上野公園移管ニ關スル東京府知事ノ諮問ニ就イテハ、昨年七月二日附ヲ以テ、當市會議決ノ趣旨ヲ答申セリ、其後聞ク所ニ據レバ、內務省ニ於テハ文部省ノ爲メニ美術館ノ建設用地ヲ、又寬永寺ノ爲メニ東照宮ノ境內地ヲ割讓スル事、其他尚ホ多少ノ問題アルガ如キモ、內務省主務課ノ意見ハ大體ニ於テ決定シ、本市ニ對シテ更メテ第二回ノ照會ヲ爲ス事トナリ居レリト、然ルニ公園問題ハ、土地關係ニ就キテハ地理課ノ主管ニ屬スルモ、公園ノ計畫上ニ就イテハ都市計畫課ニ關係シ、而シテ之ヲ地方ノ市ニ管理セシムル事ノ爲メニハ地方局ニモ關係シ、更ニ衞生問題ニ就イテハ衞生局ニモ關係ヲ有スルヲ以テ、省議容易ニ調ハズ、爲メニ內務省ヨリ本市ヘノ第二回ノ照會ヲ爲ス能ハザル始末ナリト聞ク、兎ニ角本市トシテハ市會ニ於ヲ爲サレタル議決ノ精神ヲ一日モ速ニ貫徹スルヤウ、數々吏員ヲ內務省ニ派スル等鋭意努力中ナリト。

▽濱離宮及芝離宮拂下ニ關スル質疑應答　五月三十日ノ會議ニ於テ、上野公園移管ニ關スル質疑應答後、**眞下五郎君**ハ市理事者ニ對シ、濱離宮及芝離宮ヲ宮內省ヨリ民間ニ拂下グル事トナリタルヤニ仄聞ス、尚ホ道途傳フル所ニ據レバ、右ノ兩離宮ハ或ハ鐵道院ニ拂下ゲラルベシト云ヒ、或ハ某々氏ノ計畫セル魚市場設置ノ爲メニ拂下ゲラルベシト云ヘリ、元來我ガ國ニ於テ庭園造築ノ發達其極致ニ及ビタルハ元祿年間ニシテ、濱離宮竝ニ芝離宮ノ庭園ハ、正シ

ク元祿時代ニ於ケル當時ノ舊態ヲ其マヽ今日マデ保存サレタルモノニシテ、全國中唯一無二ナルノミナラズ、東洋式庭園トシテ世界ニ誇ルベキ代表的庭園ナリト聞ク、殊ニ明治大帝ガ數〻行幸アリテ、内外ノ臣僚ト倶ニ、或ハ觀櫻ニ、或ハ四圍ノ風光等ヲ賞覽シ給ヒタル處ナリ、斯ル尊キ歷史アリ、正シキ由緒アル名園ヲ鐵道院ノ材料用地ト爲シ、又ハ魚市場ト化セシムルガ如キ事アラムカ、千秋ノ恨事ト爲スハ余一人ニ非ズ、斯道ノ權威者本多林學博士ノ如キハ、東京全市ノ庭園ヲ撤廢スルモ、芝離宮ノミハ之ヲ永久ニ保存シタシト言ヒ居タリキ、若シ夫レ宮内省ヨリ兩離宮ノ下賜ヲ受クル能ハズトセバ、セメテ本市ニ管理ノ委託ヲ受クルカ、又ハ其他適當ノ方法ヲ以テ、永久保存ノ方途ヲ講ゼント欲ス、萬一幸ヒニシテ之ヲ公園トシ衆庶ニ利用シ得ラルヽ事トモナラバ、公園トシテノ設備ヲ爲ス上ニ於テモ、公園ノ系統ヲ樹ツル上ヨリスルモ、將又風致竝ニ衞生上ヨリ見ルモ、歷史上ヨリ考フルモ、東京市將來ニ甚大ノ幸福ナルベシト思惟ス、市當局ノ所見如何ト質シ。助役**池田宏君**、宮内省ニ於テ芝離宮竝ニ濱御殿ヲ解除サルヽヤノ内議アリタリトハ當職モ仄聞セリ、同時ニ或ハ鐵道關係ノ者ヨリ、或ハ魚市場關係ノ者ヨリ、更ニ甚シキハ官舍ヲ設置シタシ抔トノ申出デヲ爲セル者アリト云ヘル事モ仄ニ聞知セリ、兩離宮ノ庭園ハ、洵ニ本邦ニ於ケル無比ノ名園ナリ、然ルニ此處ニ魚市場ヲ開設シ、又ハ官舍等ヲ設置シテ、此ノ名園ヲ湮滅セシメントスルガ如キ企圖ハ、痛惜ニ堪ヘザルト共ニ恐懼ノ至リニ堪ヘズ、仍テ本市ハ御解除アルヤノ内議アリタリト仄聞シタル際、之ヲ自然ノマヽノ公園トシ、市民ヲシテ永久ニ恩賜ノ辱キヲ記念セシメタキ旨、四月一日附ヲ以テ上申シ、尙ホ市長ハ本問題ノ爲メ親シク宮内大臣ヲ訪問スル等、坊間傳ヘラルヽガ如キ事無カラシメント欲シ、最善ノ努力ヲ爲シツヽアリト答ヘタリ。

▽乃木公園豫定地特貸ノ件　五月三十日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、異議ナク原案通可決セリ。

第七十號

市有地特貸ノ件

赤坂區新坂町六十一番地ノ二（乃木公園豫定地内）

一　地　坪　百六十八坪三合

右土地乃木神社表參道竝乃木神社建設設計事務所敷地トシテ無料貸付方別紙ノ通中央乃木會長ヨリ申請ニ付之ヲ貸付スルモノトス

說明　赤坂區新坂町乃木公園豫定地内百十七坪三合ヲ乃木神社表參道敷地トシテ、同五十一坪ヲ乃木神社建設設計事務所敷地トシテ各無料貸付方申請アリ、別段ノ支障ナキヲ以テ、之ヲ特貸スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（別　紙）

乃木公園地借用ノ儀申請

赤坂區新坂町舊乃木邸隣接地ヘ乃木神社建設可致ニ付、去大正八年五月該敷地購入ノ際其南方約四百餘坪モ共ニ神社地ヘ買收致度積リノ處、其儀不可能ノ爲同神社表參道狹隘ヲ告ケ、設備難致候ニ就テハ、乃木公園トシテ御設計ノ地所内、別紙圖面ノ個所百十七坪三合、右神社參道トシテ無料借用致度、事情御賢察御許容被成下度圖面相添此段願候也

大正十年二月九日

中央乃木會長　男爵　阪谷芳郎

東京市本鄕區駒込淺嘉町七十番地

保證人　玉井幸太

東京市長　男爵後藤新平殿

追テ乃木公園設定ニ付、本會ヨリ金參萬圓寄附申出ノ砌、本文ノ次第ハ御諒解ヲ經置キ候儀ニ有之爲念申添候

大正年間　第參章　大正十年　第四節　墓地ト公園

（圖面略ス）

乃木公園借用ノ儀許可申請

赤坂新坂町ニ乃木神社建設可致候ニ就テハ、該設計ニ關シ其附近ニ屋舍ヲ設ケ、設計上ノ事務所ニ充用致度、就テハ同神社敷地ノ隣接地乃木公園ノ中五十一坪、當分ノ間無料借用致度、尤モ公園御整理上等ニハ更ニ差障無之樣取計可致候間、右御許可相成度此段及申請候也

大正十年一月二十二日

中央乃木會長　男爵　阪谷芳郎

東京市本鄕區駒込浅嘉町七十番地

保證人　玉井幸太

東京市長男爵後藤新平殿

▽井之頭恩賜公園改良費　六月十八日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、本案モ異議ナク直チニ原案通可決セリ。

第八十七號

大正十年度東京市歳入出追加豫算

歳入　六、四五八・〇〇〇圓

歳出臨時部　六、四五八・〇〇〇圓

歳入出豫算表

歳入　六、四五八・〇〇〇圓

第十款　繰入金（公園積立金繰入）

歳出臨時部

第十五款　公園費（井之頭恩賜公園改良費）　六、四五八・〇〇〇圓

說明　井之頭恩賜公園內ニ水泳場及徒涉池ヲ新設スルモノトシ、豫算追加ノ爲本案ヲ提出ス。

第五節　救育事業

▽養育院移轉擴張費

第十一號

自大正十年度至大正十一年度東京市養育院費繼續年期及支出方法

一金百貳拾萬六百拾貳圓

內譯

大正十年度支出額

金六拾貳萬七千五百貳拾五圓

大正十一年度支出額

金五拾七萬參千八拾七圓

養育院移轉擴張費

本市養育院ハ明治二十九年本所區長岡町ヨリ現在地ニ移轉シテ以來、年々入院者ノ增加ヲ來タシタルカ爲、逐次增築若クハ分院ノ新設ヲ行ヒ、以テ今日ニ至リタリト雖、今ヤ曾ニ建物ノ狹少ヲ見ルニ止マラス、腐朽ノ箇所大ニ增加シ、之レカ修理及增築ニハ巨額ノ費用ヲ要スルノ狀態ニ在リ。加之本市發展ノ結果、市民住宅ノ供給愈其乏シキヲ告クルノ今日、養育院ノ如キ救濟場舍ヲ强テ市街地ニ置クノ必要ナキヲ以テ、旁〻本院敷地トシテ購入セル府下板橋町ノ豫定地ニ移轉ノ上、現在狹少ヲ感シツヽアル諸般ノ規模ヲ擴大シテ、收容力ノ增加ヲ圖リ、併セテ市街地ノ利用ヲ增大セシムルモノトシ、二箇年繼續事業トシテ本費ヲ計上セリ。

（豫算表略ス）

本案ハ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

長谷川吉次　佐々木藤市郎　岩松兼經　天利庄次郎　矢野鉉吉
鈴木彌吉　細野順　菊池武恒　山本茂三郎　小栗富五郎
原田吉兵衞

委員ハ**細野順君**ヲ委員長ニ、**長谷川吉次、矢野鉉吉**兩君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、**細野委員長**ヨリ、本案豫算表ノ說明中、現在ノ大塚ノ地ニ二千坪ヲ殘シ、且ツ大塚出張所建物造修費トシテ五萬九千九圓ヲ計上セリ。想フニ今回移轉スベキ板橋ニモ、分院ノ在ル巢鴨ニモ、廣濶ナル土地アルヲ以テ、殊更大塚ニ二千坪ノ土地ヲ殘シ置ク必要ナク、且ツ豫算表ノ說明ニハ、大塚出張所建物造修費ト記シタルノミニテ、建物ノ坪數其他ニ就イテハ一切不明ナリ。但シ本豫算ハ明十一年度ニ於テ實行スルモノナルヲ以テ、之レガ實行ノ際、建物ノ坪數其他ヲ詳細ニ明記シ、更メテ市會ノ議決ヲ經ル事トシテ、金額ハ其マヽ之ヲ存置シ、大塚出張所建物造修ト云ヘル名目ヲ年長少年收容所造營費ト修正スル事ニ議決シタル旨報告アリ。異議ナク委員長ノ報告通可決セリ。

▽**起債及償還方法ニ關スル件**　左記議案モ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ、前項記載ノ養育院移轉擴張費豫算調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第二十六號

起債及償還方法ニ關スル件

一　起債金額　百萬圓
二　起債ノ目的　養育院移轉擴張費ニ充ツル爲
三　借入金利率　年八分五厘以內トシ一年ニ滿タサルモノハ日割計算トス
四　借入ノ方法　銀行其他ヨリ普通貸借又ハ割引ノ方法ヲ以テ借入ル
五　借入時期　大正十年度ニ於テ四拾參萬圓以內、同十一年度ニ於テ五拾七萬圓以內但シ總額ノ範圍內ニ於テ兩年度間ノ各借入額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ルモノトス
六　償還期限　大正十二年度但シ市財政ノ都合ニ依リ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得ルモノトス
七　元利支拂資源　元金ハ養育院移轉跡地建物ノ賣却代ヲ以テ之ヲ償還シ利子ハ借入金預金利子及普通市費ヲ以テ之ヲ支拂フ其內譯別紙ノ如シ

說明　第十一號議案ニ伴ヒ養育院移轉擴張費ニ充ツヘキ市債ヲ起シ及之カ償還ノ爲本案ヲ提出ス。

（別紙略ス）

第六節　保健衞生事業

▽**傳染病院使用料條例中改正ノ件**

第二十九號

傳染病院使用料條例中改正ノ件

大正年間　第參章　大正十年　第六節　保健衞生事業

大正二年市條例第八號傳染病院使用料條例中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條中左ノ如ク改ム

特等　一日　金七圓
一等　一日　金五圓
二等　一日　金三圓五拾錢
三等　一日　金二圓

說明　物價勞銀騰貴ノ爲實費增加セシニ依リ、傳染病院使用料ヲ改正スルモノトシ本案ヲ提出ス。

右ハ二月九日ノ會議ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ、議長指名十三名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

島田藤吉　成島菊次良　松崎英太郎　川久保源治　竹下延保
後藤武夫　尾中勝也　伊東靖　小久江美代吉　山本茂三郎
塚原寅次郎　本宮辰次郎　河井榮三郎

委員ハ**川久保源治君**ヲ委員長ニ、**松崎英太郎**、**伊東靖**、**本宮辰次郎**ノ三君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

▽**消毒所使用料條例中改正ノ件**　左案モ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ、前項傳染病院使用料條例中改正ノ件調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第三十號

消毒所使用料條例中改正ノ件

大正三年市條例第五號消毒所使用料條例中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二號中「金五錢」ヲ「金十錢」ニ改ム

三、患者受託隔離者運搬料一人　金三圓

但シ同乘者一人ヲ增ス每ニ金五十錢ヲ加フ

四號中「金一圓五十錢」ヲ「金二圓五十錢」ニ改ム

六號中「金四十錢」ヲ「金六十錢」ニ「金二十錢」ヲ「金三十錢」ニ「金十錢」ヲ「金十五錢」ニ改ム

七號中「金二十五錢」ヲ「金五十錢」ニ「金四十錢」ヲ「金八十錢」ニ改ム

八號中「金十二錢」ヲ「金二十五錢」ニ改ム

說明　物價勞銀騰貴ノ爲消毒實費ノ增加ヲ來シタルニ依リ、使用料增額ノ必要ヲ認メ本案ヲ提出ス。

▽**傳染病院及隔離所收容患者隔離者食費及藥價徵收ニ關スル件**　左記議案モ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ、前項ノ議案調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審査ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第三十一號

本市傳染病院及隔離所收容患者隔離者食費及藥價徵收ニ關スル件

一、傳染病院收容ノ患者　食費　一食　金十二錢
　　藥價　一日　金二十錢
一、隔離所收容ノ隔離者　食費　一食　金二十錢
　　藥價　一日　金十錢

說明　傳染病豫防法施行規則第十二條ニ依リ、市立傳染病院隔離病者又ハ隔離所ニ收容シタル患者、隔離者ノ食費、藥價ヲ徵收スルモノトシ本案ヲ提出ス。

▽傳染病患者竝隔離者受託收容料ニ關スル件　左案モ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、**佐々木藤市郎君**ノ動議ニ據リ、前項ノ議案調査委員ニ併託スル事ニ決シ、委員ハ審議ノ末、二月二十七日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、是レ亦異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第三十五號

傳染病患者竝隔離者受託收容料ニ關スル件

官廳、官立ノ學校、病院、製造所及町村ヨリノ委託ニ依リ、傳染病院又ハ隔離所ニ收容シタルトキハ、患者ニ在リテハ一日金三圓、隔離者ニ在リテハ一日金二圓ノ收容料ヲ徵收ス。但シ委託者ニ於テ特別ノ病室ヲ希望シタル場合ニ在リテハ、特等、一等及二等ニ限リ之ニ應スルコトヲ得。此ノ場合ニ於ケル收容料ハ、本市傳染病院使用料條例ノ定ムル額ニ依ル。

大正二年市會議決第百二號傳染病院委託患者入院料ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス。

說明　物價勞銀騰貴ノ爲入院料ノ增額ヲ要スルモノアリ、又隔離所收容ノ委託ニモ應スル途ヲ開ク爲本案ヲ提出ス。

第七節　上下兩水道事業

▽都市計畫第二期下水道改良費繼續年期及支出方法

第二十七號

自大正九年至大正十六年東京市都市計畫第二期下水道改良費繼續年期及支出方法

都市計畫第二期下水道改良費

一金貳千萬圓

內譯

大正九年度支出額	金六拾七萬七千貳百五圓
大正十年度支出額	金貳百四萬七千七百九拾五圓
大正十一年度支出額	金貳百七拾八萬五千圓
大正十二年度支出額	金參百七拾六萬圓
大正十三年度支出額	金參百拾壹萬圓
大正十四年度支出額	金參百貳拾六萬圓
大正十五年度支出額	金貳百四拾貳萬圓
大正十六年度支出額	金百九拾四萬圓

本市下水道改良第一區既定設計ノ內、日本橋區、京橋區ノ全部、麹町區、神田區及芝區ノ一部ニ於ケル下水道敷設事業ヲ芝浦口ニ於ケル一時的施設ト併セ施行スルノ件、內閣ノ認可アリタルヲ以テ之カ經費トシテ本費ヲ計上セリ。

（支出計算表略ス）

本案ハ二月九日ノ第一讀會ニ於テ、佐々木藤市郎君ノ動議ニ據リ、議長指名十一名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

坪谷善四郎　竹下延保　南　鬯　佐々木藤市郎　野々山幸吉
川上賢三　菊池武恒　堀内伊太郎　塚原寅次郎　本宮辰次郎
前田豫七

委員ハ竹下延保君ヲ委員長ニ、南鬯、川上賢三ノ兩君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、支出計算表中、大正九、十兩年度ニ於ケル營繕費各貳萬七千五百圓ヲ貳萬參千四百五拾圓ニ減額シタルモ、之ヲ豫備費ニ增額シ豫算總額ニハ變更ヲ來サシメザリシ旨報告シタルニ、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

▽都市計畫事業公債條例設定ノ件外三件

第九十三號

東京市都市計畫事業公債條例設定ノ件

東京市都市計畫事業公債條例左ノ通設定スルモノトス

東京市都市計畫事業公債條例

第一條　本公債ハ第二期下水道改良事業ノ費途ニ充ツル爲大正十年度以降七年度間ニ手取額八百六拾四萬圓以內ヲ必要ニ應シ募集ス

前項公債募集額ハ券面九百六拾萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第三條　本公債利子ノ割合ハ券面額ニ對シ年率百分ノ六以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本公債ノ利子支拂ハ每年二回トシ前六月分ヲ支拂フ但シ發行ノトキハ拂込ノ日ヨリ償還ノトキハ償還ノ前日マテ日割ヲ以テ計算ス

第五條　本公債ノ元金ハ大正十五年度ヨリ同三十年度迄ノ間ニ於テ券面額ヲ以テ之ヲ償還シ各年度發行ノモノノ據置期間及其ノ償還終期ハ募集ノ際之ヲ定ム

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

市財政ノ都合ニ依リ前二項ノ規定ニ拘ラス繰上償還ヲ爲スコトアルヘシ

第六條　本公債ノ元金及利子ハ第二期下水道改良事業ニ對スル國庫補助金、都市計畫特別稅及第二期下水道改良事業ヨリ生スル雜收入ヲ以テ支辨ス

第七條　本公債ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第八條　本公債募集ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スル場合ハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシ利子年率百分ノ八以內償還期限五年以內ノ短期債ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テ第一條ノ募債期間ハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

前項ノ短期債ハ本公債募集金ヲ以テ償還ス其ノ利率及償還ノ方法ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二條第四條及第七條ノ規定ハ短期債發行ノ場合ニ之ヲ適用ス

說明　都市計畫事業トシテ目下施行中ノ第二期下水道改良事業資金トシテ公債ノ募集ヲ要スルニ依リ本案ヲ提出ス。

附屬計算表

第二期下水道改良費資金收支計算表

種別	九大年度正	十大年度正	十大一年度正	十大二年度正	十大三年度正	十大四年度正	十大五年度正	十大六年度正	計
	円	円	円	円	円	円	円	円	円
公債發行豫定額	〇	(一、〇〇〇、〇〇〇)	(一、〇〇〇、〇〇〇)	(一、三三〇、〇〇〇)	(一、一〇〇、〇〇〇)	(一、〇〇〇、〇〇〇)	(一、〇〇〇、〇〇〇)	(一、〇〇〇、〇〇〇)	(八、一三〇、〇〇〇)
公債募集手取額	〇	九七〇、〇〇〇	九六〇、〇〇〇	一、二九〇、〇〇〇	一、〇六九、〇〇〇	九七〇、〇〇〇	九七〇、〇〇〇	九四〇、〇〇〇	七、八九九、〇〇〇
公債償還財源剰餘金	〇	一、〇二九、〇〇〇	一、〇四九、〇〇〇	一、〇四九、〇〇〇	一、〇三九、〇〇〇	一、〇二九、〇〇〇	一、〇一九、〇〇〇	一、〇〇九、〇〇〇	八、二三四、〇〇〇
計	〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、三三九、〇〇〇	二、一〇八、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一、九九九、〇〇〇	一、九四九、〇〇〇	一六、一三四、〇〇〇
事業費支出額	一、五四七	二、七四五、四三五	二、七八五、〇〇〇	三、七六〇、〇〇〇	三、一一〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、九四九、〇〇〇	二、八九六、〇〇〇	一六、一三四、〇〇〇

備考

一、公債募集手取額ハ券面百圓ニ對シ九拾圓ノ割合トス。

二、公債償還財源剰餘金ハ事業年期間ニ於ケル公債還金收支剰餘金ノ大部分ヲ事業費ニ充當スル豫定ノモノナリ。

三、大正十年度資金中ニハ大正九年度事業費支出額ノ銷却金ヲ含ム。

（償還年次表略ス）

（參照）

一　國庫補助金計算表

一、國庫補助金ハ事業費支出額ノ三分ノ一ヲ各翌年度ニ於テ交付ヲ受クルモノトス。

二　都市計畫特別稅內譯

稅目	府稅額	（大正十年度ニ於ケル大正十四年分ノ府稅）	（大正十六年度ニ於ケル大正十五年分ノ府稅）	（大正二十年度ニ於ケル大正十八年分ノ府稅）
雜種稅	円	円	円	円
營業稅	八三九、五五四	三三五、八二二	一六七、九一一	八三、九五五
計	二、〇四一、四一一	八一六、五六四	四〇八、二八二	二〇四、一四一
	二、八八〇、九六五	一、一五二、三八六	五七六、一九三	二八八、〇九六

一、營業稅及雜種稅ハ共ニ府稅十分ノ四ヲ制限トス。

二、都市計畫特別稅ハ此外ニ目下法定制限ニ對シ國稅營業稅割本稅百分ノ〇・七、家屋稅府稅十分ノ四ノ餘裕アルモ第三期都市計畫事業ノ財源關係ノ確定ヲ見サルヲ以テ暫ク留保セリ。

八月四日ノ第一讀會ニ於テ、**田川大吉郎君**ハ理事者ニ對シ、本案ノ內容ト實際ノ運用方法トニ就キ詳細ナル說明アリタシト求ムルヤ。助役**池田宏君**答ヘテ曰ク、本案ハ日本橋、京橋兩區ノ全部、麴町、神田及芝區ノ一部、是等ノ地區ニ亙リテ第二期下水道改良事業ヲ行フ費途ニ充テント欲スルモノニシテ、九年度ハ纔ニ準備ニ過ギザリシヲ以テ、市費ノ繰替ニ依リテ相當ノ處置ヲ爲シタルモ、愈〻本年度ヨリハ豫定ノ繼續年期中ニ於ケル事業ノ進行ヲ圖ラザルベカラズ、仍テ其必要ナル財源ヲ都市計畫特別稅ニ求メ、各年度ニ於ケル所要額ヲ此ノ特別稅ニテ支辨シ得ザル分ヲ公債ニ仰グ事トセリ、募債方法ニ就イテハ、今日ノ場合本案ノ方法ニ據ル以外ニハ無カルベシト認メタリ、利率ハ年六分以內トシ、募債ノ際其時々ノ相場ヲ見テ適當ニ定ムル事トセリ、手取額ヲ八百六拾四萬圓トシタルハ、今年三、四月ノ交ニ募債ヲ爲シタル事業公債ノ手取額ヲ標準トシ、此ノ範圍內ニ於テ能フ限リ低利ニ、且ツ有利ニ借受ケヲ爲サント欲ス、尙ホ或ル年度ニ於テ募債ノ時期適當ナラズ、又ハ後年度ニ於テ事業資金ニ不足ヲ生ズル場合アルヤモ知レズ、斯ル場合ニハ短期ノ起債ヲ爲シ得ル權限ヲ付與シ置カレンコトヲ希望シ、第八條ノ規定ヲ設ケタルナリト。**田川君**更ニ、國庫ヨリノ補助ハ、本年度ハ僅ニ五百拾五圓ニ過ギザルモ、大正十一年度ヨリハ九拾萬圓以上ヲ受入ルヽ豫定ニテ、十一年度以降七年間ニ六百六拾餘萬圓ノ受入レヲ爲ス事トナリ居レルガ、萬一政府ノ都合ニテ、此ノ國庫補助ガ十年若クハ十五年ニ延期サレタル場合ハ、公債ノ償還ハ不可能トナリ、本案ノ計畫ハ書餅ニ歸スルニアラズヤ、此ノ點市理事者ニ成算アリヤト質シ。**池田助役**ハ、目下政府ニ於テハ來年度豫算ノ編製中ナルヲ以テ、本案ニシテ當市會ノ協贊ヲ得バ、此ノ時機ニ於テ本市ノ此ノ計畫ヲ遂行シ得ルヤウ充分努力セント欲ス、若シ不幸ニシテ政府ノ財政到底之ヲ許サズトアラバ、其際ニハ他ニ適當ナル方法ヲ講ジ、更メテ諸君ノ協贊ヲ請ハザルベカラザルモ、當初ヨリ政府ノ財政ヲ顧念シタル第二段ノ計畫ヲ樹テ置ク事ハ、策ヲ得タルモノニアラザルベシト考フ、仍テ是非共政府ヨリ本市計畫通リノ補助ヲ受クルニアラザレバ、本事業ヲ遂行スル能ハズ、本事業ハ帝都ノ保健衞生ニ關スル重要ナル事業ノ一ナルヲ以テ、姑息ナル方法ニ據ラズ、本市ノ計畫通リ事業ヲ遂行セシムベク、政府ニ於テモ充分盡力サルヽヤウ努力セント欲スト答フ。次イデ**早川庄太郎君**ヨリ、左記三案ヲ一括シテ議長指名九名ノ委員ニ調査ヲ付託スベシトノ動議提出アリ、異議ナク早川君ノ動議成立シテ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

島田藤吉　坪谷善四郎　松崎英太郎　南鬯尾中勝也
小久江美代吉　山本茂三郎　原田吉兵衞　前田兼七

委員ハ**坪谷善四郎君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、八月二十九日ノ會議ニ於テ、何レモ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第九十四號

都市計畫事業公債償還金經濟設定ノ件

本市都市計畫事業公債條例附屬償還年次表ノ定ムル收支經理ノ爲特別會計トシテ都市計畫事業公債償還金經濟ヲ設クルモノトス

說明　第九十三號議案ニ基キ本案ヲ提出ス。

第九十五號

大正年間　第參章　大正十年　第七節　上下兩水道事業

大正十年度東京市都市計畫事業公債償還金歲入出豫算

歲　入　金拾五萬七千七百貳拾四圓

歲　出　金八萬七百拾圓

歲入出差引殘金七萬七千拾四圓

（歲入出豫算表略ス）

說明　第九十三號及第九十四號議案ニ基キ本案ヲ提出ス

第九十七號

自大正十年度至大正十一年度　東京市下水道改良工事實施調査費繼續年期及支出方法

一金拾九萬千八百六拾七圓

內譯

金七萬參千五百參拾參圓　大正十年度支出額

金拾壹萬八千參百參拾四圓　大正十一年度支出額

本市下水道改良工事基本設計ハ十數年前ノ決定ニ係リ、爾來市區改正ノ結果街路ノ模樣變更シ、又本市標準雨量强度モ變化セルアリ且最近路面改良工事ノ計畫熟スルモノアリテ、下水道改良工事モ亦之ニ順應スルノ施設ヲ爲サヽルヘカラス、其ノ他埋設ノ增加ニ伴ヒ位置ノ變更ヲ要スルモノアリ、乃チ調査ノ上實施設計ノ基礎ヲ確立スルモノトシ、二箇年繼續事業トシテ本費ヲ計上セリ。

（支出計算表略ス）

▽上下水道公債條例中改正ノ件　二月二十七日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、異議ナク直チニ原案通可決セリ。

第四十六號

東京市上下水道公債條例中改正ノ件

大正五年市條例第五號東京市上下水道公債條例中左ノ通改正スルモノトス

第一條　本公債ハ上水道擴張及下水道改良事業竝計量給水制實施ノ費途ニ充ツル爲大正六年度以降八年度間ニ手取額四千八百四十七萬圓以內ヲ必要ニ應シ募集ス

前項公債募集額ハ券面五千三百八十萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條　本公債ノ元金ハ左ノ區分ニ依リ券面額ヲ以テ償還ス但市財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲スコトアルヘシ

一　大正六年度發行ノ券面一千萬圓ハ大正十一年六月一日以降十五年間

二　大正十年度以降發行ノモノハ大正十五年度以降同三十七年度迄ノ間

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

大正十年度以降發行ノモノヽ據置期間及其償還終期ハ募集ノ際之ヲ定ム

第八條　本公債募集ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スル場合ハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシ利子年率百分ノ八以內、償還期限五年以內ノ短期債ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テ第一條ノ募債期間ハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

前項ノ短期債ハ本公債募集金ヲ以テ償還スルモノトシ其利率及償還ノ方法ハ市參事會ノ議ヲ經テ之ヲ定ム

第二條第四條及第七條ノ規定ハ短期債發行ノ場合ニ之ヲ適用ス

說明　上水道擴張工事費及第一期分竝第二期速成下水道改良工事ニ充ツヘキ公債券面二千三百萬圓發行竝償還ノ爲、大正五年上

下水道公債條例ヲ設定シタルモ、大正六年度ニ於テ券面一千萬圓ヲ發行シタルニ止マリ、爾來金融界ノ關係上募債ヲ續行シ得ス。加之一面ニ於テ兩事業ハ異常ナル物價及勞銀騰貴ノ影響ニ因リ、工事費ニ甚シキ膨脹ヲ來セルト共ニ、工期モ亦之ヲ延長スルノ已ムナキ結果ニ立至リ、且全部計量給水制實施ニ伴フ量水器取附ノ經費ヲ公債ニ仰ク必要生シタルヲ以テ、旁既定ノ公債計畫ハ之ヲ變更セサルヘカラサルコト、ナレリ。依テ玆ニ既發行公債ニ對シテハ、發行條件ニ遵ヒテ元利支出ヲ豫定シ、上水道第一期擴張事業費及下水道改良事業費變更ニ伴フモノ竝量水器取附費ニ付テハ、新タニ募債高ヲ增加シ、其他短期債ノ事項ヲ適切ナラシムル等ノ爲、必要ナル條例改正ヲ行フモノトシ本案ヲ提出ス。

尙本件改正ニ伴ヒ、附屬償還年次表ヲ別紙ノ通變更スルモノトス。

（別紙略ス）

（參照）

第一條　本公債ハ上水道擴張及下水道改良事業ノ費途ニ充ツル爲大正五年度以降六年度間ニ手取額二千七十萬圓以內ヲ必要ニ應シ募集ス

前項公債募集額ハ券面二千三百萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第三條　本公債利子ノ割合ハ券面額ニ對シテ年率百分ノ六以內トシ募集ノ際之ヲ定ム

第四條　本公債ノ利子支拂ハ每年二回トシ前六月分宛ヲ支拂フ但發行ノトキハ拂込ノ日ヨリ償還ノトキハ償還ノ前日マテ日割ヲ以テ計算ス

第五條　本公債ノ元金ハ大正十年度以降同三十九年度迄ノ間ニ於テ券面額ヲ以テ之ヲ償還スルモノトシ各年度發行ノモノノ据置期間及其償還終期ハ募集ノ際之ヲ定ム

第六條　本公債ノ元金及利子ハ上水道費ニ對スル國庫補助金、上水道收入、河岸地貸付料、市區改正特別稅及上水道擴張竝下水道改良事業收入ヲ以テ支辨ス

第七條　本公債ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第八條　本公債募集ノ時期適當ナラス事業資金ニ不足ヲ生スル場合ハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシ利子年率百分ノ七以內第一條ノ募集年度間ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項借入金ハ本公債募集金ヲ以テ償還スルモノトシ其利率及借入竝償還ノ方法ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第九條　本公債ノ各年度ニ於ケル發行額、其手取額及利率其他必要ナル事項竝本公債取扱ニ關スル手續ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

▽水道事務ニ關スル質疑應答竝ニ水道事務ニ關スル建議

五月三十日ノ會議ニ於テ、**早川庄太郎君**ハ理事者ニ問ウテ曰ク、昨年水道事務統一ノ名ノ下ニ市內ニ九ケ所ノ水道事務出張所ノ、從來各區役所ニテ取扱ヒ居タル水道事務ヲ此ノ出張所ニ移セリ、即チ從前ハ十五ケ所ニテ取扱ヒタルモノヲ九ケ所ニ縮小サレタルヲ以テ、小破修繕等ノ場合、大部分ノ市民ハ從前ニ比シテ頗ル不便ヲ感ジ居レリ、殊ニ建物所有權移轉ノ際ノ如キハ、從前ハ區役所ノミニテ總テノ用ヲ便ジタルニ、昨年ノ改正以來、建物所有權移轉手續ハ區役所ニ於テシ、水道栓ノ名儀變更ノ爲メニハ、出張所ニ赴カザルベカラズ、而モ市民ノ大部分ハ、水道栓ノ名儀變更ニハ印鑑證明ヲ要スルガ如キ手續上ノ事ヲ知ラザルヲ以テ、出張所ヨリ再ビ區役所ニ引返シテ印鑑證明ヲ得ル等、一日ヲ費シテ而モ水道栓ノ名儀變更ヲ完了スル能ハザリシトノ苦情ヲ聞ク事一再ニアラザルナリ、市長ハ事務ノ簡捷ヲ圖リ、市民ニ便益ヲ與ヘント努力シツヽアリト聞ク、然ルニ市民ノ生活上一日モ缺クベカラザル水道事務ニシテ、斯ノ如ク不便ト不利益トヲ市民ニ與ヘツヽアリ、市長ハ斯ル點ヲモ考慮シ調査シツヽアリヤ否ヤ、然リ而シテ事務ノ取扱ヒヲ變更シタル結果、幾許ノ經費ヲ節約シ得

タリヤ、尙ホ市理事者ハ市民ニ勘カラザル迷惑ト不便トヲ與フルモ、尙ホ現制度ヲ飽迄持續スル意思ナリヤ否ヤト。助役**前田多門君**答ヘテ曰ク、水道事務ノ取扱ヒ變更ノ結果、今日ノ所一ケ年拾萬圓ノ經費ヲ節約シ得ル事トナリタルモ、市民全體ニ對シテ多大ノ迷惑ト不便トヲ與フルナラバ、經費ノ如キハ問題ニ非ズ、速ニ最善ノ方法ヲ講ゼザルベカラザル事勿論ナリ、從前ハ十五ケ所ノ區役所ニテ取扱ヒタルモノヲ、九ケ所ノ出張所ニ其數ヲ減ジタルモノナルヲ以テ、區役所附近ノ在住者ニハ不便ヲ感ゼラルベク、此ノ點容易ニ諒解シ得ラルヽモ、從前ノ制度ニ據ル時ハ、實際ノ工事掛ハ區役所ニハ居ラズ、何レモ出張所ニ勤務シ居レリ、故ニ修繕其他ノ工事ノ場合、區役所ニテ受附ハ爲ズモノヽ、之ヲ出張所ニ通ゼザレバ實務ヲ處理スル能ハザリシナリ、然ルニ統一制採用ノ結果、受附ヲ爲ス所ト實務ヲ處理スル所トハ同一トナリタルヲ以テ、事ヲ迅速ニ處理シ得ルノミナラズ、區役所ハ夜間ノ申込ヲモ受附ケザリシモ、出張所ハ夜間ノ申込ヲモ受附クルヲ以テ、早急ノ求メニモ應ジ得ル便宜アリ、且ツ從前ノ區役所制ハ行政區域ニ據リテ其管轄ニ制限アリタルモ、統一制ニハ斯ル制限ナキヲ以テ、何處ノ出張所ニ申込マルヽモ直チニ用ヲ辨ジ得ル利益アル筈ナリ、要スルニ過般改正ノ趣意ニシテ充分ニ行渡リ、市民全體ニ周知サレナバ、今日ノ如キ不便ハ絕無トナルベキモノニアラズヤト思惟ス、兎ニ角市當局ニ於テモ本問題ニ就キ種々調査シツヽアルモ、新制度ノ利害得失ニ就イテハ、未ダ結論ニ到達シ居ラザルヲ遺憾トス、仍テ希クハ攻究ニ今少シク時日ヲ藉サレンコトヲト。**早川君**ハ更ニ、水道事務出張所ノ電話ハ、夜間ハ通ズルモ、晝間ハ幾度電話セントスルモ話中ニテ、殆ド通ゼザルナリ、然リ而シテ從來十五ケ所ニテ取扱ヒタル水道事務ヲ九ケ所ニ縮小サレタル結果、便宜ヲ得ル市民ニ比シ、不便ヲ感ズル市民ノ多數ナルハ明ナリ、此ノ距離ノ不便ハ、市理事者ガ幾年、幾十年ノ歲月ヲ費シテ攻究スルモ、遂ニ如何トモ爲ス能ハザルベシ、水道事務ノ取扱改正以來既ニ一ケ年間、市民ニ勘カラザル不便ヲ與ヘ、今後モ尙ホ之ヲ繼續シ、市民ヲシテ不便ヲ不便ト感ゼシメザルヤウ慣習附ケントスルガ如キハ失當ノ措置ニシテ、拾萬乃至貳拾萬ノ經費節約ノ理由ト爲ス能ハズ、仍テ理事者ハ是等ノ點ヲ充分考慮ノ上、最善ノ方法ヲ執ラレンコトヲ希望スト述ベ。**前田助役**ハ、先刻當職ヨリ今暫ク攻究ニ時日ヲ藉サレンコトヲ希望シタルハアラズ、改正ノ統一制ニハ、市民ニ不便ノ點アルトヤニ就テハ今日尙ホ結論ニ到達シ居ラザルヲ以テ、此ノ點尙ホ愼重ニ攻究セント欲スルニ在リ、電話ハ增設ノ方針ニテ、能フ限リ不便ノ緩和ニ努力セント欲スト答ヘタリ。斯テ質疑應答ヲ打切リタルガ、越エテ十二月二十一日ノ會議ニ於テ、早川庄太郎君外七名ヨリ、左ノ建議ヲ提出セリ。

一、水道事務ニ關スル建議

右提出候也

大正十年十二月十四日

提出者

早川庄太郎　野々山幸吉　加藤照一
宮田哲雄　塚原寅次郎　志村吉藏
橋本直一　菊池武恒

東京市會議長桐島像一殿

水道事務ニ關スル建議

昨大正九年四月事務統一及經費節約ノ理由ノ下ニ、市役所水道課竝其出張所ニ於テ處理スルコトニ更改セラレタ

ル本市水道事務取扱方法ハ、爾後ノ實績ニ徴スルニ、需用者ハ從前ニ比シ手續上甚タシク不便ヲ感スルコト多ク、爲メニ却テ前制度ノ可ナルヲ思フモノ尠カラサル狀態ニ在リ、仍テ理事者ハ此事績ニ顧ミ、速ニ相當ノ措置ヲ講シ、本事務ヲ從前ノ取扱方法ニ復舊シ、以テ市民ノ利便ヲ企圖スルノ擧ニ出テラレムコトヲ望ム。

本案ハ**大庭重治君**ノ動議ニ據リ、議長指名九名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ左ノ如ク選定セリ。

村松恒一郎　宮田哲雄　南　甲　早川庄太郎　秋山　朗
村林榮助　矢野鉉吉　野々山幸吉　前田兼七

委員ハ**野々山幸吉君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、翌十一年二月二十四日ノ會議ニ於テ、左記ノ如ク修正スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

水道事務ニ關スル建議　（右側ノ○印ハ委員會ニテ修正　左側ノ―印ハ同會ニテ削除）

昨大正九年四月事務統一及經費節約ノ理由ノ下ニ、市役所水道課竝其出張所ニ於テ處理スルコトニ更改セラレタル本市水道事務取扱方法ハ、爾後ノ實績ニ徴スルニ、需用者ハ從前ニ比シ、手續上甚タシク不便ヲ感スルコト多ク、爲メニ却テ前制度ノ可ナルヲ思フモノ尠カラサル狀態ニ在リ、仍テ理事者ハ此事績ニ顧ミ、速ニ相當ノ措置ヲ講シ、本事務ヲ左記ノ如ク取扱ヒ、從前ノ取扱方法ニ復舊シ、以テ市民ノ利便ヲ企圖スルノ擧ニ出テラレムコトヲ望ム。

左　記

一、令書紛失ノ場合ハ、各區役所內水道課派出所ニ於テ再交付ヲ爲スコト。
一、水栓臺帳ヲ各區役所內水道課派出所ニ備置クコト。
一、給水裝置名義變更竝ニ共用栓鍵札交付ノ場合ハ、各區役所內水道課派出所ニ於テ處理スルコト。
一、小破修繕ノ場合ハ、各區役所內水道課派出所常備職工ニ於テ之ヲ爲スコト。
一、給水裝置ノ新設、增設、改造、撤去等ノ請求書ハ、各區役所內水道課派出所ニ於テ受理スルコト。

▽**水道水路決潰ニ關スル市理事者ノ報告竝ニ質疑應答**　十二月二十一日ノ會議ニ於テ、市長**後藤新平君**水道水路決潰ニ關シテ報告シテ曰ク、過般ノ水道水路決潰ハ震災ノ結果ニシテ、當初斷水セシムルガ如キ事ナク應急ノ方法ヲ爲シ得ベシト思料シタリシガ、不幸風雨ニ妨ゲラレ、豫定ノ工事ヲ爲ス能ハズシテ、遂ニ二十四時間以內ノ斷水ヲ見ルニ至ラシメ、市民ニ多大ノ迷惑ヲ被ラシメタルハ、遺憾至極ニシテ、市長ノ責任ハ免ルヽ能ハザル事ト思惟ス、只此ノ際諸君ニ一言セント欲スルハ、臨時救護救濟ヲ要スル非常ノ場合、市吏員ノ是レニ處スル規定ハ制定シアルモ、其順序方法等ニ就キ未ダ充分ノ講究ヲ遂ゲ居ラザリシ際、突如トシテ今回ノ事件ガ勃發シタルモノニシテ、爲メニ遺憾ノ點アリシノミナラズ、現在ノ規定等モ大イニ攻究ヲ要スベキ事ヲ發見セリ、然ルニ今日制度ニ缺陷アルニ拘ハラズ、市民ノ自治的活動ノ見ルベキモノアリテ、災害ヨリ生ズル損害ヲ豫防シ得タルハ、衷心ヨリ歡喜ノ情ニ堪ヘズ、其勞ニ對シ市民ニ向テ感謝スルト同時ニ、名譽職諸君ニモ、今回ノ災害ノ爲メニ拂ハレタル犧牲ノ多大ナリシ事ニ對シ、衷心ヨリ謝意ヲ表スト。次イデ**眞下五郎君**ヨリ、水道水路決潰ニ關シ尾中勝也君ヨリ質問書ノ提出アルモ、尾中君ノ質問ニ先ダチ、本件ニ關シ理事者ヨリ尙ホ詳細ナル報告ヲ聽取スルハ、議事進行上便利ナルベシトテ、日程變更ノ緊急動議提出アリ、滿場異議ナク之レニ決シタルヲ以テ、助役**前田多門君**仍チ報告シテ曰ク、去ル九日ノ激震ニテ幡ケ谷ノ水道水路決潰シタリトノ報ニ接シ、私ハ水道課員ト共ニ時ヲ移サズ現場ヲ臨檢シタルニ、幡ケ谷ノ水道水路ノ隧道上、「ガープ」ノ頂ニナレル箇處二十一間ニ亘リ、最深二十尺、最淺十尺程ノ深サニ崩壞シ、土砂ハ地上ヨリ噴出シ

テ堤外ニ押出シ居レル狀況ナリキ、當時淀橋淨水場、本郷、芝兩貯水池ニ在ル水量ヲ計算スルニ、九、十ノ兩日ハ優ニ給水シ得ル狀態ニアリタルヲ以テ、十日迄ニハ應急工事ヲ完了セシムル豫定ニテ工事ニ著手シタリ、然ルニ折惡シク十日早朝ヨリ强烈ナル風雨アリ、此ノ荒天ノ爲メニ工事ノ能率ハ阻害サレ、爲メニ此ノ工事ヲ竣ヘタルハ深夜ニ及ベリ、一刻ヲ爭フ通水ノ應急工事トシテハ、木樋ヲ以テスルヲ便利ト爲スガ故ニ、本工事モ取敢ヘズ木樋ト爲セリ、木樋製作ニハ外郭ヲ板ニテ二重ニシ、其間ニ「マルソイド」ト云フ防水布ヲ取リツケ、更ニ內部ニ「トタン」ヲ張ル事トシテ其準備ヲ爲セルモ、風雨ノ爲メ「ハンダ」附ヲ爲ス能ハザリシヲ以テ、「トタン」張ハ差控ヘタリ、斯テ直チニ通水ヲ試ミント欲シタリシモ、時ハ既ニ深夜ニテ、殊ニ風雨激シク、爲メニ漏水ノ有無ヲ確知スル能ハズ、且ツ縱ヒ「マルソイド」ヲ取リ附ケアリトハ云ヘ、漏水シタル場合、崩壞シタル地盤ニ如何ナル影響ヲ與フルヤニ就キ頗ル憂慮シタリ、萬一漏水ノ爲メ更ニ地盤ノ崩壞ヲ强メ、新ニ決潰ヲ爲スガ如キ事アランカ、然ル場合ハ兩三日ノ斷水ニテハ到底應急工事ヲ完了スル能ハザル結果トナルヤモ測リ難キヲ以テ、此ノ「トタン」張工事中、足場ニ就イテモ更ニ一層ノ補强方法ヲ講ズル事トシタル爲メ、十一日遂ニ斷水ヲ已ムナクセシメタルハ遺憾ニ堪ヘズ、尙ホ木樋ヲ以テ通水セシムル事ハ、應急工事中ノ應急工事ナルヲ以テ、更ニ安心シ得ベキ大ナル給水工事ヲ爲サヾルベカラズ、仍テ直徑六尺ノ大鋼鐵管ヲ利用シ、反對側ノ土手ヲ掘鑿シテ、此處ニ其鐵管ヲ接續シテ通水セシムル工事ヲモ爲シツヽアリ、想フニ三四日後ニハ此ノ大鋼鐵管ヲ以テスル通水ヲ爲シ得ベシ、但シ新水路ノミニ據ル事ハ多少懸念ナキニアラザルヲ以テ、舊水路ヨリモ利用スル事トシ、舊水路ノ淨水場ニ最モ近キ處ニ喞筒ヲ備ヘ附ケ、萬一新水路ニ故障ノアリタル場合、舊水路ヨリ通水シ得ル處置ヲ講ジ置ク事モ緊要事ナルベシトノ事ニテ、目下此ノ工事ヲモ爲シツヽアリ、此ノ喞筒ノ設備ハ他日復舊工事ヲ爲ス場合ノ準備トシテモ必要ナリ、

以上ノ次第ニシテ、今後ハ再ビ過日ノ如キ事ヲ繰返サヾル考ヘナルヲ以テ、左樣諒承アランコトヲ望ムト。**尾中勝也君**、市長竝ニ助役ノ說明ニ據リ大體ハ諒解シ得タリ、只一言當局ニ希望セント欲ス、今後斷水ノ場合ハ今回ノ如キ不意打的ニ行ハズ、一兩日前、少クモ二十四時間前ニ於テ、一般市民ニ知ラシムルヤウ、適當ナル方法ヲ講ゼラレン事ヲト望ミ。**前田助役**ハ、今回ノ水路決潰ニ就イテハ先刻モ報告シタル如ク、十日ニ風雨ナカリセバ、同日中ニ應急工事ハ完了シ得ベカリシモノニテ、即チ斷水ハ前日ニ豫斷スル能ハザリシ狀態ニ在リシナリ、然ルニ風雨ノ爲メニ工事ノ能率ニ支障ヲ生ジ、斷水ノ告知遲延シタル爲メ、市民ニ多大ノ迷惑ヲ被ラシメタルハ、恐縮ノ至リニ堪ヘズ、當事者ノ責任ヲ輕減スル點ヨリセバ、速ニ斷水ノ告知ヲ爲スヲ以テ賢明ナル措置ナリトハ考ヘラルヽモ、一度ビ斷水ノ告知ヲ爲サンカ、各戶競テ汲置ヲ爲シ、其結果淨水場近クノ在住者ハ豐富ニ汲置キヲ爲シ得ベキモ、場末ニ行クニ從ヒ、豫定ノ斷水以前ニ早クモ斷水シ、爲メニ種々ナル不都合ヲ來スベキヲ慮リ、只管斷水ノ事ナカラシメト欲シ銳意努力シタリ、然レドモ其結果ハ却テ不良ニシテ遺憾ニ堪ヘズ、只事情ハ以上ノ次第ニシテ、漫然斷水ノ告知ヲ怠リ居タルモノニアラザルヲ諒承サレンコトヲ乞フト答ヘ、斯テ質疑應答ヲ打切レリ。

第八節　瓦斯供給改善及料金引下問題

▽市內瓦斯供給ニ關スル建議　二月九日ノ會議ニ於テ、竹下延保君外四名ヨリ左ノ建議提出アリ、異議ナク原案通可決セリ、

一、市內瓦斯供給ニ關スル建議

右提出候也

大正十年二月九日

提出者　竹下延保　早川庄太郎　田村彰一
　　大庭重治　伊東靖
贊成者　小泉策太郎　外六名

東京市會議長桐島像一殿

市內瓦斯供給ニ關スル建議

近時市內ニ於ケル東京瓦斯株式會社ノ瓦斯ノ供給方法頗ル不十分ナルモノアリ、當局者ハ至急其實際ヲ調査シ、本市民ノ爲メニ適當ノ措置ヲ採ラレムコトヲ望ム。

▽瓦斯料金引下其他瓦斯供給ニ關スル建議　八月二十九日ノ會議ニ於テ、作間耕逸君外四名ヨリ更ニ左ノ建議提出アリ。是レ亦異議ナク、直チニ原案通可決セリ。

一、瓦斯料金引下其他瓦斯供給ニ關スル建議

右提出候也

大正十年八月二十九日

提出者　作間耕逸　小久江美代吉　笠原文太郎
　　松崎英太郎　長町康夫

贊成者　野々山幸吉　外四十六名

東京市會議長宛

瓦斯料金引下其他瓦斯供給ニ關スル建議

一、東京瓦斯株式會社ハ曩ニ本市ノ承認ヲ經テ瓦斯料金ノ値上ケヲ實施シ來リタルモ、現ニ炭價及運賃ハ著シク低落シタルニ付、大正八年九月三十日附該會社ヨリ本市ニ差入レタル誓約書ニ基キ、市長ハ適當ニ瓦斯料金ノ引下ヲ要求シ、併セテ瓦斯供給ヲ圓滑ナラシムル爲、相當ノ措置ヲ採ラレムコトヲ望ム。

▽瓦斯料金値下及供給改善ニ關スル質疑應答　九月二十四日ノ會議ニ於テ、**村松恒一郎君**ハ理事者ニ問ウテ曰ク、去ル八月二十九日ノ會議ニ於テ作間君ヨリ提出サレタル建議案ハ、滿場一致ヲ以テ可決サレタリ、市理事者ハ此ノ建議案ヲ如何ナル方針ニ據リテ處理セントスル考ヘナリヤ、報償契約附屬覺書ニ據レバ、新需要者ニ對シテハ引用設備費等ハ總テ會社ニ於テ負擔スル事トナリ居レルニ拘ラズ、瓦斯會社ハ種々ナル口實ヲ設ケテ之ヲ拒絕シ、强ヒテ之ヲ請求セバ、多額ノ費用ヲ要求シ、他方在來ノ需要者ニ對シテハ、瓦斯ノ供給ヲ不充分ニシテ、各家庭ニ迷惑ヲ與ヘツツアリ、本員等ノ實驗ニ徵スルニ、「メートル」ノミ獨リ盛ニ廻轉スルモ、煮炊時ハ從來ノ二倍ヲ要シテ、尙ホ且ツ充分ナル煮炊ヲ爲ス能ハザル實狀ナリ、之ヲ專門家ノ說ニ聽クニ、煮炊充分ナラズシテ、「メートル」ノミ盛ニ廻轉スルハ、瓦斯ニ空氣ヲ混入スルガ爲メナリト、果シテ然ラバ會社ハ不正ナル利得ヲ爲シ居レルモノト云ハザルベカラズ、近時小賣商人ノ中、斤量ヲ欺キ、桝目ヲ僞レルモノアリトテ、警視廳其他ニ於テ嚴重ナル取締ヲ爲シツヽアリ、斤量ヲ僞レル小賣商人ノ行爲ハ勿論許スベカラザルト同樣ニ、空氣ヲ市民ニ供給シテ瓦斯料金ヲ徵收シツヽアル會社ノ行爲モ亦許サルベキニアラズ、殊ニ瓦斯ノ供給ハ獨占事業ナルヲ以テ、其及ボス被害ハ廣ク且ツ大ナリ、元來本市ハ會社

ニ對シテ直接何等ノ監督權ヲ有セズ、此ハ報償契約ノ不備ニ基因ス、海外ノ都市ニ於テハ、瓦斯會社ニ對シテ瓦斯ノ製造高、配給量、其他鐵管ノ埋設ニ至ルマデ、直接監督ヲ爲シ得ベキ條項ヲ掲ゲ居レリ、苟モ其市ノ道路ヲ獨占シ、其市ノ住民ニ向テ事業ノ獨占ヲ爲セル瓦斯會社ニ對シ、其市ガ相當ナル監督、相當ナル取締ヲ爲スベキハ、當然ノ措置ナルベシト本員ハ思惟ス、或一部ノ人々ハ、瓦斯會社ニ對シテ一面瓦斯料金ノ引下ヲ要求シ、他面瓦斯ノ供給ヲ充分ナラシムベシト强フルハ、瓦斯會社ヲ苦メ、瓦斯會社ノ株主ニ不利益ヲ與フルモノナリ、今日五割乃至七割ノ配當ヲ爲セル會社アルニ拘ハラズ、瓦斯會社ハ僅ニ九分ノ配當ニ過ギズ、然レドモ之ヲ諸外國ノ例ニ就イテ見ルモ、獨占事業ノ株券ニ對スル配當ハ、最低五分ヨリ最高ハ一割マデナリ、元來獨占事業ノ株券ハ、競爭相手アル他會社ノ株券トハ其性質ヲ異ニシ、殆ド公債ニ均シキ堅實味アルヲ以テ、配當率低キモ之ヲ手放サントスル者ナシ、故ニ株主ノ配當等ヲ云々スルガ如キハ、俗論ニシテ取ルニ足ラザルナリ。尙ホ今日既ニ瓦斯ノ供給不充分ニシテ、各家庭ニ於テ不便ヲ感ジツヽアル實狀ナルヲ以テ、需要ノ激增スル冬期ニ入ラバ、一層ノ不便アルベシトテ、何レモ憂慮シ居レリ、以上ノ諸點ニ就キ市理事者ノ所見如何ト。助役**永田秀次郎君**、村松君ノ質問ハ、後刻質問アルベキ天利君ノ趣意ト關聯シ居リ、理事者トシテ之ヲ區別シテ答辯スル能ハザルヲ以テ、天利君ノ質問アリタル後ニ於テセント欲ス如何ト諮リ、村松君始メ滿場異議ナカリシヲ以テ、議長ハ通告順ニ依リ、直チニ**天利庄次郎君**ヲ麾ケリ。天利君ハ質問ニ入ルニ先ダチ、質問趣意書ニ添附セル參考書ハ、自己ノ質問ノ趣意ヲ明カナラシムルニ必要ナリトテ、速記錄ニ之レガ登載方ヲ請求シ、滿場異議ナク之ヲ承認セリ。即チ左ノ如シ。

一、瓦斯料金値下ニ關スル質問趣意書

右九月二十四日ノ市會ニ提出候也

大正十年九月二十三日

提出者　天利庄次郎

贊成者　大庭重治外九名

東京市會議長桐島像一殿

瓦斯料金値下ニ關スル質問趣意書

一、瓦斯料金値下ニ關スル經過及理事者ノ見解如何

瓦斯料金値下ニ關スル質問趣意書添付參考書

瓦斯料金値下意見書

本市ト東京瓦斯株式會社トノ間ニ於テ、瓦斯供給ニ關シ明治四十四年十一月締結セル報償契約ニ基キ、大正七年十月會社ハ其料金値上承認ヲ本市ニ求メ、本市之レニ承認ヲ與フル際ニ於ケル其承認ノ條項第五ニ（炭價低落ノ場合、其他特別ノ事情ニヨリ市ガ瓦斯料金ノ引下ヲ要求シタル時ハ、會社ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス）トアリ、目下炭價激落セルノミナラス、左ノ特別理由アルニヨリ、此際本市內一般ノ需要者ニ對シ、會社ハ本年十月一日ヨリ瓦斯料金壹千立方呎ニ付金五拾錢（即チ現在一千立方呎ニ付、貳圓貳拾五錢ヲ壹圓七拾五錢トスルコト）ノ値下ヲ實行セラレンコトヲ望ム。

會社ハ大正七年十月瓦斯料金値上請願ヲ本市ニ爲セル際、瓦斯製造量ハ現在ノ四十三億立方呎（年額）ヲ以テ最高能力ナリトシ此以上ノ供給ニハ增資五百六拾萬圓ト爲シ、工場增設ノ上、製產量增加ヲ計ルノ外他ニ途無シトシテ此資金增加ニ伴フ利益增收ヲ一ノ値上理由トセリ。然ルニ會社ハ其後二年ヲ經ル今日ニ至リテモ、增資ヲ爲スコ